

第9章 社会教育

第1節 概要

1 社会教育一般

県社会教育委員の会議では、本県における社会教育推進や地域の教育力向上を目指した施策の成果及び課題を整理するとともに、様々な課題が多様化、複雑化、専門化した現代において「人づくり」「地域づくり」に取り組む社会教育の役割の重要性を鑑み、震災後14年を迎える今、数々の現代的課題を乗り越える社会教育の在り方について考え、議論した。このことを社会教育委員の立場から、進捗状況を検証してきた。（第2章 第7節に記載）

2 地域コミュニティの再生

震災からの復興のために、地域コミュニティを再生していくことが重要である。そのために、地域の実情に即して、学校・家庭・地域住民の連携・協力を進めるとともに、それぞれが主体的かつ確実にその役割を果たしながら、互いの役割分担を明確に認識し、対等な協働関係を築くことにより、社会総がかりでの教育の実現を目指す「地域学校協働本部事業」を実施した。地域住民による学校支援を「学校を核とした地域づくり」に深化させていくために、地域には地域コーディネーターを、学校には地域との連携の窓口となる地域連携担当教職員を置き、地域と学校が双方向で連携・協働する活動の充実を図った。特に、震災後の子どもたちを取り巻く環境の変化に対応するための支援を行い、教育環境の復興に努めた。

また、災害記録の保存と県民への情報提供に活用する資料の収集を行い、移動図書館や協力車の巡回を実施して読書普及を通じた支援を行った。

3 家庭教育

家庭教育は、子どもが基本的な生活習慣、生活能力、豊かな情操、他人に対する思いやりや善悪の判断などの基本的倫理観、自立心や自制心、社会的なマナーを身につける上で重要な役割を担っている。しかしながら、少子高齢化、高度情報化等、社会環境が激しく変化する現在、子育てに関する課題等も多様化している。そこで、PTAや企業との連携や支援の届かない家庭へのアウトリーチ型支援等、地域ぐるみで子どもたちを育む仕組みの構築に努め、「地域でつながる家庭教育応援事業」等を実施した。

4 青少年教育

青少年の豊かな人間性や社会性を育むためには、異年齢の子ども同士や地域の大人等の関わりのもと、自然体験、ボランティア活動、職業体験、交流体験、スポーツ・文化活動等の様々な体験の機会の充実や社会環境づくりが促進されることが必要である。そのため、「福島県地域学校協働本部」を設置し、学校・家庭・地域の連携・協力の充実を図りながら、

地域ぐるみで青少年を育成する環境づくりを推進した。また、子どもと大人が、共通の体験をとおして感動したことや共感したこと、震災からさらなる復興を願った「ふくしま」への想いや震災の記憶の継承などを日本古来の五・七・五の十七音で表現した作品を募集、表彰、広報する、ふくしま絆ふれあい支援事業「ふくしまを十七字で奏でよう」を実施した。

5 成人教育

地域における大人の持つ知識や技能、公民館等において学習した成果などを、地域社会に還元する活動の重要性が高まっていることから、地域の教育力の向上への取組と関連させながら、成人の学習活動の充実や社会参加活動の促進に努めた。

6 子どもの読書活動推進

第四次「福島県子ども読書活動推進計画」に基づき、関係機関と連携して、地域で子どもの読書活動を推進するボランティアの資質向上を図り、学校図書館への支援等もできる人材の養成に努めるとともに、福島県子ども読書活動推進会議を開催し、読書活動推進に向けた協議を行った。また、読書の楽しさや自ら進んで読書に親しむきっかけとする中高生によるビブリオバトル福島県大会を開催した。

さらに、これまでの成果と課題を踏まえ、第五次「福島県子ども読書活動推進計画」を策定した。

7 ユネスコ活動

ユネスコ憲章の精神に基づく教育・科学・文化活動についての理解を県民一般に広めるよう努めた。

8 チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業

(1) 事業1 ふくしまキッズパワーアップ事業

自然体験活動に加え福島ならではの多様な体験活動等とおして、心身の健康の維持向上を図るとともに、社会に貢献する意識を高め、主体的にふくしまの未来を切り拓く、たくましい子どもたちを育成するために「ふくしまキッズパワーアップ事業」を実施した。充実した自然体験活動や震災を学ぶ体験活動等への取組を支援し、心身ともに健康な子どもの育成を図る団体に対し、補助金を交付した。

(2) 事業2 「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業

子どもたちが主体的に復興の発信や震災の教訓の継承等に寄与する社会体験活動を県内外で広く体験することで、子どもたちの「志」を育み、復興・地域創生の担い手を育成するため、「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業を実施し、市町村や青少年育成団体等が実施する事業に対し、補助金を交付した。

(3) 事業3 心のケアが必要な子ども（不登校等）を対象とした自然体験事業

不登校等で不安を抱えている子どもたちを支援するために、自然の家を活用した自然体験活動や交流活動等を継続的に提供した。

第2節 社会教育一般

1 社会教育推進体制の充実

(1) 社会教育行政の推進

社会教育担当者会議

第1回 日 時 令和6年4月5日(金)

場 所 県庁西庁舎 西313会議室

第2回 日 時 令和7年2月14日(金)

場 所 県庁西庁舎 西313会議室

(2) 社会教育主事の設置

社会教育活動の充実を図るため、自然の家へ社会教育主事の配置を求めるなど設置促進に努めた。

(3) 社会教育関係職員の研修

ア 市町村の社会教育主事や公民館職員、図書館職員、社会教育指導員などの社会教育関係職員を対象とした研修機会の充実を図り、その資質向上に努めた。

イ 国立教育政策研究所等で実施する専門的な研修講座への計画的な派遣に努めた。

(4) 各種社会教育関係団体等との連携

地域の教育力向上を図る観点から、各種社会教育関係団体等の果たす役割や学校・家庭・地域住民の連携を促進するための活動が重要であるため、各種社会教育関係団体等との連携に努めた。

2 社会教育施設の整備充実

(1) 県立社会教育施設の整備充実

ア 県立図書館の整備充実

県民への図書館サービスの向上を図るため、図書館資料や設備・備品等の整備充実に努めるとともに、「県立図書館情報ネットワークシステム」を活用して公立図書館や公民館図書室、学校図書館等との連携の強化に努めた。

イ 福島県自然の家の整備充実

自然の中での集団宿泊体験を通して青少年の健全育成を図る場や機会を拡充するため、自然の家の整備充実に努めた。

(2) 市町村立社会教育施設の整備促進

公民館の整備促進

地域住民のための学習の拠点となる社会教育施設として、多様化した学習ニーズに的確に対応し、充実した公民館活動が行われるよう、市町村に対し、長期的な展望に立った施設・設備の在り方について助言した。

3 社会教育関係職員の研修

(1) 公民館職員研修会

ア 期日 令和6年5月29日(水)、6月5日(水)

イ 会場 オンライン研修、参集研修(男女共生センター)

ウ 参加対象 市町村公民館職員でおおむね3年未満の者

及び社会教育関係者

エ 参加者数 29日83名、5日85名

オ 講師

網走市オホーツク・文化交流センター館長 湯浅 崇

君津市教育委員会生涯学習文化課副課長 布施 利之

一般社団法人とちぎ市民協働研究会理事 土戸 英理佳

(2) 福島県市町村社会教育担当者研修会

ア 期日 令和6年8月1日(木)、2日(金)

イ 会場 オンライン研修、参集研修(男女共生センター)

ウ 参加対象 市町村教育委員会生涯学習・社会教育担当者、社会教育主事、公民館主事、社会教育委員、社会教育指導員、公民館運営審議会委員、ボランティア実践者、地域コーディネーター等の社会教育に関心のある県民、過去に社会教育主事講習を受講した方等

エ 参加者数 1日31名、2日23名

オ 講師

弘前圏域移住交流デザイナー

野口 拓郎

和歌山大学名誉教授

村田 和子

宇都宮大学地域デザイン科学部教授

石井 大一郎

4 社会教育研究集会

(1) 主催 福島県市町村社会教育委員連絡協議会

一般社団法人全国社会教育委員連合

(2) 期日 令和6年9月27日(金)

(3) 開催地 須賀川市 須賀川市民交流センターtetteほか

(4) 内容 令和6年度福島県社会教育研究集会

ア 表彰式

イ 基調講演

講師 福島大学人間発達文化学類特任教授 天野 和彦

ウ 分科会(4分科会)

5 社会教育指導員の設置

(1) 設置数 (単位:人)

	県 北	県 中	県 南	会 津	南 会 津	相 双	い わ き	計
社会教育指導員数	36	9	12	57	8	12	6	140

(2) 福島県市町村社会教育指導員研修会(年2回)

ア 第1回

(ア) 期日 令和6年5月16日(木)

(イ) 会場 郡山市立中央公民館

(ウ) 参加者数 88名

イ 第2回

(ア) 期日 令和6年9月27日(金)

(イ) 会場 サンライフ南相馬

(ウ) 参加者数 87名

6 社会教育主事の市町村派遣

※ 平成22年度より派遣していない。

7 社会教育研修会

(1) 内容

社会教育推進上の諸問題についての協議等を通してその方策を明らかにし、市町村における社会教育の振興・充実に資する。

市町村職員及び社会教育委員等を対象として希望市町村の計画に基づき実施する。

(2) 対象

公民館職員、公民館運営審議会委員、社会教育委員、社会教育関係者

(3) 期日・会場

域 内	期 日	実施市町村等	参加者
県 北	10月1日	大玉村	34名
	10月29日	国見町	8名
県 中	10月23日	古殿町	4名
県 南	5月27日	中島村	13名
	6月18日	泉崎村	16名
	7月8日	矢吹町	12名
会 津	7月9日	金山町	5名
	7月18日	柳津町	7名
	1月22日	猪苗代町	9名
南会津	10月23日	下郷町	14名
相 双	8月7日	広野町	7名
	11月26日	大熊町	11名
	11月29日	飯館村	30名
いわき	5月22日	いわき市	129名
	5月28日	いわき市	
	5月29日	いわき市	
	1月28日	いわき市	91名

合計 17か所 参加者 390名

8 福島県公民館研究集会

(1) 期 日 令和6年10月9日(水)

(2) 参加対象 公民館職員等

(3) 会 場 郡山市立中央公民館

9 社会教育職員研修派遣

(1) 東北大学社会教育主事講習

ア 主催 東北大学教育学部

イ 期日 令和6年6月14日(金)～8月6日(火)

ウ 受講者数 13名

(2) 国立教育政策研究所主催講習

ア 社会教育主事講習

(ア) 会場 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター

(イ) 期日

a A講習 令和6年7月12日(金)～8月29日(木)

b B講習 令和7年1月14日(火)～2月20日(木)

(ウ) 受講者数

a A講習 0名

b B講習 4名

イ 専門講座等

講 座 名	期 間	受講者数
公民館職員専門講座	10月3日(木)～8日(火)	1

10 出版資料

資 料 名	部 門	規格	頁数	広報手段
社会教育 No.345	社会教育	A4	14	We b掲載

第3節 地域コミュニティの再生

1 地域学校協働本部事業

(1) 目的

未来を担う子どもたちを健やかに育むために、学校と地域が相互に連携・協力を進めるとともに、互いの役割を明確に認識し対等な協働関係を築くことにより、社会総がかりでの教育の実現を目指す。

(2) 県事業

ア 評価・検証委員会の設置

第1回 令和6年7月26日(金)

第2回 令和6年11月29日(金)

第3回 令和7年2月28日(金)

イ 推進委員会の開催

第1回 令和6年7月10日(水)

第2回 令和6年10月2日(水)

ウ 地域学校協働活動事業推進フォーラムの実施

(ア) 期日：令和7年2月4日(火)

(イ) 会場：ビッグパレットふくしま

(ウ) 参加者数：137名

(エ) 内容

a 実践発表

南会津町放課後子ども教室コーディネーター 中山 美華

檜葉町地域学校協働センター長 猿渡 智衛

b 情報提供

日本漢字能力検定協会自治体担当リーダー 三原 和敏

c 情報交換会

(a) ファシリテーター

郡山ふれあい科学館 特定事業専門員 吉川 和夫

(b) 登壇者

檜葉町地域学校協働センター長 猿渡 智衛

南会津町放課後子ども教室コーディネーター 中山 美華

エ 地域学校協働研修会の実施 参加者計 239名

【県北】令和6年6月7日(金) 47名

【県中】令和6年8月1日(木) 28名

【県南】令和6年5月10日(金) 35名

【会津】令和6年8月5日(月) 36名

【南会津】令和6年10月22日(火) 57名

【相双】令和6年11月22日(金) 36名

(3) 市町村等事業

41 の市町村（川俣町、国見町、二本松市、大玉村、本宮市、須賀川市、鏡石町、天栄村、石川町、田村市、三春町、小野町、白河市、西郷村、矢吹町、棚倉町、埴町、矢祭町、鮫川村、会津若松市、猪苗代町、喜多方市、西会津町、会津坂下町、湯川村、柳津町、会津美里町、三島町、金山町、南会津町、下郷町、只見町、相馬市、南相馬市、浪江町、葛尾村、双葉町、富岡町、川内村、楡葉町、広野町）と1NPOに58の地域学校協働本部が設置され実施した。

2 東日本大震災福島県復興ライブラリー整備事業

(1) 目的

災害記録の保存と県民への情報提供のため、関連資料の収集を行う。資料は館内での提供と貸出に加え、出張展示にも活用する。また、避難自治体の教育委員会と連携し学校等への移動図書館（あづま号）の巡回を実施し、資料の貸出による支援を行う。

(2) 内容

- ア 震災及び原発事故関連資料収集
資料収集件数 16,058 件（累計）
- イ 被災地図書館支援事業
移動図書館（あづま号）による資料貸出
稼働 19 回 貸出 4,673 冊
（実施場所 楡葉町、大熊町ほか 計 32 か所）

第4節 家庭教育

地域でつながる家庭教育応援事業

1 目的

本県の家庭教育推進上の大きな課題である「親の学び」を支援するために、PTA、企業と連携し、親自身が学ぶ機会の充実を図る。また、各地域で活躍する家庭教育支援者の養成・育成をする研修会を実施するとともに、子育てに不安や悩みを抱える家庭に対し個別かつ継続的に支援を行う「家庭教育支援チーム」の登録・研修を行い、地域や関係機関と連携した家庭教育の支援体制の構築を図る。

2 家庭教育応援プロジェクト

(1) 福島県地域家庭教育推進協議会

- 第1回 令和6年7月22日(月)
- 第2回 令和7年2月12日(水)

(2) 地域家庭教育推進各地区ブロック会議

各教育事務所域内（7地区）

(3) 親子の学び応援講座

【県北地区】

- ・川俣町PTA連絡協議会 235名
令和6年11月14日(木)

【県中地区】

- ・天栄村立天栄中学校PTA 175名
令和6年12月11日(水)

【県南地区】

- ・泉崎村立泉崎第二小学校PTA 108名
令和6年9月11日(水)

【会津地区】

- ・新鶴こども園保護者会 69名
令和6年7月4日(木)
- ・喜多方市立山都小中連合PTA 75名
令和6年7月17日(水)

【南会津地区】

- ・只見町立只見中学校PTA 120名
令和6年7月12日(金)
- ・南会津町立南郷小学校PTA 67名
令和6年11月22日(金)

【相双地区】

- ・相馬市立学校PTA連絡協議会 43名
令和6年11月30日(土)

【いわき地区】

- ・いわき市立豊間小学校PTA 178名
令和6年6月24日(月)
- ・いわき市立中央台南中学校PTA 332名
令和6年11月22日(金)
- ・いわき市立赤井小学校PTA 151名
令和6年12月3日(火)

(4) 家庭教育応援企業推進活動

連携企業数

（単位：社）	前年度累計	新規	取り下げ	今年度累計
県北地区	196	2	1	197
県中地区	255	6	1	260
県南地区	73	0		73
会津地区	159	2		161
南会津地区	66	0		66
相双地区	10	2		12
いわき地区	317	0		317
計	1,076	12	2	1,086

3 家庭教育応援リーダー育成事業

(1) 家庭教育支援チームスキルアップ研修会

- 第1回 令和6年12月18日(水) 42名

(2) 家庭教育支援者地区別研修

7地区 247名

- 【県北】 令和6年11月28日(木) 44名
- 【県中】 令和6年11月30日(土) 32名
- 【県南】 令和6年7月10日(水) 23名
- 【会津】 令和6年7月31日(水) 32名
- 【南会津】 令和6年8月3日(土) 59名

【相双】令和6年11月8日(金)	23名
【いわき】令和6年10月25日(金)	34名

第5節 青少年教育

1 福島県地域学校協働本部

(1) 目的

青少年及びその保護者の教育活動等を支援するボランティア制度を整備し、学校・家庭・地域における体験活動やボランティア活動の充実を図るとともに、学校と地域が連携したすべての教育活動を一層効果的・効率的に展開することにより、青少年の社会性や思いやりの心など豊かな人間性を育むことを目的とする。

(2) 内容

ア 県本部の設置

(ア) 構成

- ・本部長（政策監）
- ・副本部長（教育総務課長）
- ・事務局長（社会教育課長）
- ・コーディネーター（社会教育主事、指導主事）

(イ) 内容

- ・「学習支援等ボランティア人材バンク」の管理と学習支援等ボランティア等(以下「ボランティア」という。)の登録促進に関する事
- ・ボランティアの活動を推進する研修に関する事
- ・実践事例などの情報収集や情報提供、実施状況調査に関する事
- ・地域本部との連絡調整、相談やコーディネートに関する事

イ 地域本部の設置

(ア) 構成

- ・本部長（教育事務所長）
- ・副本部長（次長兼総務社会教育課長）
- ・コーディネーター（社会教育主事、指導主事）

(イ) 内容

- ・公民館及び学校の訪問指導に関する事
- ・ボランティア人材の発掘と「学習支援等ボランティア人材バンク」の活用に関する事
- ・ボランティアの活動を推進する研修に関する事
- ・市町村本部との連絡調整、相談やコーディネートに関する事
- ・各学校（地域学校協働推進委員会等）との連絡調整に関する事
- ・地方振興局（復興支援・地域連携室を含む）との連絡調整に関する事

ウ 市町村本部の設置

(ア) 構成

- ・各市町村内においては、自主的に地域学校協働本部・市町村本部を設置する。
- ・各市町村本部の人数は各本部の計画による。

(イ) 内容

- ・ボランティア活動を推進するための、情報提供・相談及びコーディネートに関する事
- ・各種ボランティアの登録や活用の推進及び活用状況の把握に関する事
- ・域内各学校との連携に関する事

エ 「地域学校協働推進委員会」の設置

(ア) 構成

- ・各学校内に地域学校協働推進委員会を設置する。
- ・地域学校協働推進委員会の組織は各学校の計画による。

(イ) 内容

- ・学校と地域が連携した取組の調整に関する事
- ・学校と地域が連携した取組の連絡や情報収集に関する事
- ・学校と地域が連携した取組の充実に関する事
- ・福島県地域学校協働本部事業における地域学校協働推進委員会に関する事

オ 「学習支援ボランティア人材バンク」の管理

学校や地域における青少年の学習活動や体験活動、児童生徒が行うボランティア活動を支援する団体及び人材の登録を行う。

2 ふくしま絆ふれあい支援事業

(1) 目的

「ふくしまを十七字で奏でよう」においては、日常生活や自然・社会体験活動などの共通体験を通して感じた思いや願い、震災を乗り越えてきた体験や、ふくしまへの想いなどについて、子どもと大人あるいは子ども同士のペアで、十七音で綴った作品を県内外から募集し、広く発信することで、子どもの豊かな心を育成するとともに、人と人との絆を深め、家庭や地域の教育力の向上を目指す。

語り部から聞く震災「ふるさととの今と未来」においては、震災当時のことを語り部から伝え聞き、震災の記憶を継承する。また、参加した児童生徒は「ふくしまを十七字で奏でよう」での作品創作を通して、豊かな心を醸成する。

(2) ふくしまを十七字で奏でよう

ア 応募期間	令和6年6月10日(月)～9月6日(金)
イ 応募総数	38,069組
ウ 第一次審査	令和6年9月13日(金)～27日(金)
エ 第二次審査	令和6年10月21日(月)あづま荘
オ 最終審査	令和6年11月8日(金)福島県庁西庁舎
カ 表彰式	令和6年12月7日(土) 公立学校共済組合飯坂保養所「あづま荘」
キ 入賞数	絆部門・ふるさと部門 最優秀賞各5組、優秀賞各5組、 佳作各10組
ク 広報・普及活動	
・ 募集・応募	県内各保育所、認定こども園、幼稚園、小・中学校、 高等学校、義務教育学校、特別支援学校、社会教育施

設、教育事務所等にチラシ・応募用紙を配布した。また、社会教育課のホームページ、社会教育課noteに掲載した。

・ 事後の広報

優秀作品を社会教育課のホームページに掲載したほか、作品集の作成、全応募者、後援団体等への作品集配布や社会教育課note、YouTube、X、Instagram、県庁パネル展示等により紹介した。各教育事務所においては、域内の作品集を作成し、事業の普及に努めた。

(3) 語り部から聞く震災「ふるさとの今と未来」

希望する学校に講師（語り部）を派遣し実施

	8校	755名
・ 白河市立白河第二小学校 5年生	104名	
令和6年6月21日(金)		
・ 喜多方市立松山小学校 6年生	23名	
令和6年6月27日(木)		
・ 南会津町立田島第二小学校 5・6年生	55名	
令和6年6月28日(金)		
・ 二本松市立二本松北小学校 1～6年生	335名	
令和6年6月28日(金)		
・ 福島県立会津支援学校竹田校中学部 3年生	4名	
令和6年7月4日(木)		
・ 玉川村立須釜小学校 4年生	20名	
令和6年7月10日(水)		
・ 白河市立白河第二中学校 1年生	175名	
令和6年7月12日(金)		
・ 下郷町立檜原小学校 4～6年生	39名	
令和6年7月16日(火)		

第6節 成人教育

主に各関係団体の諸活動や研修会における指導助言や人的補助を行う。

第7節 子どもの読書活動推進

1 ふくしまの未来をひらく読書の力 プロジェクト

(1) 目的

学校や図書館等で活躍できる読書ボランティア等の人材育成や資質向上を図るとともに、学校・家庭・地域が連携して子どもの読書活動を推進し、子どもたちの豊かな心や生きる力の育成を図る。また、乳幼児期から思春期に至る切れ目のない読書活動の推進により、生涯にわたる望ましい読書習慣の形成を目指す。

(2) 読書活動推進事業

福島県子ども読書活動推進会議
第1回 令和6年6月27日(木)
第2回 令和7年2月6日(木)

(3) 読書活動支援者育成事業

読書活動支援者育成事業地区別研修	7地区	290名
【県北】令和6年7月7日(日)	54名	
【県中】令和6年6月18日(火)	47名	
【県南】令和6年10月17日(木)	16名	
【会津】令和6年7月22日(月)	50名	
【南会津】令和6年8月22日(木)	24名	
【相双】令和6年7月25日(木)	20名	
【いわき】令和6年6月10日(月)	48名	
令和6年11月30日(土)	31名	

(4) 情報発信プロジェクト「ビブリオバトル福島県大会」

ア 地区予選会

発表者 中学生 38名 高校生 36名 観戦者 757名

【県北】令和6年9月1日(日)

発表者 中学生 6名 高校生 5名 観戦者 107名

【県中】令和6年8月31日(土)

発表者 中学生 7名 高校生 10名 観戦者 133名

【県南】令和6年8月31日(土)

発表者 中学生 6名 高校生 2名 観戦者 120名

【会津】令和6年8月31日(土)

発表者 中学生 5名 高校生 5名 観戦者 107名

【南会津】令和6年9月28日(土)

発表者 中学生 5名 高校生 4名 観戦者 108名

【相双】令和6年9月7日(土)

発表者 中学生 4名 高校生 3名 観戦者 63名

【いわき】令和6年9月28日(土)

発表者 中学生 5名 高校生 7名 観戦者 119名

イ 県大会

期日 令和6年10月12日(土)

場所 福島県立図書館（福島市）

参加者 発表者 14名（中学生 7名、高校生 7名）

観戦者 161名

【中学生の部】

チャンプ本 「アリアドネの声」

西会津町立西会津中学校 山口 紗弥

準チャンプ本 「私はチクワに殺されます」

南会津町立田島中学校 細井 みず保

【高校生の部】

チャンプ本 「あと十五秒で死ぬ」

福島県立葵高等学校 細井 淳一朗

準チャンプ本 「恋とそれとあと全部」

福島県立福島東高等学校 長澤 真志

2 第五次 福島県こども読書活動推進計画作成事業

(1) 目的

子供の読書活動の推進に関する基本的な計画（令和5年3月）及びこれまでの取組や成果と課題を踏まえ、福島県における子どもの読書活動の推進に関する施策の方向性や具体的な取組を示し、子どもたちの豊かな心や生きる力の育成を図る。

(2) 子ども読書活動推進計画作成事業

第五次「福島県子ども読書活動推進計画」作成委員会会議

第1回 令和6年6月27日(木)

第2回 令和6年9月12日(木)

第3回 令和6年11月14日(木)

第4回 令和7年2月6日(木)

令和7年3月 第五次計画策定

第8節 ユネスコ活動

1 ユネスコ協会事務局一覧

協会名	会長名	事務局	事務局長	設立年月日
須賀川地方ユネスコ協会	八木沼 智恵子	須賀川市市民協働推進課内 須賀川市中町4-1	鈴木 行宏	S46. 9. 13
いわきユネスコ協会	横山 貞夫	いわき市教委生涯学習課内 いわき市堂根町4-8	渡邊 隆	S51. 10. 23
郡山ユネスコ協会	倉又 晴男	学校法人尚志学園本部内 郡山市大槻町字坦ノ腰2	橋本 裕	S53. 1. 24
白河ユネスコ協会	小野 利廣	白河市教育委員会生涯学習課内 白河市八幡小路7-1	松本 美紀	S53. 11. 19
福島ユネスコ協会	佐藤 一好	福島市教育委員会生涯学習課内 福島市五老内町3-1	羽田 利秋	S55. 7. 19
会津ユネスコ協会	星 憲隆	会津若松市教委生涯学習センター内 会津若松市栄町3-50	石田 明夫	S55. 11. 16
郡山次世代ユネスコ協会	鈴木 淳弥	株式会社鈴弥洋行内 郡山市備前館2-6	鈴木 康弘	H28. 1. 16
福島県ユネスコ連絡協議会	小野 利廣	福島市方木田字辻51-12 矢吹 稔宅	矢吹 稔	S56. 12. 5

2 福島県ユネスコ活動研修会

令和6年11月12日(火) 会津若松市ピカリンホール(会津若松市) 参加者 40名

第9節 チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業

1 目的

東日本大震災の経験を踏まえ、子どもたちが充実した自然体験活動等を行う機会を通して心身ともに健康で、豊かな人間性の育成を図るとともに、社会体験活動を通して、主体的に復興に寄与する、新生ふくしまを担うたくましい子どもたちの育成を図る。

2 ふくしまキッズパワーアップ事業

(1) 対象

ア 対象者

福島県内の小中学校及び特別支援学校小学部・中学部、福島県内の小中学生が所属する社会教育団体

イ 対象期間

令和6年4月1日(月)から令和7年2月28日(金)

(2) 実績

ア 小・中学生を対象とした自然体験活動及び震災を学ぶ活動等多様な体験活動への支援

件数 169件 参加者 9,399名(内子ども8,524名)

イ 長期宿泊型(3泊4日以上)自然体験活動及び震災を学ぶ活動等多様な体験活動を行う団体への支援

件数 0件 参加者 0名(内子ども0名)

3 「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業

(1) 内容

ア 元気を届ける交流・体験事業

被災地や復興住宅等を訪問し、被災者や避難者と交流することを通して、元気を創出する活動への支援

イ 今を知り思いを伝える事業

被災地や震災関連施設等を訪問し、被災者や避難者との交流・協働等することを通して、地域の復興について主体的に考え、発信する活動への支援

(2) 実績

採択 24団体(事業1 1団体、事業2 23団体)

(3) 成果発表会

日時 令和7年1月25日(土) 参加者 183名

場所 郡山市労働福祉会館(郡山市)

4 心のケアが必要な子どもを対象とした自然体験事業

(1) 内容

県内3自然の家(会津・郡山・いわき)を会場に、不登校等で不安を抱えている子どもたちを対象に、自然

体験活動や交流体験活動等を実施する。

ウ いわき 5回実施 参加者 56 名（内子ども 28 名）

(2) 実績 計 23 回実施 参加者 372 名（内子ども 211 名）

※主な活動：磯遊び、野外炊飯、スポーツ活動等

ア 会津 13 回実施 参加者 251 名（内子ども 149 名）

※主な活動：アスレチック、室内オリエンテーリング、自然散策等

イ 郡山 5 回実施 参加者 65 名（内子ども 34 名）

※主な活動：フィールドワーク、ナイトハイク、クラフト活動等

第 10 節 公民館等社会教育施設

1 公民館を除く主な社会教育施設

※震災により休館中の施設を含む

(1) 図書館の設置状況

ア 県立

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
福島県立図書館	福島市森合字西養山 1	024-535-3218	福島県

イ 市町村立

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
福島市立図書館	福島市松木町 1－1	024-531-6551	福島市
福島市西口ライブラリー	福島市三河南町 1－20	024-525-4023	福島市
福島市子どもライブラリー	福島市早稲町 1－1（こむこむ内）	024-526-4200	福島市
伊達市立図書館	伊達市箱崎字川端 7	024-551-2132	伊達市
国見町図書館	国見町藤田字観月台 15	024-585-2676	国見町
二本松市立二本松図書館	二本松市本町 1 丁目 102 番地	0243-23-5082	二本松市
二本松市立岩代図書館	二本松市小浜字藤町 242 番地	0243-55-3255	二本松市
本宮市立しらさわ夢図書館	本宮市白岩字堤崎 500	0243-44-2112	本宮市
郡山市中央図書館	郡山市麓山一丁目 5－25	024-923-6601	郡山市
郡山市希望ヶ丘図書館	郡山市希望ヶ丘 1－5	024-961-1600	郡山市
郡山市安積図書館	郡山市安積一丁目 38	024-946-8850	郡山市
郡山市富久山図書館	郡山市富久山町福原字泉崎 181－1	024-921-0030	郡山市
郡山市中央図書館 田村分館	郡山市田村町岩作字穂多礼 40－3	024-955-3842	郡山市
郡山市中央図書館 喜久田分館	郡山市喜久田堀之内字下河原 1	024-959-2205	郡山市
郡山市中央図書館 緑ヶ丘分館	郡山市緑ヶ丘東三丁目 1－21	024-944-0001	郡山市
郡山市中央図書館 日和田分館	郡山市日和田町字小堰 23－4	024-958-2352	郡山市
郡山市中央図書館 三穂田分館	郡山市三穂田町八幡字東屋敷 6	024-953-2820	郡山市
郡山市中央図書館 中田分館	郡山市中田町下枝字大平 358	024-973-2951	郡山市
郡山市中央図書館 西田分館	郡山市西田町三町目桜内 259	024-972-2807	郡山市
郡山市中央図書館 大槻分館	郡山市大槻町字中前田 56－1	024-951-1512	郡山市
郡山市中央図書館 熱海分館	郡山市熱海町熱海二丁目 15－1	024-984-2679	郡山市
郡山市中央図書館 湖南分館	郡山市湖南町福良字家老 9390－4	024-983-2543	郡山市
郡山市中央図書館 富田分館	郡山市東三丁目 84 番地	024-951-0260	郡山市
郡山市中央図書館 逢瀬分館	郡山市逢瀬町多田野字南原 3 番地	024-957-2417	郡山市
郡山市中央図書館 片平分館	郡山市片平町字南 7－2	024-957-5730	郡山市
須賀川市中央図書館	須賀川市中町 4－1	0248-75-3309	須賀川市
須賀川市長沼図書館	須賀川市長沼字金町 85	0248-67-2138	須賀川市
須賀川市岩瀬図書館	須賀川市柱田字中地前 22	0248-65-3549	須賀川市
鏡石町図書館	鏡石町旭町 440－6	0248-62-1288	鏡石町
天栄村生涯学習センター内図書室	天栄村大字下松本字原畑 66	0248-82-2504	天栄村
石川町立図書館	石川町字関根 165	0247-26-9136	石川町
浅川町立あさかわ図書館	浅川町大字簗輪字山敷田 75	0247-36-2900	浅川町

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
古殿町図書館	古殿町大字松川字横川 235	0247-53-2305	古殿町
三春町民図書館	三春町字大町 12-1	0247-62-3375	三春町
小野町ふるさと文化の館	小野町大字小野新町字中通 2	0247-72-2120	小野町
田村市図書館本館	田村市船引町船引字扇田 19	0247-82-1001	田村市
田村市図書館滝根分館	田村市滝根町神俣字町 48-1	0247-78-2001	田村市
田村市図書館大越分館	田村市大越町上大越字水神宮 62-1 大越行政局内	0247-79-2161	田村市
田村市図書館常葉分館	田村市常葉町常葉字町裏 1	0247-77-2013	田村市
田村市図書館都路分館	田村市都路町古道字本町 33-4	0247-75-2063	田村市
白河市立図書館	白河市道場小路 96-5	0248-23-3250	白河市
白河市立表郷図書館	白河市表郷金山字長者久保 2	0248-32-4784	白河市
白河市立東図書館	白河市東釜子字狐内 47	0248-34-1130	白河市
白河市立大信図書館	白河市大信町屋字沢田 25	0248-46-3614	白河市
矢吹町図書館	矢吹町本町 165	0248-44-3595	矢吹町
泉崎図書館	泉崎村大字泉崎字館 24-9	0248-53-4779	泉崎村
棚倉町立図書館	棚倉町大字棚倉字新町 21-1	0247-33-4342	棚倉町
塙町立図書館	塙町大字塙字栄町 68-6	0247-43-0808	塙町
矢祭もったいない図書館	矢祭町大字東館字石田 25	0247-46-4646	矢祭町
鮫川村図書館	鮫川村大字赤坂中野字新宿 64-1	0247-29-1150	鮫川村
会津図書館	会津若松市栄町 3-50	0242-22-4711	会津若松市
猪苗代町図書館歴史情報館 和みいな	猪苗代町字古城町 132-7	0242-23-7855	猪苗代町
喜多方市立図書館	喜多方市字柳原 7503-1	0241-22-1855	喜多方市
柳津中央公民館図書館	郡柳津町大字柳津字下平乙 242-2	0241-42-3511	柳津町
会津美里町図書館	会津美里町字新布才地 1	0242-54-2911	会津美里町
南会津町図書館	南会津町田島字宮本東 22	0241-62-5522	南会津町
新地町図書館	新地町谷地小屋字樋掛田 40-1	0244-62-5031	新地町
相馬市図書館	相馬市中村字塚ノ町 65-16	0244-37-2630	相馬市
南相馬市立中央図書館	南相馬市原町区朝日町二丁目 7-1	0244-23-7789	南相馬市
南相馬市立鹿島図書館	南相馬市鹿島区寺内字迎田 22-1	0244-46-5116	南相馬市
南相馬市立小高図書館	南相馬市小高区本町二丁目 89-1	0244-44-3049	南相馬市
飯館村交流センター	飯館村草野字大師堂 17	0244-42-0072	飯館村
浪江町図書館	浪江町権現堂字矢沢町 40-1	0240-23-5613	浪江町
葛尾村村民会館図書室	葛尾村大字落合字落合 16	0240-29-2008	葛尾村
大熊町図書館（休館中）	大熊町大川原南平 1717	0240-23-7532	大熊町
富岡町図書館	富岡町大字本岡字玉塚 622-1	0240-21-3665	富岡町
広野町図書室	広野町大字下北迫字苗代替 35	0240-27-3211	広野町
いわき市立いわき総合図書館	いわき市平字田町 120	0246-22-5552	いわき市
いわき市立内郷図書館	いわき市内郷綴町榎下 40-1	0246-45-1030	いわき市
いわき市立小名浜図書館	いわき市小名浜愛宕上 7-2	0246-54-9257	いわき市
いわき市立常磐図書館	いわき市常磐関船町作田 1-1	0246-44-6218	いわき市
いわき市立勿来図書館	いわき市植田町南町一丁目 2-2	0246-62-7431	いわき市
いわき市立四倉図書館	いわき市四倉町字東一丁目 50	0246-32-5980	いわき市

ウ 法人

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
クローバー子供図書館	郡山市開成 6 丁目 346-1	024-932-2118	公益財団法人金森和心会

(2) 博物館の設置状況

ア 登録博物館（※改正博物館法が、令和5年4月1日に施行され、経過措置期間中に改めて登録申請が必要とされる。）

名 称	所 在 地	電話番号	設置者	種別	登録年月日
福島県立美術館	福島市森合字西養山 1	024-531-5511	福島県	美術博物館	R6. 6. 18
福島県立博物館	会津若松市城東町 1-25	0242-28-6000	福島県	総合博物館	R6. 6. 18
須賀川市立博物館	須賀川市池上町 6	0248-75-3239	須賀川市	歴史博物館	S46. 7. 10
いわき市立美術館	いわき市平字堂根町 4-4	0246-25-1111	いわき市	美術博物館	S59. 9. 3
郡山市立美術館	郡山市安原町字太谷地 130-2	024-956-2200	郡山市	美術博物館	H5. 1. 20
南相馬市博物館	南相馬市原町区牛来字出口 194	0244-23-6421	南相馬市	総合博物館	H8. 5. 9
野口英世記念館	猪苗代町大字三ツ和字前田 81	0242-85-7867	(公財)野口英世記念会	歴史博物館	S29. 10. 21
会津民俗館	猪苗代町大字三ツ和字前田 33-1	0242-65-2600	会津民俗館	歴史博物館	S55. 10. 3
奥会津博物館	南会津町糸沢字西沢山 3692-20	0241-66-3077	南会津町	歴史博物館	R7. 1. 9
諸橋近代美術館	北塩原村大字桧原字剣ヶ峰 1093-23	0241-37-1088	(公財)諸橋近代美術館	美術博物館	H11. 8. 17
藤田記念博物館	白河市二番町 46-1	0248-24-1780	(公財)藤田教育振興会	美術博物館	S54. 9. 1
郡山開成学園生活文化博物館	郡山市開成 3-25-2	024-932-4848	(学)郡山開成学園	歴史博物館	R5. 10. 4
ふくしま海洋科学館	いわき市小名浜字辰巳町 50	0246-73-2528	福島県	水族館	R6. 4. 1

イ 博物館相当施設

名 称	所 在 地	電話番号	設置者	種別	指定年月日
安積歴史博物館（休館中）	郡山市開成 5-25-63	024-938-0778	(公財)安積歴史博物館	歴史博物館	S61. 3. 17
会津武家屋敷会津歴史資料館	会津若松市東山町大字石山字院内 1	0242-28-2525	(株)会津武家屋敷	歴史博物館	S56. 11. 25
龍が城美術館（休館中）	いわき市平字旧城跡 27-1	0246-22-1601	(一財)白龍会	美術博物館	S30. 2. 10
やないづ町立齋藤清美術館	柳津町柳津字下平乙 187	0241-42-3630	柳津町	美術博物館	H11. 9. 28
磐梯山噴火記念館	北塩原村桧原字剣ヶ峰 1093-36	0241-32-2888	(株)ゴールドハウス目黒	科学博物館	H5. 7. 1
會津藩校日新館	会津若松市河東町南高野字高塚山 10 番地	0242-75-2525	(株)会津武家屋敷	歴史博物館	H12. 11. 28
はじまりの美術館	猪苗代町新町 4873	0242-62-3454	(福)安積愛育園	美術博物館	H28. 12. 6
喜多方市美術館	喜多方市市押切 2-2	0241-23-0404	喜多方市	美術博物館	R7. 3. 31

ウ 類似施設

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
福島県文化財センター白河館	白河市白坂一里段 86	0248-21-0700	福島県
福島県歴史資料館	福島市春日町 5-54	024-534-9195	福島県
福島市郷土資料室	福島市松山町 39-1	024-563-7858	福島市
福島市民家園	福島市上名倉字大石前地内	024-593-5249	福島市
福島市古関裕而記念館	福島市入江町 1-1	024-531-3012	福島市
福島市写真美術館	福島市森合町 11-36	024-523-1201	福島市
宮城遺跡史跡公園体験学習施設	福島市岡島字宮田 78	024-573-0015	福島市
羽山の森美術館	川俣町大字西福沢字山柁内 20	024-566-3367	川俣町
伊達市梁川美術館	伊達市梁川町字中町 10	024-527-2656	伊達市
伊達市保原歴史文化資料館	伊達市保原町大泉字宮脇 265	024-575-1615	伊達市
霊山こどもの村 遊びと学びのミュージアム	伊達市霊山町石田字宝司沢 9-1	024-589-2211	伊達市
二本松市歴史資料館	二本松市本町 1-102	0243-23-3910	二本松市
二本松市智恵子記念館	二本松市油井字漆原町 36	0243-22-6151	二本松市
二本松市大山忠作美術館	二本松市本町 2-3-1	0243-24-1217	二本松市
あだたらふるさとホール	大玉村玉井字西庵 183	0243-48-2569	大玉村
本宮市立歴史民俗資料館	本宮市字南町裡 130	0243-33-2546	本宮市
本宮市白沢ふれあい文化ホール	本宮市白岩字堤崎 494-44	0243-44-3185	本宮市
郡山市開成館	郡山市開成 3-3-7	024-923-2157	郡山市
郡山市歴史資料館	郡山市麓山 1-8-3	024-932-5306	郡山市
郡山市こおりやま文学の森資料館	郡山市豊田町 3-5	024-991-7610	郡山市
郡山市ふれあい科学館	郡山市駅前 2-11-1 ビッグアイ 20F～24F	024-936-0201	郡山市

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
大安場史跡公園	郡山市田村町大善寺大安場 160	024-965-1088	郡山市
ふくしまの森の科学体験センター	須賀川市虹の台 100	0248-89-1120	須賀川市
鏡石町歴史民俗資料館	鏡石町成田 343	0248-62-4323	鏡石町
天栄村ふるさと文化伝承館	天栄村大字大里字八石 1－2	0248-81-1030	天栄村
石川町立歴史民俗資料館	石川町字高田 200－2	0247-26-3768	石川町
吉田富三記念館	浅川町大字袖山字森下 287	0247-36-4129	一般財団法人
浅川町歴史民俗資料館	浅川町大字浅川字背戸谷地 144－6	0247-36-2134	浅川町
三春町歴史民俗資料館	三春町字桜谷 5	0247-62-5263	三春町
三春郷土人形館	三春町字大町 30	0247-62-7053	三春町
小野町ふるさと文化の館・郷土資料館	小野町大字小野新町字中通 2	0247-72-2120	小野町
田村市歴史民俗資料館	田村市船引町船引字四城内前 196 番地	0247-81-1215	田村市
白河市歴史民俗資料館	白河市中田 7－1	0248-27-2310	白河市
小峰城歴史館（旧 白河集古苑）	白河市郭内 1－73	0248-24-5050	白河市
中山義秀記念文学館（義秀展示館）	白河市大信町屋字沢田 25	0248-46-3614	白河市
白河市大信ふるさと文化伝承館	白河市大信町屋字沢田 25	0248-46-3614	白河市
西郷村歴史民俗資料館	西郷村大字小田倉字上野原 463	0248-25-0959	西郷村
泉崎資料館	泉崎村大字泉崎字館 24－9	0248-53-4777	泉崎村
塙町立あぶくま高原美術館	塙町大字那倉字吉元 86－2	0247-42-2510	塙町
矢祭町歴史民俗資料館	矢祭町大字東館字石田 25	0247-46-4646	矢祭町
鮫川村歴史民俗資料館	鮫川村大字赤坂中野字巡ヶ作 128－4	0247-49-3106	鮫川村
国指定名勝会津松平氏庭園	会津若松市花春町 8－1	0242-27-2472	会津若松市
若松城天守閣郷土博物館	会津若松市追手町 1－1	0242-27-4005	会津若松市
会津町方伝承館	会津若松市大町 2－8－8	0242-22-8686	会津若松市
茶室麟閣	会津若松市追手町 1－1	0242-27-4005	会津若松市
会津若松市歴史資料センター	会津若松市城東町 2－3	0242-27-2705	会津若松市
アクアマリンいなわしろカワセミ水族館	猪苗代町大字長田字東中丸 3447－4	0242-72-1135	猪苗代町
喜多方市カイギュランドたかさと	喜多方市高郷町西羽賀字和尚堂 3163	0241-44-2024	喜多方市
会津坂下町五浪美術記念館	会津坂下町字台ノ下 842	0242-84-1233	会津坂下町
ほっと i n やないづ縄文館	柳津町大字柳津字下平乙 151－1	0241-41-1077	柳津町
からむし工芸博物館	昭和村大字佐倉字上ノ原 1	0241-58-1677	昭和村
旧南会津郡役所	南会津町田島字丸山甲 4681	0241-62-3848	南会津町
奥会津博物館南郷館	南会津町界字川久保 552	0241-73-2829	南会津町
奥会津博物館伊南館	南会津町青柳字久川 24	0241-76-2071	南会津町
奥会津博物館館岩館	南会津町松戸原 55	0241-78-2110	南会津町
檜枝岐村歴史民俗資料館	檜枝岐村字下ノ原 887－1	0241-75-2342	檜枝岐村
ただみ・モノとくらしのミュージアム	只見町大倉字窪田 30	0241-86-2175	只見町
埴谷・島尾記念文学資料館	南相馬市小高区本町 2 丁目 89－1	0244-66-1011	南相馬市
葛尾村郷土文化保存伝習館	葛尾村落合字落合 16	0240-29-2008	葛尾村
大熊町民俗伝承館（休館中）	大熊町大字下野上字大野 669－3	0240-32-3011	大熊町
とみおかアーカイブ・ミュージアム	富岡町大字本岡字王塚 760－1	0240-25-8644	富岡町
檜葉町歴史資料館	檜葉町大字北田字鐘突堂 5－4	0240-25-2492	檜葉町
いわき市石炭・化石館	いわき市常磐湯本町向田 3－1	0246-42-3155	いわき市
いわき市勿来関文学歴史館	いわき市勿来町関田長沢 6－1	0246-65-6166	いわき市
いわき市アンモナイトセンター	いわき市大久町大久字鶴房 147－2	0246-82-4561	いわき市
いわき市考古資料館	いわき市常磐藤原町手這 50－1	0246-43-0391	いわき市
いわき市立草野心平記念文学館	いわき市小川町高萩字下夕道 1－39	0246-83-0005	いわき市
いわき市草野心平生家	いわき市小川町上小川字植ノ内 6－1	0246-83-2901	いわき市
いわき市暮らしの伝承郷	いわき市鹿島町下矢田字散野 14－16	0246-29-2230	いわき市
喜多方蔵品美術館	喜多方市梅竹 7294－4	0241-24-3576	私人

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
大和川酒造北方風土館	喜多方市字寺町 4761	0241-22-2233	私人
原郷のこけし群西田記念館	福島市荒井字横塚 3-183	024-593-0639	公益財団法人

(3) 青少年教育関係施設の設置状況

ア 県設置

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
福島県郡山自然の家	郡山市逢瀬町多田野字中丸山 46	024-957-2111	福島県
福島県会津自然の家	会津坂下町大字八日沢字西東山 4495-1	0242-83-2480	福島県
福島県いわき海浜自然の家	いわき市久之浜町田之網字向山 53	0246-32-7700	福島県

イ 教育施設

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
国立那須甲子青少年自然の家	西郷村大字真船字村火 6-1	0248-36-2331	独立行政法人
国立磐梯青少年交流の家	猪苗代町字五輪原 7136-1	0242-62-2530	独立行政法人
市町村（条例）設置	※12 施設（別掲）		
他県設置等	※2 施設（別掲）		

《市町村（条例）設置 12 施設》

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
福島県青少年会館	福島市黒岩字田部屋 53-5	024-546-8311	公益財団法人
福島市社会教育会館「立子山自然の家」	福島市立子山字金井作 1	024-597-2951	福島市
福島市子どもの夢を育む施設こむこむ館	福島市早稲町 1-1	024-524-3131	福島市
郡山市青少年会館	郡山市大槻町字漆棒 82	024-961-8282	郡山市
郡山市少年湖畔の村	郡山市湖南町横沢字村西 112	024-982-2115	郡山市
石川町勤労青少年ホーム	石川町字当町 418-1	0247-26-2566	石川町
矢祭山友情の森	矢祭町大字山下字下河原 1-1	0247-46-2162	矢祭町
会津若松市少年の家	会津若松市城東町 15-62	0242-39-1304	会津若松市
会津若松市勤労青少年ホーム	会津若松市城東町 14-52	0242-26-6662	会津若松市
喜多方市勤労青少年ホーム	喜多方市舞台田 3119-1	0241-22-1403	喜多方市
喜多方市勤労青少年体育センター	喜多方市舞台田 3119-1	0241-22-1403	喜多方市
びわ沢原森林公園（休館中）	猪苗代町字琵琶沢原 7095	0242-62-3291	猪苗代町

《他県設置等 2 施設》

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
さいたま市立館岩少年自然の家	南会津町宮里字向山 2847-1	0241-78-2311	さいたま市
SYD ばんだいふれあいびあ	北塩原村桧原字南黄連沢山 1157-336	0241-33-2567	公益財団法人

2 文化施設の整備充実

文化財への理解を深める施設として機能の充実に努めた。

(1) 県立美術館の整備充実

常設展・企画展等の充実を図り、美術作品の収集と作品・作家等に関する調査研究を計画的に推進したほか、教育普及活動に努め、本県美術振興の中心的施設として機能の充実に努めた。

(2) 県立博物館の整備充実

展示資料の収集・整備に努め、調査研究を計画的に推進し、常設展・企画展等の充実を図るとともに教育普及のための各種事業を行い、県内博物館の中心的施設として機能の充実に努めた。

(3) 県文化財センター白河館（まほろん）

文化財の収蔵と被災した地域の文化財等の公開・活用及び埋蔵文化財担当職員等の研修を図り、文化財に親しみ、

第 11 節 福島県立図書館

1 概要

福島県立図書館は、県民の生涯にわたる多様な学習活動に
応えるため、資料及び情報の計画的な収集を図るとともに市
町村立図書館等との連携のもとに効果的な図書館活動の展開
に努め、県民文化の向上に寄与することを目的とした事業を
行っている。

また、令和 7 年 3 月に『福島県立図書館アクションプラン
(第 5 次)』(令和 7 年度～令和 12 年度)を策定し、第 4 次ま
での基本理念と「4 つの目標」を継承した上で、新たに AI や
デジタル技術発展への対応を念頭に置き DX の視点も取り入
れた「福島県立図書館デジタルビジョン“図書館 DX”」を
示すとともに、市町村立図書館・公民館図書室等を支える役
割の重要性を踏まえつつ「いつでも・どこにいても・だれに
でも福島の“知の拠点”として役立つ」図書館を目指すこと
とした。併せて、令和 7 年 3 月に策定された「第五次福島県子
ども読書活動推進計画」(令和 7 年度から概ね 5 年間)に基づ
き、計画実現のための事業推進にも努めることとしている。

(1) 図書館協議会

ア 第 1 回

開催日 令和 6 年 9 月 4 日(水) 於：福島県立図書館
議題等
・令和 5 年度図書館利用実績について
・「福島県立図書館アクションプラン(第 4 次)」の取組状況について
・「福島県立図書館アクションプラン(第 5 次)」の策定(案)について

イ 第 2 回

開催日 令和 7 年 2 月 19 日(水) 於：福島県立図書館
議題等
・「福島県立図書館アクションプラン(第 5 次)」の策定について

図書館協議会委員名 (令和 7 年 3 月 31 日現在)
[任期：令和 5 年 10 月 21 日～令和 7 年 10 月 20 日]

区分	氏 名	所属団体等(主な役職名等)
学 識 経 験 者	◎佐藤 佐敏	福島大学(人間発達文化学類教授)
	三瓶 千香子	桜の聖母短期大学(キャリア教養学科教授 生涯学習センター長・地域連携センター長)
	神野 誠	株式会社福島民報社 (編集局文化部長)
	菅野 隆一	福島民友新聞株式会社 (論説委員会委員長)
	林 文子	公募
	高橋 正人	公募
家 庭 教 育	佐藤 房枝	福島県家庭教育インストラクター連絡 協議会(会津さざなみの会)
社 会 教 育	佐藤 美千代	福島県公共図書館協会 (新地町図書館副主幹兼管理係長兼司書)
学 校 教 育 関 係	○中村 充幸	福島県高等学校長協会 (福島県立福島北高等学校長)
	星野 亜紀	福島県中学校長会 (郡山市立逢瀬中学校長)

◎会長 ○副会長

(2) 「福島県立図書館アクションプラン(第 5 次)」 令和 7 年度～令和 12 年度

ア 基本理念

「ふくしまの未来をひらくため、『知の拠点』として県
内図書館ネットワークを支え、県民一人ひとりの夢と
学びを応援します。」

イ 福島県立図書館が目指す 4 つの目標

(7) 民のための図書館

福島県立図書館は、資料・情報を収集し、保存し、提供
することで、県民の役に立つ図書館を目指すとともに、年
齢、障がいの有無などにかかわらず、あらゆる県民が等し
く利用できる図書館を目指します。

(4) 子どもたちの今と未来のための図書館

ふくしまの未来を担う子どもたちのために、資料を収
集し、保存し、伝え、子どもたちの読書活動や主体的・対
話的で深い学びを支えることができる図書館を目指しま
す。

(9) 市町村(図書館・公民館等)を支える図書館

県民がどこにいても図書に親しみ、また、生活、学習、
事業などに必要な資料を利用できるように、県内の図書
館・公民館・学校を支え、ネットワーク体制を強化し、
全県的な図書館活動の振興を目指します。

(エ) ふくしまを知ることができる図書館

「ふくしま」の資料・情報を収集し、保存し、発信す
ることで、将来にわたり、いつでも、どこにいても「ふ
くしま」を知ることができる図書館を目指します。

ウ 福島県立図書館デジタルビジョン“図書館 DX”

(7) デジタル化の推進(デジタル資源をつくる)

- ・ふくしまを伝える資料のデジタル化
- ・デジタル化に伴う著作権処理体制の整備

(4) デジタル資源の収集・提供(デジタル資源につなげ る)

- ・ふくしまに関するオープンデジタル資料の収集・提供
- ・県内自治体が発信している情報へのリンクの提供
- ・調べものに役立つ情報へのリンクの提供
- ・他機関がデジタル化したふくしま関連資料へのナビ
ゲーション

(9) デジタルを活かす情報ガイド(デジタル資源をいか す)

- ・利便性を高める情報環境の整備
- ・AI を活用した図書館情報資源へのナビゲーション
- ・デジタルを活用した広報

2 資料の収集・整理

「福島県立図書館資料収集基本要綱」及び「福島県立図書
館アクションプラン(第 4 次)」を踏まえ、県民からの資料
要求に対応するために、各分野の基本資料を収集し迅速な整
理に努めた。また、平成 24 年度に開設した「東日本大震災福
島県復興ライブラリー」の整備充実を継続して行った。

(1) 図書館資料の収集

ア 一般資料の収集

新刊・既刊を問わず、資料的価値や利用的価値の高い資料の収集を行った。官公庁刊行物は主要なものを収集、年鑑白書や叢書等の継続資料については厳選し計画的な収集に努めた。文学作品は、受賞作品・候補作品や書評等で評価の高い作品を収集した。重点収集として、東日本大震災に関する資料をはじめ、調査相談に対応するために必要な各種参考図書、大活字本等のユニバーサルデザインに対応した資料の収集・整理に努めた。

イ 地域資料の収集

福島県に関する資料については新刊書及び古書を購入した。県人著作については新刊書及び旧刊図書の遡及購入により、充実を図った。非売品の資料については出版した個人・団体・機関等への寄贈依頼や、寄贈を呼びかけるチラシを常時館内掲示し県立図書館ホームページにも「図書寄贈のお願い」をトップに表示するなど広報に努めた。

行政資料は各部局へ寄贈依頼を通知したほか、庁内Webで周知を行った。県内公共図書館、公民館にも行政資料の寄贈について協力を呼びかけた。また、「福島県立図書館『福島県行政資料コーナー』のご紹介」のチラシを改訂し、館内配布した。

震災関連資料及び東京電力福島第一原子力発電所事故に関する資料についても、新聞等での出版情報収集に努めた。

ウ 地域視聴覚資料の収集

県内で撮影されたものや震災関連の映像資料を収集した。また、保存価値の高い地元新聞のCD-ROM等の資料を継続して収集した。

エ 児童資料・研究資料の収集

(ア) 児童資料

市町村のモデルとして運営している「こどものへや」用児童資料として、子どもの読書活動推進に資する資料を、新刊書を中心に厳選して収集した。

重点収集として、探究型学習に対応するもの、ユニバーサルデザインや多文化に対応する資料の収集に努めた。また、中学生・高校生向け資料についても収集した。

(イ) 研究資料

「児童図書研究室」用研究資料として、児童図書に関する調査研究及び子どもの読書活動支援に資する資料を、新刊書を中心に厳選して収集した。

また、読み聞かせ活動支援のための大型絵本や研究用児童資料としての主要な児童図書賞受賞作品も収集した。ほかに子どもの読書や読書環境に関する資料の収集にも努めた。

オ 逐次刊行物の収集と整備

雑誌は、資料価値を重視し、専門的な調査相談や県内図書館の求めに対応できる資料を幅広く継続収集した。

また、当館ホームページを改善し、購読している雑誌を探しやすくした。

新聞、雑誌の震災・原発事故関連記事についても収集に努めた。

福島県内の明治～平成の地方紙の保存と利用の両立を図るため、平成23年度に構築した「新聞記事閲覧システム」を更改し、複数の利用者・職員が同時に使用できるシステムとした。

カ 市町村支援用資料の収集

図書館未設置の自治体や、県立図書館の利用環境が十分ではない過疎・中山間地域、また、東日本大震災に伴う被災地域の読書活動に役立たせるため、新刊書を中心に、子どもたちの多様な好奇心に応えることができる児童書や話題性の高い文芸書、生活に密着した情報が掲載された実用書・時事関係資料等を収集した。

逐次刊行物受入状況 (単位：種)

区 分	購 入	寄贈・他	計
新 聞	25	47	※71
雑 誌	222	656	878
官 報 等	3	0	3
合 計	250	703	※952

※年度途中で寄贈から購入とした新聞があったため、購入新聞と寄贈・他新聞の和が合計とならない。

資料受入状況 (単位：冊)

区 分	購 入	寄贈・他	計
一 般 資 料	4,226	1,984	6,210
地 域 ・ 行 政 資 料	805	3,153	3,958
児 童 資 料	1,851	541	2,392
児童図書研究資料	343	84	427
市町村支援資料	1,170	1,170	2,340
合 計	8,395	6,932	15,327

資料受入状況・推移 (単位：冊)

令和4年度	令和5年度	令和6年度
15,480	15,136	15,327

キ 県民のくらし応援文庫

県民が抱える課題の解決に役立つ図書を整備することを目的に、平成28年度に創設した寄贈制度。令和6年度は、5団体（企業）から合計709冊の寄贈を受けた。

蔵書統計（資料別・分類別）				（単位：冊）		
分 類	区 分	5 年度累計	6 年度増加	6 年度除籍	利用替え	6 年度累計
一般資料	0 総 記	32,738	301	2	7	33,044
	1 哲 学	27,879	249	1	13	28,140
	2 歴 史	69,282	731	3	43	70,053
	3 社 会 科 学	116,406	1,638	12	125	118,157
	4 自 然 科 学	40,990	659	9	37	41,677
	5 工 学・工 業	39,494	590	8	46	40,122
	6 産 業	31,405	392	0	29	31,826
	7 芸 術	45,556	630	6	17	46,197
	8 語 学	10,255	97	0	0	10,352
	9 文 学	98,599	923	14	91	99,599
	計	512,604	6,210	55	408	519,167
地域資料	0 総 記	20,310	246	1	0	20,555
	1 哲 学	3,047	34	0	0	3,081
	2 歴 史	42,651	696	2	21	43,366
	3 社 会 科 学	74,282	1,335	0	2	75,619
	4 自 然 科 学	11,446	216	0	1	11,663
	5 工 学・工 業	17,109	331	0	7	17,447
	6 産 業	24,811	313	0	0	25,124
	7 芸 術	19,445	368	3	0	19,810
	8 語 学	1,011	8	0	0	1,019
	9 文 学	31,082	411	6	3	31,490
	計	245,194	3,958	12	34	249,174
児童資料	研 究 資 料	40,085	427	78	-47	40,387
	児 童 図 書	130,643	2,392	188	73	132,920
	計	170,728	2,819	266	26	173,307
逐次刊行物	雑 誌	193,610	4,128	112	-16	197,610
	新 聞 合 本	16,350	191	0	0	16,541
	新聞記事ファイル	3,839	0	0	0	3,839
	計	213,799	4,319	112	-16	217,990
特 殊 文 庫		70,280	0	0	0	70,280
館 内 用 計		1,212,605	17,306	445	452	1,229,918
市 町 村 支 援 計		52,173	2,340	9,331	-452	44,730
合 計		1,264,778	19,646	9,776	0	1,274,648

3 館内サービス

開館日は284日、入館者は157,367人、1日平均554人の利用があった。前年度比において、ほぼ横ばいであるが、コロナ禍前に比べ9割程度まで回復した。

入館者数

開館日数	284 日
入館者数	157,367 人
（1日平均）	554 人

入館者数・推移（単位：人）

令和4年度	令和5年度	令和6年度
115,329	152,307	157,367

(1) 調査相談（レファレンス）

県内外から、日常生活の中での質問、仕事上の調査研究等、多種多様な調査相談を受け、所蔵資料及び関係機関の協力を得て回答した。問い合わせは、口頭、電話、文書、

FAX、電子メールにて受け付けた。また、当館のホームページについては、「蔵書検索」へのアクセスが大きく伸びた。

調査相談件数（単位：件）

	一般・地域・逐刊資料	児童資料	小 計
口 頭	6,265	990	7,255
電 話	1,222	39	1,261
文 書	26	0	26
F A X	11	0	11
電子メール	276	3	279
合 計	7,800	1,032	8,832

調査相談件数・推移（単位：件）

令和4年度	令和5年度	令和6年度
8,197	8,813	8,832

ホームページアクセス件数 (単位：件)			
区 分	令和4年度	令和5年度	令和6年度
トップページ	144,742	146,625	154,432
蔵書検索	848,379	875,627	962,430
横断検索	25,768	32,350	38,503
デジタルライブラリー	2,372	2,320	2,190
こどものへや	2,012	1,506	1,466
利用案内	9,391	9,046	8,735

(2) 利用者サービス

「福島県立図書館アクションプラン（第4次）」の活動指針に則り、図書館資料の提供や各種事業の実施を通じ、地域の復興及び暮らしに役立つ情報の提供に努めた。

さらに、広域な県土を有する本県の実情を踏まえ、予約資料の受取館指定サービス等、Web環境を活用した利用の充実を図った。

(3) 個人貸出

貸出冊数は173,169冊、貸出者数は延べ44,046人で前年度から増加した。登録者数は13,399人であった。

直接自宅へ資料搬送する資料宅配サービス（有料）の利用は、4件、20冊であった。

館外個人貸出状況

分 類	冊数（冊）	構成比（％）
総 記	2,370	1.4
哲 学 ・ 宗 教	4,604	2.7
歴 史 ・ 地 理	7,012	4.0
社 会 科 学	11,961	6.9
自 然 科 学	8,247	4.8
工 学 ・ 工 業	8,014	4.6
産 業	4,127	2.4
芸 術	7,672	4.4
語 学	1,194	0.7
文 学	23,579	13.6
地 域 資 料	7,042	4.1
新 聞 雑 誌	7,976	4.6
小 計	93,798	54.2
児 童	79,371	45.8
合 計	173,169	100.0

館外個人貸出・状況・推移

区 分	令和4年度	令和5年度	令和6年度
冊 数（冊）	147,545	172,763	173,169
のべ人数（人）	35,814	43,158	44,046

館外個人貸出登録者数（登録有効期間3年）（単位：人）

区 分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	合 計
新 規	3,047	3,051	2,976	9,074
更新者	1,374	1,458	1,493	4,325
合 計	4,421	4,509	4,469	13,399

館外個人貸出登録者数・推移 (単位：人)		
令和4年度	令和5年度	令和6年度
12,732	13,535	13,399

(4) 特別貸出

特別貸出とは、類縁機関での展示等のための貸出を行う制度で、資料・冊数・期間などの面で配慮している。

特別貸出状況

貸 出 先	件数（件）	冊数（冊）
官 公 庁 関 係	2	39
図 書 館 そ の 他	43	80
会 社 ・ 事 業 所	14	256
報 道 関 係	9	184
学 校	39	66
計	107	625

特別貸出状況・推移 (単位：冊)

令和4年度	令和5年度	令和6年度
292	341	625

(5) 一般資料

県民が必要とする多種多様な情報を迅速に提供するように資料整理等に努めた。

また、時事や季節、話題性のあるテーマで展示を行い資料の紹介に努めた。時事展示のコーナーでは「花と緑に囲まれて」、「子どもたちの教科書を見てみよう!」、「秋を感じる本」、「出版文化をたどる」、「災害について知る・備える・考える」を実施した。ほかに、ビジネス関連資料、認知症、感染症に関する展示を行っている。

さらに、パスファインダー「本の森への道しるべ」では、「身近な木や植物を調べる」、「出版について深める」を新規で作成した。「人権を考える」、「企業を調べる」、「よりよい消費生活をおくるために」、「山への誘い」、「防災教育～子どもを守る子どもと学ぶ～」を改訂し、効率かつ有効的な情報の提供に努めた。

令和6年4月27日(土)には「福島県立図書館見学探検ツアー」を実施し、県立図書館の役割や機能について紹介した（参加者6名）。また令和6年11月2日(土)には「福島県立図書館秋の見学探検ツアー」（参加者9名）と「長田弘文庫見学会」を実施した（参加者4名）。

令和6年7月27日(土)には「森合移転40周年記念図書館見学ツアー&大人のためのおはなし会」（参加者14名）を開催し、関連企画として7月27日(土)～28日(日)に「ごろすけと一緒にクイズに挑戦! 福島県立図書館クイズラリー」を実施した。

(6) 地域資料

企画展示は「『館報あづま』で振り返る 福島県立図書館森合移転40周年」展を開催した。当館発行物である『館報あづま』の過去の号を中心に展示し、移転後の当館の歩みなどを紹介した。

パスファインダー「本の森への道しるべ」では、「地域の

出版文化を支える「福島民報出版文化賞」を改訂し、受賞作発表にあわせて直近 10 年の受賞作を展示した。ほかに「福島の文学」を改訂し、「福島の学校史」を新規に作成した。また劣化により原資料での利用が難しいものを中心に貴重資料をデジタル化し、閲覧・貸出の利用を容易に行えるようにした。

地域資料については、県内外の個人・団体の様々な調査相談に応えるため、レファレンスサービスを実施したほか、ホームページから目的の資料を検索しやすいよう、図書や雑誌の目次入力を継続的に実施した。

(7) 逐次刊行物

『福島県公立図書館 現行購入雑誌保存年限および保存指定館、現行受入新聞一覧』（令和 6 年度版）については、大熊町以外から回答を得て発行した。

令和 6 年 11 月 30 日(土)に、「図書館バックヤードツアー 福島版の昔の新聞をみてみよう」を開催し、7 名が参加した。当館職員が案内役となり、図書館で保管している明治・大正・昭和の新聞の見学を実施した。当時の紙面に触れる機会とするとともに、マイクロフィルム、データベースなど当時の新聞を現代に引き継ぐ方法について紹介した。

軽読書コーナー及び雑誌展示コーナーにて「言葉を味わう夏」、「物語の旅に出よう。」、「どう生きる？ AI 時代」、及び「雑誌から読む・知る図書館」など、社会情勢や利用者の興味関心に配慮したテーマの展示を行った。

パスファインダー「本の森への道しるべ」では、「便利な新聞・雑誌記事のデータベース」、「官報・議会資料（国会）の調べ方」の改訂を行った。

(8) 児童サービス

子どもの読書活動推進のために各種の事業を行った。

ア こどものへや・児童図書研究室の運営

資料の貸出や調査相談をはじめ、「絵本コーナー」や「新着図書コーナー」などで推奨する資料の展示を行ったほか、ロビー展示コーナーを活用して 10 代の子どもたちに向けた展示を行った。また、児童図書の調査・研究用の資料や学校図書館支援用の図書を収集し、子どもの読書活動に関わる方に対して資料提供を行った。

イ おはなしかいの開催

乳幼児と保護者を対象とした「ちいさなおはなしかい」（毎月第 2 木曜日）や児童を対象に以下の「おはなしかい」、「子ども向け見学会」を開催した。

(ア) 「ちいさなおはなしかい」（4 月、5 月、6 月、7 月、9 月、10 月、11 月、12 月、1 月、3 月）

計 10 回 参加者合計 34 名

(イ) 県立美術館との連携おはなしかい

「アートなおはなしかい」（令和 6 年 11 月 23 日(土)）を実施した。

参加者 16 名

(ウ) 県立美術館との連携おはなしかい

「かがくいひろしの世界展ちいさなおはなしかい」（令和 7 年 1 月 29 日(水)、2 月 5 日(水)）を実施した。

計 2 回 参加者合計 199 名

(エ) 「春のミステリーツアー」（令和 6 年 4 月 27 日(土)）を実施した。

参加者 14 名

(オ) 「子どものための図書館見学（森合移転 40 周年事業）」（令和 6 年 7 月 25 日(木)）を実施した。

参加者 22 名

(カ) 「冬のミステリーツアー」（令和 6 年 12 月 26 日(木)）を実施した。

参加者 11 名

ウ 図書館見学の受け入れ

学校等の要望に応え、施設見学や利用案内、読み聞かせ等を行い、図書館や本に親しむ機会の提供に努めた。

参加者合計 427 名

エ 情報誌の発行

思春期の子どものための読書案内誌「LITTLE BIG」や児童サービス関連情報誌「児童図書研究ニュース」を発行し読書普及のための情報提供に努めた。

オ 「子育て支援コーナー」の運営

子育て世代のための育児関連図書のコーナーでは、子育てに役立つ図書や雑誌の展示と親子で楽しむ絵本の展示を行った。

カ 講師の派遣

児童サービスに関する講座に講師を派遣した。

(ア) 「絵本の読み聞かせ講座」

令和 6 年 5 月 11 日(土) 桑折町

(イ) 「絵本読み聞かせ講座 ～基礎・基本編～」

令和 6 年 7 月 22 日(月) 会津教育事務所

(9) 東日本大震災福島県復興ライブラリー

平成 24 年度から「東日本大震災福島県復興ライブラリー」を開設。常設コーナーとして、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故の関連資料を中心に、地震、津波、体験記、放射線、除染、復興、防災、エネルギー問題等の資料を配架し利用に供している。所蔵数は令和 7 年 3 月 31 日現在で 16,058 タイトルとなっており、「震災復興ライブラリー増加資料一覧」（令和 7 年 3 月 31 日現在）を作成し、ホームページで公開した。

さらに、福島民報及び福島民友に掲載された「震災」「原発」「復興」関連の記事の見出しを地区ごとにまとめ一覧にした『地元新聞にみる原発関連見出し一覧』を令和 6 年 3 月 31 日現在で更新し、同年 7 月 30 日(火)にホームページへ掲載した。

そのほか「巡回する福島県復興ライブラリー」として、資料やパネル等を出張展示用セットとして編成し、活用を図っている。

(10) 複写サービス

コイン式コピー機は 1 台、レーザープリンター 1 台、カラープリンター 1 台、マイクロプリンター 2 台での対応となっている。保存のために資料の媒体を変えていることから、形態にあわせてそれぞれのプリンターで対応している。

複写利用状況

区 分	件数 (件)	枚数 (枚)
自・他館処理	2,883	37,980

複写利用状況・推移

(単位: 枚)

令和4年度	令和5年度	令和6年度
38,783	40,860	37,980

(11) 障がい者サービス

障がい者サービスの案内を作成し、関連施設等に配布した。また、「福島県立図書館所蔵 大活字コーナー資料リスト」を改訂した。令和6年1月より特定録音物等郵便受施設の指定となった。

(12) 来館者用インターネットコーナー

来館者が利用できるインターネット端末を、一般用に6台設置し、情報提供の便宜を図った。

インターネット利用状況 (単位: 人)

区 分	一 般	児 童	合 計
人 数	3,107	0	3,107

インターネット利用状況・推移

(単位: 人)

令和4年度	令和5年度	令和6年度
1,160	2,603	3,107

(13) 展示

ア 展示コーナー企画展示

当館入り口の展示コーナーにおいて、テーマに沿った資料の展示を行った。

(ア) 『芸術としての本づくり 武井武雄と豆本の世界』

(令和6年4月5日(金)～6月5日(水))

童画家であり童話作家であった武井武雄の刊本作品を中心に、芸術作品ともいえる、美しい本の数々を紹介した。

(イ) 『まほろん移動展示「U (アンダー) 15の考古学—古墳時代編—」』

(令和6年6月7日(金)～7月3日(水))

福島県文化財センター白河館・まほろんの収蔵品を展示し、若い世代に向けて福島県域における古墳時代の特徴などをわかりやすく紹介した。

(ウ) 『『館報あづま』で振り返る 福島県立図書館森合移転40周年』

(令和6年7月5日(金)～9月4日(水))

令和6年7月に森合移転40周年を迎えたことをうけて当館発行物である『館報あづま』の過去の号を中心に展示し、移転後の当館の歩みなどを紹介した。

(エ) 『福島県歴史資料館移動展「江戸・明治の総論」』

(令和6年9月6日(金)～10月2日(水))

江戸時代から明治時代にかけての争いごとや裁判に関する史料を紹介した。

(オ) 『新聞に見る 福島県立図書館森合移転40周年』

(令和6年10月4日(金)～12月4日(水))

福島県立図書館の昭和59年7月の森合移転開館から40周年を迎えたことにちなみ、当館所蔵の新聞から移転計画段階から会館当日の様子を報じた紙面を紹介した。

(カ) 『『福島県立博物館移動展「ふくしまの酒造り—酒を醸し和を醸す—」』

(令和6年12月6日(金)～令和6年12月27日(金))

福島県立博物館の収蔵品を展示し、福島県内各地の酒造りの文化・歴史を紹介した。

(キ) 『物語が「しかけ」と出会うとき しかけ絵本の世界』

(令和7年1月7日(火)～4月2日(水))

当館が所蔵するしかけ絵本から、ポップアップ絵本を中心に展示・紹介した。

イ ロビー展示

情報発信の一環としてロビー通路壁面を利用し、県立図書館の資料展示と団体等のパネル展示を行った。

(ア) 「YA (ヤングアダルト) の本」 (県立図書館)

令和6年4月2日(火)～9月4日(水)

(イ) 「流域治水関連の取組紹介」 (福島県土木部土木企画課)

令和6年9月6日(金)～9月18日(水)

(ウ) 「震災の教訓や記憶の伝承について」 (福島県土木部土木企画課)

令和6年9月19日(木)～10月2日(水)

(エ) 「働くあなたの力になりたい！まずは聞かせてあなたの悩み」 (福島県労働委員会)

令和6年10月4日(金)～11月6日(水)

(オ) 「YA (ヤングアダルト) の本」 (県立図書館)

令和6年11月8日(金)～令和7年3月16日(日)

(カ) 「令和7年2月の大雪対応について」 (福島県土木部土木企画課)

令和7年3月18日(火)～令和7年4月2日(水)

(14) 普及事業

県内公共図書館及び公民館図書室等、図書館関係施設職員の資質の向上を図るため、講演会や講座を実施することで、幅広い知識の習得を目指し、また、一般県民に対しても開放し、図書館としての情報発信を行い、地域文化の進展に寄与した。

ア 福島を生きる講座 (令和6年度は福島県立図書館森合移転40周年記念事業と併催)

世界的歴史学者・朝河貫一博士をはじめとしたふくしまの偉人や、魅力ある福島の今と未来の発信等、福島に関わる研究者等による、図書館資料を活用した講座やワークショップを実施している。

(ア) 第1回 「藤田浩子さんの語りの世界」

開催日 令和6年5月25日(土) 福島県立図書館

講師 幼児教育専門家 藤田 浩子

参加者 100名

(イ) 第2回 「ふくしまの建築の昭和—福島県立図書館が生まれたころ—」

開催日 令和6年7月27日(土) 福島県立図書館
講師 日本大学工学部 建築学科 教授 速水 清孝
参加者 65名

- (ウ) 第3回 「300年にわたる土地争い—大沼郡桑原村と宮下村の入会争論—」

開催日 令和6年9月21日(土) 福島県立図書館
講師 公益財団法人福島県文化振興財団
歴史資料課 主幹 山田 英明

参加者 38名

イ 県民講座

福島県立医科大学、法テラス福島など各関係機関との連携による講演会を実施している。

「親子に関する法律の最近の改正について」

開催日 令和6年10月19日(土)

講師 日本司法支援センター 法テラス福島法律事務所 弁護士 圓谷 徹

参加者 11名

ウ 衛生学予防医学講演会

福島県立医科大学衛生学・予防医学講座講演会

開催日 令和6年9月15日(日)

- (ア) 「質量分析ってなあに?～基本原理や医療分野での応用について」

講師 福島県立医科大学 医学部

衛生学・予防医学講座 学内講師 増石 有佑

- (イ) 「『アサーション』とは?—アサーティブ・コミュニケーションの基本—」

講師 福島学院大学福祉学部

福祉心理学科 小島 有里子

参加者 32名

エ イベント

- (ア) 「福島県立図書館見学探検ツアー」

開催日 令和6年4月27日(土)

参加者 6名

- (イ) 「森合移転40周年記念図書館見学ツアー&大人のためのミニおはなし会」

開催日 令和6年7月27日(土)

参加者 14名

- (ウ) 「ごろすけと一緒にクイズに挑戦! 福島県立図書館クイズラリー」

開催日 令和6年7月27日(土)～28(日)

参加者 114名

- (エ) 「福島県立図書館秋の見学探検ツアー(裏道さんぽVer.)」

開催日 令和6年11月2日(土)

参加者 9名

- (オ) 「長田弘文庫見学会」

開催日 令和6年11月2日(土)

参加者 4名

4 館外サービス

(1) 移動図書館「あづま号」

移動図書館「あづま号」では、以下の目的により巡回事業を実施し、連携協力を図るとともに、合計23自治体及び8校に対して合計23,777冊の資料を貸出した。

ア 図書館未設置町村支援

図書館未設置町村における図書館活動の促進を図ることを目的に、資料の貸出しと公民館図書室等の運営相談を行った。また23自治体に巡回し、延べ22,273冊の資料を貸出した。

イ 避難自治体支援事業

東日本大震災等の影響により避難を余儀なくされ、図書館等の運営が困難な8自治体に対し、読書環境を改善することを目的に巡回し資料の貸出しと希望自治体へのおはなし会を行った。

公民館、認定こども園、小学校、中学校、デイサービスセンターに対して4,673冊を貸出した。

ウ 特別支援学校読書活動支援事業

日常的に図書館や読書施設、書店等の利用が困難な子どもたちの読書環境の向上を目的に、福島大学附属特別支援学校・石川支援学校・西郷支援学校・猪苗代支援・聴覚支援学校平校・郡山支援・ふたば支援・だて支援の8校を巡回し、延べ1,504冊の資料を貸出した。また、希望校へのおはなし会を開催した。

移動図書館「あづま号」貸出状況・推移 (単位: 冊)

令和4年度	令和5年度	令和6年度
22,234	22,768	23,777

(2) 市町村援助のための支援貸出

大規模な図書館事業を行う市町村に対して、長期にわたり一括大量に資料の貸出しを行い、図書館・公民館図書室の読書・学習環境を支援した。

令和6年度の利用状況は次のとおりである。

川俣町教育委員会	370冊
桑折町教育委員会	1冊
会津美里町教育委員会	639冊
合 計	1,010冊

(3) 福島県立図書館資料の譲与

再活用が十分見込まれる資料を、県内市町村教育委員会及び高等学校等に対し譲与し、図書館施設の蔵書の充実を支援した。令和6年度の利用状況は次のとおりである。

広野町教育委員会	139冊
檜葉町教育委員会	30冊
玉川村教育委員会	552冊
猪苗代町教育委員会	133冊
西会津町教育委員会	313冊
会津美里町教育委員会	297冊
桑折町教育委員会	228冊
伊達市教育委員会	753冊
福島市教育委員会	74冊

浅川町教育委員会	62 冊
喜多方市教育委員会	414 冊
北塩原村教育委員会	268 冊
磐梯町教育委員会	244 冊
白河市教育委員会	70 冊
あさか開成高等学校	19 冊
西郷支援学校	18 冊
合 計	3,614 冊

(4) 只見線駅文庫

除籍資料を活用して、待ち時間や車内で自由に利用できる「只見線駅文庫」を令和元年10月からJR只見線の一部に設置している。

(5) 学校図書館活動支援貸出

県内高等学校及び県立特別支援学校の図書館活動の充実を図るために、長期にわたり一括大量に図書の貸出しを行い、学校図書館読書・学習環境の支援を行う。令和6年度は貸出の申込みはなかった。

(6) 広報資料の発行

ア 館報「あづま」

第73巻（通巻277）移転40周年記念号として令和6年の森合移転開館記念日にあたる7月22日に発行した。主たる掲載事項としては、「巻頭言 森合に移転して40年に」、「福島県立図書館移転後40年の歩み 年表で見る移転40年」、「移転40年 職員の声 福島県立図書館の在りよう—40年前といま—」等、当館ホームページへも掲載し情報を発信した。

イ 令和6年度版福島県公共図書館・公民館図書室実態調査報告書（データ版）

図書館活動の振興に資するため、県内公共図書館等の年間観覧日数や専任職員数、蔵書数、来館者数、登録者数、個人貸出数、電子書籍導入の有無などについて実態調査を実施し、報告書としてまとめ、当館ホームページへ掲載した。

ウ 福島県郷土資料情報

第65号を発行。特集として「福島県立図書館移転40周年記念事業」実施報告を掲載した。ほかに「福島を生きる講座」の実施報告、連載の「貴重郷土資料探照25」「福島県関係書誌の紹介2024」を掲載した。80部発行し、当館ホームページへも掲載する等、郷土の情報を発信した。

5 図書館協力

(1) 相互協力と遠隔地返却、受取館指定サービス

協力貸出（市町村図書館への資料の貸出）、相互貸借（県内外の他館との資料の貸出・借受）、遠隔地返却（当館から借受け資料を他館に返却する。）サービスを行っている。

また、予約した資料を県内の図書館で受け取ることができる受取館指定サービスの利用は増加傾向になっており、市町村図書館を窓口とした遠隔地の県民へのサービス体制は強化されている。

相互貸借状況（単位：件/冊）

区 分	県 内		県 外		合 計	
	件数	冊数	件数	冊数	件数	冊数
貸 出	1,017	3,503	325	474	1,342	3,977
借 用	214	344	73	106	287	450
小 計	1,231	3,847	398	580	1,629	4,427

相互貸借状況・推移（単位：冊）

令和4年度	令和5年度	令和6年度
4,315	4,894	4,427

遠隔地返却冊数・推移（利用者が来館し借受けた資料を県内の公立図書館に返却した冊数）（単位：冊）

令和4年度	令和5年度	令和6年度
6,242	6,681	7,614

受取館指定サービス状況・推移

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
冊数（冊）	1,799	1,710	2,617
件数（件）	505	551	777

(2) 学校図書館サポートセット貸出

県内の小・中学校における学校図書館活動を支援するため、授業の過程において利用することを目的に、希望するテーマに合わせて資料を選びセットにして貸出を行った。令和6年度の利用状況は、5校12セット（268冊）。

(3) 図書館協力車事業

県内市町村図書館などの運営を支援するため、各館を定期的に巡回し、情報の収集と提供、運営に関する相談を行った。

また、協力貸出（資料の貸借）などの資料の搬送支援を行った。令和6年度は、18コースを編成し、35自治体と2高等教育機関、福島県議会図書室に対し巡回した。

(4) 県内図書館職員研修会

県内図書館職員の資質向上と専門的知識の涵養を図るため、毎年行っている。

ア 福島県図書館・公民館図書室職員等初任者研修会

(ア) テーマ

- 講義 ①「図書館の基礎」（動画研修）
 ②「学校図書館の目指すもの～その役割を考える～」
 ③「子どもと絵本を結ぶ～その意義と役割～」
 （動画研修）
 ④「図書館業務の実際」（動画研修）

(イ) 期 日 令和6年5月31日（金）（講義①③④は6月28日（金）までオンデマンド）

(ウ) 会 場 福島県立図書館

(エ) 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 61名

(オ) 講 師 ②：義務教育課指導主事 松山 秀和
 ①、②、③：福島県立図書館職員

イ 福島県図書館・公民館図書室職員等専門研修会

※福島県図書館研究集会（福島県公共図書館協会事業）
と併催（ハイブリット・講師はオンライン）

- (ア) 期 日 令和6年10月25日(金)
(イ) 会 場 福島県立図書館
(ウ) 参加者 県内図書館・公民館図書室職員等 51名
(エ) 内 容

第1部 福島県図書館・公民館図書室職員等専門研修会
講 演 「図書館が『まちづくり』へ貢献するために必要なものとは何か」

講 師 田原市図書館 館長 是住 久美子

第2部 福島県図書館研究集会

a 県内図書館・公民館図書室実践報告

- (a) 須賀川市中央図書館 館長 岩崎 弘幸
(b) 会津美里町図書館 司書 矢留 麻須美
(c) 新地町図書館 副主幹兼管理係長兼司書
佐藤 美千代

b パネルディスカッション

「福島県の図書館とまちづくり」

コーディネーター

白河市立図書館 館長 中沢 孝之

パネリスト

須賀川市中央図書館 館長 岩崎 弘幸

会津美里町図書館 司書 矢留 麻須美

新地町図書館 副主幹兼管理係長兼司書

佐藤 美千代

・グループディスカッション

ウ 福島県図書館初任者職員実務研修会（集合）

- (ア) 期 日 令和6年6月12日(水)～13日(木)
(イ) 会 場 福島県立図書館
(ウ) 参加者 8名
(エ) 講 師 福島県立図書館職員

エ 福島県内児童書担当職員研修会（集合）

- (ア) テーマ 「ステップアップ・よみきかせのきほん～乳
幼児から小学3・4年～」

(イ) 期 日 令和6年9月26日(木)

(ウ) 会 場 福島県立図書館

(エ) 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員
等 44名

(オ) 講 師 公益財団法人東京子ども図書館

代表理事 小関 知子

(5) 県内大学図書館間との連携

県内の大学図書館及び公共図書館間における、「図書館資料の相互貸借」「複写」「参考業務」及び「一般社会人への共通利用証発行」等の協力体制を推進するため、“福島県内大学図書館連絡協議会”の公共図書館唯一の加盟館として、「福島県内大学図書館間相互利用制度」の維持に努めた。

同協議会には、県立図書館のほか、県内20の自治体の図書館が参加館として参加している。

さらに、福島大学附属図書館及び福島県立医科大学附属学術情報センター図書館とは、相互協力のための「ふくふ

くネット」を締結しており、それに基づき活動を行った。

また、福島県立図書館が幹事館として第31回福島県内大学図書館連絡協議会実務者研修会をオンライン開催した。

- (ア) 講演 「地域を支える図書館の役割 館種を超えた連携に向けて」

(イ) 期 日 令和6年12月19日(木)

(ウ) 会 場 福島県立図書館

(エ) 参加者 36名

(オ) 講 師 愛荘町立愛知川図書館長・

秦荘図書館長 三浦 寛二

第12節 福島県立美術館

1 概要

昭和59年に開館した福島県立美術館は、さまざまなテーマに基づく展覧会、創作や芸術鑑賞のための各種講座等の事業を実施している。また、文化財としての美術作品の収集保存、美術や地域の芸術運動に関する調査研究を継続的に実施している。これらの活動を基盤に、美術の情報センターとしての機能を担っている。

令和6年度の美術館活動の概要は次のとおりである。

(1) 美術館運営協議会

ア 委員

大槻 佐恵	福島県中学校教育研究会美術専門部所属 (令和5年1月1日～)
伊藤沙緒里	福島県高等学校教育研究会美術工芸部会所属 (令和7年1月1日～)
鈴木 淳一	公益財団法人福島県文化振興財団理事長兼 福島県文化センター館長 (令和4年4月23日～) ※会長
佐藤 育子	福島県家庭教育インストラクター (令和5年1月1日～)
齋藤 勝正	福島県美術家連盟顧問 (平成29年1月1日～)
塩塚 圭輔	日本放送協会福島放送局長 (令和6年10月12日～)
岡部 兼芳	はじまりの美術館長 (令和3年1月1日～)
笠原美智子	長野県立美術館長 (令和3年1月1日～)
田村奈保子	福島大学行政政策学類教授 (令和7年1月1日～) ※副会長
舟木 藤弘	福島県立美術館友の会副会長 (平成29年1月1日～)

イ 協議会の開催

(ア) 期日 令和7年2月27日(木)

(イ) 内容 ・令和6年度事業の概要

・令和7年度事業計画案の概要

(2) 他館等との連携

県内外の博物館施設及び全国組織等との連携を図り、運営・事業等に関する情報交換や研修等を実施した。

- 加盟団体 ・ 全国美術館会議 (会員)
・ 日本博物館協会 (会員)
・ 日本博物館協会東北支部 (会員)
・ 東北地区博物館協会 (会員)
・ 福島県博物館連絡協議会 (理事)

2 美術品の収集・保存

優れた美術作品鑑賞の機会を提供し、文化財を保存継承するために、コレクション（収蔵作品）の収集活動を継続的にを行っている（ただし平成 22 年度以降、作品購入実績はない）。

(1) 収蔵作品点数（令和 7 年 3 月 31 日現在）

海外作品	450 点
日本画	396 点
洋 画	964 点
版 画	1,781 点
立 体	167 点
工 芸	201 点
書	39 点
素描・下絵	226 点
写真	411 点
作品合計	4,635 点
美術資料	78 件

(2) 収集評価委員会

ア 委員

中山 恵理	郡山市立美術館主査 (令和元年 12 月 1 日～)
松下 由里	群馬県立近代美術館学芸担当課長 (令和元年 12 月 1 日～)
水沢 勉	神奈川県立近代美術館館長 (令和元年 12 月 1 日～)
濱崎 礼二	宮城県美術館副館長 (令和 3 年 12 月 1 日～)
西山 純子	千葉市美術館学芸課長 (令和 3 年 12 月 1 日～)

イ 委員会の開催

- (ア) 期日 令和 6 年 12 月 20 日(金)
(イ) 内容 ・ 令和 5 年度収集作品の報告
・ 令和 6 年度収集候補作品

(3) 図書資料の収集

収蔵図書数 66,811 冊

(4) 保存管理

美術品の状態を維持回復し、美術品の保管・展示の環境を良好に保つために、計画的に美術品の修復や館内の保存環境調査を実施している。

- ア 保存環境調査の実施(虫菌害モニタリングと環境測定)
時期 令和 6 年 6 月 3 日(月)～17 日(月)

8 月 9 日(金)～21 日(水)

内容 展示室、収蔵庫、搬入口及びその他の館内外の虫菌害調査、酸アルカリ濃度測定等

イ 美術品の修復

今井玉芳《[猫之図]》、小林古径《羅浮仙》、土橋 醇《[無題]》2 点、同《Conpostion》、班目秀雄《つばきの森》、同《洞門 朝 足摺》を修復した。また、内田あぐり《ロマノフの海》の修復、朝倉撰《瓜子姫とあまんじゃく》の額交換を行った。

ウ 敷地内の放射線測定

- (ア) 時期 年 3 回測定
(イ) 場所 美術館内及び敷地内 計 8 か所

3 展示事業

(1) 常設展

収蔵及び寄託の美術作品を展示している。美術の多様な領域や数多くの作家を紹介するとともに、作品の状態の保全に配慮して、年 4 回（版画は年 7 回）展示替えを行っている。

ア 第Ⅰ期コレクション展

令和 6 年 3 月 23 日(土)～7 月 22 日(月)

- (ア) プレイバック！福島の美術家たち
米倉兌、橋本堅太郎、田口安男、滝田項一ほか
(イ) 関根正二と大正期の洋画
安井曾太郎、岸田劉生、木村莊八、関根正二ほか
(ウ) 海外作品の名品
クロード・モネ、パブロ・ピカソ、アンドリュウ・ワイエスほか
(エ) 斎藤清の木版画
斎藤清《舞妓、京都 (M)》ほか
(オ) 掌の版画
昭和初期の版画雑誌『版芸術』ほか

イ 第Ⅱ期コレクション展

令和 6 年 8 月 3 日(土)～9 月 16 日(月・祝)

- (ア) シェアしよう！関根正二と近代の美術
高橋由一、今村紫紅、三木宗策ほか
(イ) 石田智子、佐藤多持、小泉智英
石田智子《松老雲閑》ほか
(ウ) 海外の版画
マルク・シャガール 版画集《死せる魂》ほか
(エ) 40 年前の美術—1980 年代の形象
橋本章、饒嘔、李禹煥ほか
(オ) 生誕 90 年・秀島由己男
秀島由己男《靈歌〈ベトナム〉》ほか

ウ 第Ⅲ期コレクション展

令和 6 年 10 月 12 日(土)～12 月 15 日(日)

- (ア) 県美の近代美術
関根正二、松本竣介、勝田蕉琴、佐藤玄々、ベン・シャーン、カミーユ・ピサロほか

- (イ) 佐藤潤四郎のガラス
佐藤潤四郎《玻璃花器》ほか
- (ウ) 生誕100年 伊砂利彦・志村ふくみ
《水の戯れ》、《磯なれ松》ほか
- (エ) 没後10年 辰野登恵子
辰野登恵子《May-7-91》ほか
- (オ) 特集
横尾忠則、ヤノベケンジ、小沢剛：横尾忠則《聖シャンバラ》ほか
- (カ) 西洋の名作版画
ジョルジュ・ルオー《版画集『流れる星のサーカス』》ほか

エ 第Ⅳ期コレクション展

令和7年1月7日(火)～3月9日(日)

- (ア) 県美の近代美術
松林雪貞《菊図》、吉井忠ほか
- (イ) 絵本を描いた芸術家
佐藤忠良、朝倉摂、元永定正ほか
- (ウ) 新収蔵作品紹介金咲淑
金咲淑《交差する点》ほか
- (エ) フランス印象派の絵画
ルノワール《帽子を被る女》ほか
- (オ) ベン・シャーンとアメリカ美術
ベン・シャーン《ラッキードラゴン》ほか

オ 常設トーク

- (ア) 6月16日(日)11時～11時40分
担当 宮武弘(主任学芸員)
参加者数 18名
- (イ) 8月18日(日)11時～11時40分
担当 伊澤文彦(学芸員)
参加者数 17名
- (ウ) 11月17日(日)11時～11時40分
担当 紺野朋子(主任学芸員)
参加者数 14名
- (エ) 2月16日(日)11時～11時40分
担当 山口菜月(学芸員)
参加者数 15名

カ ゲストトーク

- (ア) 9月8日(日)14時～14時30分
林範親氏(造形作家・当館収蔵作品作家)
参加者数 15名
- (イ) 10月20日(日)15時～15時30分
石田智子氏(美術家・当館収蔵作家)
参加者数 42名
- (ウ) 2月8日(土)14時～14時40分
金咲淑氏(美術家・当館収蔵作家)
参加者数 20名
- (エ) 3月8日(土)14時～14時40分
安藤榮作氏(彫刻家・当館収蔵作家)
参加者数 20名

(2) 企画展

令和6年度は6回の企画展を開催し、国内外の様々な芸術文化を紹介した。

ア 美人画の雪月花 培広庵コレクション展

(ア) 会期 令和6年3月23日(土)～5月12日(日)

開催日数 44日(R6年度は36日)

- (イ) 分野 日本画
- (ウ) 展示数 167点
- (エ) 主催 福島県立美術館
- (オ) 観覧料 一般・大学生 1,000(800)円
高校生 600(500)円
小・中学生 400(300)円
※()内は20名以上の団体料金
- (カ) 観覧者数 5,524名(R6年度は4,538名)
- (キ) 概要

本展は、長い年月と情熱をかけて「美人画」を蒐集してきた培広庵氏のコレクションから、上村松園や北野恒富、島成園、土田麦僊、菊池契月ら京都大阪の画家や、浮世絵の流れをくむ鐙木清方や門下の伊東深水、山川秀峰ら、東西美人画の名品167点を特別公開する。大正から昭和初期の、「夢二美人」に代表されるどこか憂いを含んだ女性像や、モダンなライフスタイルを反映した「新しい女」たちの様子が垣間見られ、展覧会をとおして時代と世相、女性美の変化を楽しめる内容であった。

(ク) 関連事業

a 特別ゲストトーク

講師 培広庵氏(本展出品作品コレクター)

日時 4月14日(日)13時30分～15時

場所 福島県立美術館企画展示室

参加者数 53名

b 特別講演会「美人画と装い」

講師 田野葉月(尼崎市文化振興財団 チーフキュレーター)

日時 4月27日(土)13時30分～15時

場所 福島県立美術館講堂

参加者数 47名

c ギャラリートーク

5月3日(金・祝)13時30分～14時30分

担当 月本寿彦(副主任学芸員)

参加者数 41名

イ 福島県立美術館開館40周年記念展 福島的美術家たち2024

(ア) 会期 令和6年5月25日(土)～7月22日(月)

開催日数 51日間

- (イ) 分野 日本画、洋画、版画、立体、工芸
- (ウ) 展示数 作品147点
- (エ) 主催 福島県立美術館
- (オ) 観覧料 一般・大学生 800(600)円

高校生 400 (200) 円

小・中学生 200 (100) 円

※()内は 20 名以上の団体料金

(カ) 観覧者数 4,962 名

(キ) 概要

県立美術館では「福島的美術家たち」展を 1987 年、1989 年、1991 年と 3 回にわたって開催し、本県出身・ゆかりの美術家を紹介してきた。その後も個展やグループ展形式による県作家紹介を続けてきたが、前回展から 30 年以上が経過し、作家の世代交代も進んでいることから、開館 40 周年を機に改めて現代の県作家を展示紹介した。日本画・洋画・版画・立体・工芸の各ジャンルから計 40 名を選出、同時代に活動する優れた県作家の作品を展覧した。

(ク) 関連事業

- ・記念鼎談「福島的美術家たち～これまでとこれから」
出演 齋藤勝正氏（日本画家）、酒井昌之氏（洋画家）、
早川博明氏（当館元館長）

司会 増渕鏡子（副館長心得）

日時 5 月 25 日（土）14 時～15 時 30 分

場所 福島県立美術館講堂

参加者数 62 名

ウ 福島県立美術館開館 40 周年記念展 みんなの福島県立美術館その歩みとこれから

(ア) 会期 令和 6 年 8 月 3 日（土）～9 月 16 日（月・祝）
開催日数 39 日間

(イ) 分野 海外作品、日本画、洋画、版画、立体、工芸
ほか

(ウ) 展示数 作品 131 点、資料 48 点

(エ) 主催 福島県立美術館

(オ) 観覧料 一般・大学生 600 (480) 円
高校生 300 (200) 円
小・中学生 200 (100) 円

※()内は 20 名以上の団体料金

(カ) 観覧者数 3,913 名

(キ) 概要

1984 年 7 月に開館した福島県立美術館は 40 周年を迎えた。当初 600 点にも満たなかったコレクションは、その後の活動の中で数を増やしていき、現在は 4,000 点以上に上る。本展では、美術館のこれまでの歩みをコレクションや当時の資料とともに振り返り、また、美術館の活動や仕事についても紹介を行い、美術館のこれからについて来館者とともに考える機会とした。

(ク) 関連事業

- a 講演会「絵のこと、生きること—私の『美術館』論—」

講師 窪島誠一郎氏（戦没画学生慰霊美術館「無言館」館主）

日時 8 月 10 日（土）14 時～15 時 30 分

場所 福島県立美術館講堂

参加者数 70 名

- b 講演会「福島県立美術館—コレクション事始め」

講師 早川博明氏（当館元館長）

日時 9 月 1 日（日）14 時～15 時 30 分

場所 福島県立美術館講堂

参加者数 60 名

- c ギャラリートーク

9 月 7 日（土）14 時～15 時

担当 紺野朋子（主任学芸員） 齋藤恵（主任学芸員）

参加者数 24 名

エ ポップ・アート 時代を変えた 4 人

(ア) 会期 令和 6 年 10 月 26 日（土）～12 月 15 日（日）

開催日数 44 日

(イ) 分野 版画、グラフィックデザイン、服飾、写真

(ウ) 展示数 138 点

(エ) 主催 「ポップ・アート」福島展実行委員会

[構成：福島県立美術館、福島テレビ、福島民報社]

後援 米国大使館、スペイン大使館、福島県、福島県教育委員会、福島市、福島市教育委員会、福島リビング新聞社

特別協賛 福島トヨタ自動車

協力 日本航空、福島交通、仙台放送、さくらんぼテレビ

企画協力 ブレーントラスト

(オ) 観覧料 一般 1,500 (1,300) 円

大学生 1,000 (800) 円

小・中・高校生 600 (500) 円

※()内は 20 名以上の団体料金

(カ) 観覧者数 11,753 名

(キ) 概要

ポップ・アートは、報道写真、商業広告、量販品のパッケージ、著名人のポートレートなど、日常生活にありふれたモチーフやイメージを美術の中に取り入れ、1960 年代のアメリカのアートシーンを席卷した美術運動である。ロイ・リキテンスタイン（1923-1997）、アンディ・ウォーホル（1928-1987）、ロバート・ラウシェンバーグ（1925-2008）、ジャスパー・ジョーンズ（1930-）はポップ・アートを牽引したアメリカを代表する作家たちである。本展はスペイン出身のコレクター、ホセリス・ルベレス氏のコレクションから 138 点の版画、ポスター、服飾品を本邦初公開した。同じ 1960 年代に脚光を浴びたザ・ビートルズの愛称になぞらえて、本展で「ザ・ファビュラス・フォー（素晴らしき 4 人）」と呼ぶリキテンスタイン、ウォーホル、ラウシェンバーグ、ジョーンズの作品を中心に、ポップ・アートの軌跡を紹介した。

（巡回先：北九州市立美術館、山梨県立美術館、富山県美術館、三重県立美術館）

(ク) 関連事業

- a 講演会「ラウシェンバーグからポップ・アートへ—戦後アメリカ美術の光と影—」

講師 池上裕子氏（大阪大学教授）

日時 12月1日(日)13時～14時30分

場所 福島県立美術館講堂

参加者数 60名

b ギャラリートーク

(a) 日時 11月30日(土)14時～15時

担当 濱田洋亮(学芸員)

参加者数 65名

日時 12月7日(土)14時～15時

担当 山口菜月(学芸員)

参加者数 60名

(b) 日時 12月15日(日)10時30分～11時30分

担当 濱田洋亮(学芸員)

参加者数 60名

c 「思い出を写して物語をつくろう」

講師 齋藤恵(主任学芸員) 白木ゆう美(主任学芸員)

濱田洋亮(学芸員) 山口菜月(学芸員)

日時 11月24日(日)10時～12時30分

場所 福島県立美術館実習室

参加者数 18名

d THE COFFEE' S Chapter3～風韻～

(a) 概要

福島県の魅力の発信をコンセプトに、県内外の自家焙煎コーヒー店や飲食店、雑貨店が集まるコーヒーフェスティバルを美術館庭園広場で行った。本展の中心となる4名の作家をそれぞれイメージしたコーヒーを販売したほか、本展観覧券によるコーヒーの割引を行った。

(b) 共催 THE COFFEE' S 実行委員会

(c) 日時 11月16日(土)、17日(日)2日間

(d) 参加人数 1日目2,400名 2日目2,600名

e ナイトミュージアム

(a) 日時 11月2日(土)～3日(日)

参加者数 73名

(b) 日時 12月7日(土)～8日(日)

参加者数 48名

オ 日本中の子どもたちを笑顔にした絵本作家 かがくいひろしの世界展

(ア) 会期 令和7年1月25日(土)～3月9日(日)

開催日数 37日

(イ) 分野 絵画、立体、資料

(ウ) 展示数 絵本原画239点、資料613点

(エ) 主催 福島県立美術館

特別協力：加岳井久美子、渡辺直子、加岳井武志、ブロンズ新社、沖本敦子、山崎敬三

協力：講談社、PHP 研究所、佼成出版社、教育画劇、偕成社、玄光社、白泉社、特種東海製紙、絵本ナビ、人形劇団プーク、ロバの音楽座、福島大学、福島学院大学、福島県立図書館

(カ) 観覧料 一般・大学生600(500)円

中・高校生：300(200)円

小学生以下：無料

※()内は20名以上の団体料金

(カ) 観覧者数 41,149名

(キ) 概要

絵本「だるまさん」シリーズは、刊行からわずか16年で、累計発行部数1,000万部を越えている。作者・かがくいひろしは50歳にして遅咲きの絵本作家デビューを果たした後、54歳で急逝するまでの4年間で16作品を次々と描きあげた。かがくいは特別支援学校のベテラン教員であり、『だるまさんが』をはじめとする絵本は、障がい児教育の現場経験から生み出されたものであることはあまり知られていない。没後初めて彼の軌跡をふりかえる本展では、絵本原画やアイデアノートとともに、教員時代に手がけた教材や人形劇の貴重な記録をひもとき、日本中の子ども達を笑顔にしているかがくい絵本のルーツを紹介した。

(巡回先：イルフ童話館、花巻市博物館、香美市立やなせたかし記念館、八王子市夢美術館、みやざきアートセンター、四日市市立博物館、秋田県立近代美術館、北海道立旭川美術館、静岡市美術館)

(ク) 関連事業

a 講演会「かがくいひろしー『マイ・フェイバリット』から見えてくるものー」

講師 水島尚喜氏(聖心女子大学教授、本展監修者)

日時 1月25日(土)14時～15時30分

場所 福島県立美術館講堂

参加人数 110名

b 講演会「かがくいひろしの絵本づくりのひみつ」

講師 沖本敦子氏(子どもの本の編集者、かがくいひろし担当編集者)

日時 2月9日(日)14時～15時30分

場所 福島県立美術館講堂

参加人数 129名

c ちいさなはなしかい

日時 ①1月29日(水)10時～10時30分

②2月5日(水)10時～10時30分

対象 0才～3才ごろの子どもと、その保護者

協力 福島県立図書館

参加人数 ①129名 ②70名

d 創作プログラム「親子でだるまさんをえがこう」

日時 2月2日(日)①10時～12時

②14時～16時

対象 5才～小学生とその保護者

①②それぞれ8組まで

参加人数 ①16名 ②14名

e 大学生による人形劇上演会

協力 人形劇団プーク、国立大学法人福島大学、福島学院大学

日時 2月22日(土)、2月23日(日)

※各日3公演

- ① 11 時～11 時 30 分
- ② 13 時 30 分～14 時
- ③ 15 時～15 時 30 分

参加者数 2 月 22 日 ① 150 名② 150 名③ 150 名
2 月 23 日 ① 200 名② 200 名③ 200 名

指導 人形劇団ブーク 栗原弘昌、川尻麻美夏

出演学生 12 名

制作協力 渡邊晃一（福島大学 人間発達文化学類芸術・表現コース 教授）

鈴木美樹（福島学院大学福祉学部こども学科 准教授）

堀川佳子（「かがくいひろしの世界展」企画制作）

特別協力 水島尚喜（聖心女子大学教授、「かがくいひろしの世界展」監修者）

f エントランスホール展示「アートだるま～「風月の芸術祭 in 白河 2024」より～」

出品作家 吾子 可苗、荒井 経、飯野 和好、伊藤 有壺、大竹 京、岡村 桂三郎、黒沼 令、鴻崎 正武、小松 美羽、五味 太郎、柴崎恭秀、鈴木 美樹、福井 利佐、船井 美佐、渡邊晃一

会期 2 月 1 日（土）～28 日（金）

協力 福島大学 芸術による地域創造研究所、風月の芸術祭実行委員会、白河だるま総本舗渡辺だるま店、おしだアート工房

カ THE 新版画 版元・渡邊庄三郎の挑戦

(ア) 会期 令和 7 年 3 月 22 日（土）～5 月 25 日（日）
開催日数 令和 6 年度 8 日 令和 7 年度 48 日

(イ) 分野 版画、資料

(ウ) 展示数 版画 183 点、資料 4 点

(エ) 主催 福島県立美術館

特別協力 渡邊木版美術画舗

企画協力 株式会社アートワン

(オ) 観覧料 一般・大学生 1,000（800）円

高校・大学生 600（500）円

小・中学生 400（300）円

※（ ）内は 20 名以上の団体料金

(カ) 概要

渡邊庄三郎（1885-1962）は、17 歳で横浜の浮世絵商の輸出の店に勤め、そこで出会った浮世絵の、とりわけパレンで摺る木版画特有の美しさに魅了された。自ら版元となって独立し、浮世絵研究と販売を行うかたわら、来日した外国人画家の作品を版画化するなど新たな試みを行った。そうした経験をもとに、伊東深水や川瀬巴水など鐫木清方門下の新進気鋭の画家たちとともに、江戸時代に確立された絵師、彫師、摺師の協業体制を踏襲しつつも、高品質な材料を用いて、幾度も摺りを重ね、「ざら摺り」という手摺りならではの技法を取り入れた、それまでに無い「新版画」を創始して世に送った。新版画は昭和の初めごろまで国内外で高い人気を誇

り、近年再注目を集めている。

本展覧会では、渡邊木版美術画舗の全面的な協力のもと、残存数が少ない貴重な初摺の渡邊版約 180 点を通して、渡邊庄三郎の挑戦の軌跡をたどりながら、今なおモダンで瑞々しい新版画の魅力を紹介した。

（これまでの開催館：ひろしま美術館、茅ヶ崎市美術館、高知県立美術館、美術館「えき」KYOTO、弘前市立博物館、島根県立美術館、水野美術館、秋田県立近代美術館、うらわ美術館）

(キ) 関連事業

a ギャラリートーク

講師 月本 寿彦（副主任学芸員）

日時 3 月 29 日（土）

13 時 30 分～14 時 30 分

参加者数 27 人

b 新版画×プラネタリウム

星空ナビゲーター 杉中 慎

日時 3 月 23 日（日）①13 時～②14 時～③15 時～

場所 エントランスホール

協賛 あぶくまロマンチック街道構想推進協議会

参加者数 ①27 人 ②24 人 ③21 人

c 創作プログラム 木版画摺師とともに多色摺り体験

講師 渡邊章一郎氏（渡邊木版美術画舗代表取締役）、

林 勇介氏（渡邊版画店専属摺師）

日時 3 月 30 日（日）13 時～15 時 30 分

場所 福島県立美術館実習室

参加者数 17 人

(3) 動画配信等による情報発信

展覧会や教育普及事業など、美術館の事業を幅広い世代へ即時効果的に発信するため、広報印刷物の発行のほか、ホームページ、ブログ、教育委員会公式 note、ふくしまポータルをはじめ、X（旧 Twitter）、YouTube、Instagram など、SNS を活用した情報発信を行った。

広報印刷物：ミュージアムカレンダー、「美術館 NEWS」年 6 回、美術館年報、企画展ポスター・チラシ等

SNS 発信：ブログ投稿 3 回（教育普及事業の紹介）、YouTube 動画 13 本（企画展の紹介等）、X（旧 Twitter）フォロワー 2,256 人、Instagram フォロワー 2,351 人

4 調査研究事業

調査研究は美術館活動の基礎をなし、また広く県民に対して美術の情報センター機能を果たすためにデータ集積が欠かせない。県内外の美術家や作品の調査、教育普及、保存、展示等の調査を継続的に実施した。

令和 6 年度は県内の美術品調査と、県内出身作家やゆかりの作家、收藏作家の調査を重点的に行った。

また、学芸員による研究の成果をまとめた研究紀要第 8 号を発行した。

5 教育普及事業

美術をより深く知る喜びを得る機会を提供する事業として、さまざまな講座を開催した。また、つくる楽しみを経験する契機として、各種の実技講座や、学校と連携しての出張講座等を行った。

(1) 館内解説

学校や公民館その他の団体での鑑賞者のために、鑑賞前に学芸員が美術館の概要、鑑賞マナー、代表的な収蔵作品の解説、常設展示や企画展示の概要等のガイダンスを行った。

令和6年度の受入団体総数は106団体3,033人で、そのうち解説を行ったのは53団体1,710人であった。

(2) 鑑賞講座

ア トークフリーデー

「トークフリーデー」とは、展示室内での声の大きさを気にせず鑑賞を楽しんでもらえる日として設定した。小さな子どもや高齢者の方、障がいのある方など、どんな方にも美術館を楽しんでもらえるよう声の大きさを気にしない日として常設展・企画展ともに実施した。家族や友人と一緒にぜひ作品の感想を話しながらお気軽に鑑賞を楽しんでもらえるように、会話の糸口になるワークシートや「おみくじキューブ」のくじなどを展示室入り口に設置した。

日時 5月5日(日)、9月16日(月・祝)、11月3日(日)

イ こどもミュージアムツアー

親子や未就学児等向けに、館内や展示室を紹介するツアーを実施した。ツアーの最後に参加記念の缶バッジを作成した。

講師 白木ゆう美(主任学芸員)、齋藤恵(主任学芸員)

日時 5月5日(日)10時～10時40分

参加者数 15名

ウ アートキューブでにぎやか鑑賞会

「アートキューブ」の中の「おみくじキューブ」や「素材キューブ」、「感覚キューブ」などを用い、展示室内で対話しながら鑑賞を楽しむ会を実施した。

講師 齋藤恵(主任学芸員)、白木ゆう美(主任学芸員)

日時 ①8月24日(土) ②8月25日(日)

③9月16日(月・祝) ④11月3日(日)

場所 ①～③福島県立美術館企画展示室、④同館常設展示室

参加者数 ①4名 ②3名 ③6名 ④9名

(3) 創作プログラム

実技教室は、広く県民各層の美術に関する関心をふまえ、美術の創作と鑑賞の一助とする目的で、子どもから大人まで幅広い対象に応じたプログラムを実施した。

ア 「日本画でお部屋を彩るミニ屏風づくり」(「美人画の雪月花展」関連)

講師 末永敏明氏(日本画家・東北芸術工科大学教授)

日時 4月20日(土)10時～15時30分

場所 福島県立美術館実習室

参加者数 16名

イ 「色であそぼうオリジナルバッジづくり」

講師 齋藤恵(主任学芸員)、白木ゆう美(主任学芸員)

日時 5月5日(日)15時～16時

場所 福島県立美術館エントランスホール

参加者数 19名

ウ 「40周年記念 エアドームで信夫山を作ろう」(美術館協力会関連)

講師 塩川 岳氏(アートコミュニケーター)

日時 6月2日(日)10時～14時

場所 福島県立美術館エントランスホール

参加者数 14名

6月2日(日)～6月16日(日)

8月3日(土)～9月16日(月・祝)の期間、美術館協力会と連携して鑑賞環境を整備し、エントランスホールに創作したエアドームを展示した。

エ 「美しきタペストリー ～積み重なるストーリー～」

講師 橋本圭也氏(東京藝術大学美術学部工芸科染織研究室 教授)

日時 7月13日(土)10時～16時

7月14日(日)10時～13時 ※2日連続

場所 福島県立美術館実習室

参加者数 11名

オ 「夏休み! 藍染め体験!!」

講師 白木ゆう美(主任学芸員)、齋藤恵(主任学芸員)

日時 8月17日(土)10時～11時30分

場所 福島県立美術館実習室

参加者数 18名

カ 「コレクションマグネットをつくろう」

講師 齋藤恵(主任学芸員) 白木ゆう美(主任学芸員)

日時 ①8月24日(土)14時～16時

②8月25日(日)11時～12時

場所 福島県立美術館エントランスホール

参加者数 ①18名 ②15名

キ 「ピカピカ! 埋もれ木体験」

講師 林範親氏(造形作家・当館収蔵作家)

日時 9月8日(日)10時～12時

場所 福島県立美術館実習室

参加者数 16名

ク 「紙々の横顔」

講師 石田智子氏(美術家・当館収蔵作家)

日時 10月20日(日)10時～14時30分

場所 福島県立美術館エントランスホール

参加者数 15名

ケ 「思い出を写して物語をつくろう」※再掲(ポップアート展関連事業)

講師 齋藤恵(主任学芸員) 白木ゆう美(主任学芸員)
濱田洋亮(学芸員) 山口菜月(学芸員)

日時 11月24日(日)10時～12時30分

場所 福島県立美術館実習室

参加者数 18名

コ 「マーブリングでとびだすカードづくり」

講師 齋藤恵(主任学芸員) 白木ゆう美(主任学芸員)

日時 12月8日(日)10時～12時

場所 福島県立美術館実習室

参加者数 17名

サ 「年賀状づくりコーナー（特設ワークショップ）」

日時 11月30日(土)～12月15日(日)

期間中9時30分～17時

場所 福島県立美術館エントランスホール

参加者数 延べ216名

シ 「親子でだるまさんをえがこう」※再掲（かがくいひろし展関連事業）

講師 齋藤恵（主任学芸員）白木ゆう美（主任学芸員）

日時 2月2日(日)①10時～12時

②14時～16時

場所 福島県立美術館実習室、エントランスホール

参加者数 ①16名 ②14名

ス 「木版画摺師(すりし)とともに多色摺り体験」（新版画展関連事業）

講師 渡邊章一郎氏（渡邊木版美術画舗代表取締役）、林 勇介氏（木版画摺師）

日時 3月30日(日)13時～15時30分

場所 福島県立美術館実習室

参加者数 小学生の親子8組17名

(4) 美術館への年賀状展

県内の小・中・高校生から寄せられた手作り年賀状をすべてエントランスホールに展示した。

- ・会期 令和7年1月12日(日)～1月31日(金)
- ・応募総数 132通
- ・観覧者数 2,266名

(5) 美術館・学校教育連携事業

ア 学校連携共同ワークショップ

学校からの要望をもとに平成15年度より実施している連携事業。子どもたちが作家と触れ合う生の機会として、作家・学校・美術館の共同による創作活動を中心にした「出張ワークショップ」を開催した。この事業により相互の協力関係を密にし、新鮮な体験を通して子どもたちの美術や美術館への関心を高めるとともに、通常は美術館を利用しにくい地域へも文化活動を通じて地域社会への貢献を図った。

令和6年度は、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・適応指導教室・生涯学習センター合わせて10校（参加者延べ405名）で開催した。ワークショップで制作した作品は、令和7年1月7日(火)～1月19日(日)の期間、当館企画展示室Bにおいて、活動中のスナップ写真とあわせて展示した。

- (ア) a 講師 小原風子氏（画家・絵本作家）
b プログラム：イマジネーション遊び ～じーっと覗いてみてみよう～
c 内容：葉っぱや石ころ、野菜、光と影、などの身近なものをきっかけに想像力をふくらませて表現する活動。学校の実態に応じて、学校ごとに内容

が異なる活動となった。

d 開催校・人数

- (a) 小野町立小野小学校（3年生）
10月17日(木)52名
(b) 北塩原村立さくら幼稚園（年少・年中・年長）
10月22日(火)23名
(c) 矢吹町立矢吹中学校（美術部）
10月26日(土)16名
(d) 郡山市立行徳小学校（3年生）
10月29日(火)54名
(e) 福島市教育委員会教育研修課（ふれあい教室）
10月31日(木)9名
11月1日(金)10名
11月7日(木)10名

(イ) a 講師 佐藤忠博氏（彫刻家）

b プログラム：木で自分の好きなものを表現しよう

c 内容：小さな木っ端をグルーガンでくっつけて作品を作る活動を行った。小学校では個人での作品作り、中学校ではグループでモビールにした。特別支援学校では木の球体に造形したものを貼り付ける「惑星」を制作した。

d 開催校・人数

- (a) 二本松市立安達中学校（1年生）
9月2日(月)31名
9月3日(火)27名
9月4日(水)27名
(b) いわき市立磐崎小学校（3年生）
9月10日(火)94名
(c) 福島県立会津支援学校竹田校
9月24日(火)2名
(e) 郡山市立御館中学校（1～3年生）
11月11日(月)35名
(f) 会津若松市立第二中学校（美術部）
11月16日(土)15名

イ 先生と考える美術館ミーティング

小学校図画工作、中学校・高等学校美術の鑑賞指導について、講座を開催する福島県教育センターと連携しながら、学校における美術館の活用方法を考えた。

令和6年度は、下記のとおり講座を開催した。

日時 11月8日(金)9時50分～16時

場所 福島県立美術館

講義・演習「学校と美術館の連携活動について」

演習・協議「感性を働かせるプログラム」

講義・演習「鑑賞教育のこれから」

講師 茂木拓氏（教育センター指導主事）、齋藤恵（主任学芸員）桑原和美氏（芸術資源開発機構）

参加者 小学校教諭4名、中学校教諭2名、高等学校教諭1名、特別支援学校教諭5名 合計12名

(6) 博物館実習

学芸員資格取得のため当館での実習を希望する大学生を受け入れ、カリキュラムを組んで指導を行った。

日時 8月20日(火)～8月25日(日)

受講者数 6名

(7) 「中学生ドリームアップ事業」職場体験活動

望ましい勤労観・職業観を育てるとともに、「夢」「志」を育むことを目指し、福島市内全中学2年生で実施しており、当館でも体験活動を行った。

日時 6月25日(火)～6月28日(金)

北信中学校 2年生 2名

大島中学校 2年生 1名

信夫中学校 2年生 1名

吾妻中学校 2年生 2名 合計6名

(8) 県立図書館との連携事業

ア 「アートなおはなしかい」

幼稚園児・小学生とその保護者を対象にした、図書館の「よみきかせ」と美術館の「鑑賞と工作のワークショップ」を連携させた「アートなおはなしかい」を、平成18年度から継続実施した。

日時 11月23日(土・祝) 14時～15時30分

場所 福島県立図書館、福島県立美術館

参加者数 16名

イ 「福島県立図書館・美術館見学会」

小学校の先生や司書の方向けの図書館見学のデモンストレーションや、美術館の団体観覧、ポケットアートの利用方法について説明した。

日時 7月31日(水)14時～15時30分

場所 福島県立図書館第一研修室

参加者数 12名

6 館外連携

県内外の関係機関等と連携・協力して、芸術文化活動の質の向上、県民の美術に対する知識及び教養の向上、地域の活性化に取り組んだ。

令和6年度においても、関係団体との連携事業を実施するとともに、他機関からの要請に応じて委員会委員や講師等として学芸員を派遣し、専門的事項に関する助言・協力を行った。

(1) 友の会、協力会との連携事業

令和6年度に友の会や協力会と実施した連携事業は次のとおりである。

ア 友の会美術鑑賞講座

日時 ①6月22日(土)、②9月16日(月・祝)

各14時～15時

場所 福島県立美術館企画展示室、講義室

講師 ①宮武弘(主任学芸員)

②齋藤恵(主任学芸員)

参加者数 ①20名②22名

イ 友の会実技講座

日時 9月6日(金) 13時30分～15時

「藍染めにチャレンジ」

場所 福島県立美術館実習室

講師 齋藤恵(主任学芸員)

参加者数 5名

ウ 友の会研修旅行

日時 11月8日(金) 8時30分～17時

場所 茨城県天心記念五浦美術館、茨城大学五浦文化研究所

内容 企画展「猫を愛でたい」展の見学、五浦六角堂の見学等

参加者数 27名

エ アートチャリティーバザー

＜福島県立美術館友の会の主催＞

友の会会員や美術館関係者が美術工芸品、美術図書、図録、ミュージアムグッズなどを持ち寄り、バザーを実施した。

日時 12月8日(日) 9時30分～12時

場所 福島県立美術館エントランスホール

参加者数 450名

オ ミュージアム・コンサート

＜NPO法人福島県立美術館協会、福島県立美術館友の会との共催＞

日時 3月2日(日) 14時～

場所 福島県立美術館講堂

参加者 220名

出演 伊藤利英子(チェロ)、増田みどり(ピアノ)

カ 触って、話して、見て楽しむ美術鑑賞ワークショップ

＜NPO法人福島県立美術館協会との共催＞

日時 3月9日(日) ①10時30分～12時

②14時～15時30分

場所 福島県立美術館常設展示室

講師 安藤榮作氏(彫刻家・当館収蔵作家)

濱田洋亮(学芸員) 白木ゆう美(主任学芸員)

齋藤恵(主任学芸員)

参加者数 13名

キ アートカード『ぼけっとアート』貸出

平成29年4月から、当館所蔵作品80点をカード形式にした鑑賞補助教材『ぼけっとアート』の貸出を継続して行っている。令和6年度の貸出総数は、小学校、中学校、高校、その他教育関係機関を含め、190カ所、935セットであった。

ク 美術館40周年記念映像上映

美術館協力会と連携して、美術館40年の歩みを映像で紹介した。

(2) 文化財保護(レスキュー)活動

災害時においては、県内の美術作品を中心として文化財

の被災情報を収集し、関係機関と連携しながら、作品保全のための活動を行うこととしている。

能登地震の被害状況についても全国美術館会議を通じて情報収集しており、可能な範囲で協力した。

令和6年度は国立文化財防災センターと全国美術館会議を通じて、能登半島地震被災文化財等救援委員会に参加した。令和6年度から増渕副館長心得が全国美術館会議災害対策委員会となり、毎週石川県庁で行われる会議にオンラインで出席した。また、同委員会において以下の通り学芸員を派遣、被災文化財のレスキュー作業を行った。

5月13日(月)～17日(金) 齋藤恵主任学芸員派遣
(能登町、輪島市、珠洲市、七尾市)

7月1日(月)～5日(金) 月本寿彦副主任学芸員派遣
(能登町、輪島市)

9月24日(火)～27日(金) 坂本篤史主任学芸員派遣
(輪島市)

(3) 他機関への協力

他機関からの要請に応じて委員会委員や講師等として学芸員を派遣し、専門的事項に関する助言・協力を行った。

ア 委員等

- ・福島ユニセフ協会評議員 高橋 英子 館長
- ・福島市文化振興審議会委員 高橋 英子 館長
- ・文化スポーツ局指定管理者選定検討会委員 高橋 英子 館長
- ・斎藤清画伯顕彰協議会特別幹事 高橋 英子 館長
- ・増渕 鏡子 副館長心得兼学芸課長
- ・福島県総合美術展覧会運営委員 増渕 鏡子 副館長心得兼学芸課長
- ・郡山市立美術館協議会委員 増渕 鏡子 副館長心得兼学芸課長
- ・第78回福島県総合美術展覧会大賞選考委員 増渕 鏡子 副館長心得兼学芸課長
- ・県外在住功労者知事表彰選考委員 増渕 鏡子 副館長心得兼学芸課長
- ・宇都宮美術館美術作品等収集評価委員会委員 増渕 鏡子 副館長心得兼学芸課長
- ・新潟市美術館・新津美術館美術資料選定委員会委員 増渕 鏡子 副館長心得兼学芸課長
- ・いわき市美術品選定評価委員会委員 増渕 鏡子 副館長心得兼学芸課長
- ・喜多方市美術品収集委員会委員 増渕 鏡子 副館長心得兼学芸課長
- ・全国美術館会議災害対策委員会委員 増渕 鏡子 副館長心得兼学芸課長
- ・全国美術館会議地域美術研究部会幹事 増渕 鏡子 副館長心得兼学芸課長
- ・倫雅美術奨励賞選考委員 増渕 鏡子 副館長心得兼学芸課長
- ・可月亭庭園美術館評議員

増渕 鏡子 副館長心得兼学芸課長

- ・第22回猪苗代湖・裏磐梯湖沼フォトコンテスト審査会委員 坂本 篤史 主任学芸員
- ・福島市写真美術館運営委員会委員 白木 ゆう美 主任学芸員
- ・第19回西会津国際芸術村公募展審査員 坂本 篤史 主任学芸員
- ・福島県建築文化賞審査員 堀 宜雄 専門員
- ・県教育センター主催「創造性を育む図面工作・美術の鑑賞指導法講座」齋藤 恵 主任学芸員
- ・「新しいAIZUの美術展」選考委員 白木 ゆう美 主任学芸員

イ 講師派遣、寄稿、発表、受賞等

- ・西会津国際芸術村指定管理者BOOT「所蔵美術品の管理方法」開催日 令和6年4月18日(木)
講 師 坂本 篤史 主任学芸員
- ・福島県立医科大学保健科学部「福島県を知る」開催日 令和6年5月1日(水)
講 師：宮武 弘 主任学芸員
月本 寿彦 副主任学芸員
- ・福島大学人間発達学類「現代美術アートマネージメント」開催日 令和6年6月11日(火)
講 師 増渕 鏡子 副館長心得兼学芸課長
- ・令和6年度福島県高等学校教育研究会美術・工芸部会第69回研究大会並びに総会開催日 令和6年6月20日(木)～21日(金)
講 師 齋藤 恵 主任学芸員
- ・渡利学習センター講座「福島県立美術館開館40周年記念展 みんなの福島県立美術館その歩みとこれから 展覧会紹介」開催日 令和6年7月17日(水)
講 師 高橋 英子 館長、紺野 朋子 主任学芸員
- ・安城市歴史博物館特別展「ごろごろまるまるネコづくし」記念講演会「ネコはどうして描かれたか」開催日 令和6年7月20日(土)
講 師 月本 寿彦 副主任学芸員
- ・令和6年度福島県小学校教育研究会福島地区図画工作科研究部夏季研究協議会及び夏季選択研修会図画工作研究部会開催日 令和6年7月23日(火)
講 師 齋藤 恵 主任学芸員、伊澤 文彦 学芸員
- ・福島県小学校教育研究会伊達地区会図画工作研究部夏季研究協議会「福島県立美術館アートカード『ぽけっとアート』の活用」開催日 令和6年7月25日(木)
講 師 白木 ゆう美 主任学芸員

- ・須賀川市文化団体連絡協議会主催第 35 回須賀川市文化フォーラム講演会
「水彩画家・五十嵐二郎とめぐる風景画の旅-福島からヨーロッパへ」
開催日 令和 6 年 9 月 7 日(土)
講 師 坂本 篤史 主任学芸員
- ・第 75 回美学会全国大会若手研究者フォーラム発表
「1970 年代における山口勝弘の創作実践とその解釈について」
ービデオによる「コミュニケーション」の実現」
開催日 令和 6 年 10 月 13 日(日)
発 表 伊澤 文彦 学芸員
- ・福島市アクティブシニアセンター・アオウゼ主催
講座「楽しみ！大ゴッホ展」
開催日 令和 6 年 11 月 6 日(水)
講 師 坂本 篤史 主任学芸員
- ・県教育センター主催「創造性を育む図面工作・美術の鑑賞指導法講座」
開催日 令和 6 年 11 月 8 日(金)
講 師 齋藤 恵 主任学芸員
- ・伊達市学力向上推進事業研究会「主体的に学ぶ子どもの育成」
開催日 令和 6 年 11 月 15 日(金)
講 師 白木 ゆう美 主任学芸員
- ・さいたま市民大学美術 I コース「THE 新版画 版元・渡邊庄三郎の挑戦」展特別講演会
「THE 新版画 展覧会の魅力」
開催日 令和 6 年 11 月 30 日(土)
講 師 月本 寿彦 副主任学芸員
- ・郡山市立美術館主催学術シンポジウム
「近世ヨーロッパの版画の諸相」
開催日 令和 6 年 12 月 7 日(土)
司 会 坂本 篤史 主任学芸員
- ・筑波大学芸術学美術史学会 24 年度秋季研究発表会
「ジョージ・ナカシマとベン・シャーンー「第 1 回ジョージ・ナカシマ展」におけるインテリアとしてのアートー」
開催日 令和 6 年 12 月 8 日(日)
発 表 濱田 洋亮 学芸員
- ・筑波大学芸術学系芸術学研究室『藝叢』第 40 号
「ジョージ・ナカシマとベン・シャーンー「第 1 回ジョージ・ナカシマ展」におけるインテリアとしてのアートー」
発 表 濱田 洋亮 学芸員
- ・尚絅学院大学人文社会学類「博物館論」
開催日 令和 6 年 12 月 11 日(水)
講 師 坂本 篤史 主任学芸員
- ・福島市まちなか交流施設ふくふる「絵本作家かがくいひろしの世界展」「福島県立美術館 40 周年」紹介展示

- 開催日 令和 7 年 1 月 15 日(水)～30 日(木)
2 月 1 日(土)～14 日(金)
白木 ゆう美 主任学芸員
紺野 朋子 主任学芸員、伊澤 文彦 学芸員
- ・国立大学岡山大学教育推進機構「日本画家勝田蕉琴未スケッチ帳の調査・撮影」
開催日 令和 7 年 2 月 17 日(月)
派 遣 堀 宜雄 専門員
 - ・『第 75 回美学会全国大会 若手研究者フォーラム発表報告集』181-190 頁
「1970 年代における山口勝弘の創作実践とその解釈についてービデオによる「コミュニケーション」の実現」令和 7 年 3 月刊行 伊澤 文彦 学芸員
- ウ 編集・制作
一般社団法人全国美術館会議が発行した「福島県立美術館東日本大震災報告書」の編集・制作にたずさわった。
発行日 2024 年 4 月 26 日

第 13 節 福島県立博物館

1 概要

福島県立博物館は、資料収集・展示・調査研究・教育普及事業を中心に、内容の充実を図っている。

令和 6 年度の博物館活動の概要は次のとおりである。

(1) 運営協議会

博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関である。

ア 運営協議会委員

学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者 10 名に委嘱している。平成 13 年 1 月からは、委員の選考に一部公募方式を導入した。

福島県立博物館運営協議会 委員名簿

氏 名	役 職	備 考
冠木 利香	会津若松市立大戸小学校長	学校教育
本田 知史	福島県立だて支援学校校長	学校教育
長野 隆人	いわき芸術文化交流館副館長 (支配人)	会長 社会教育
佐藤 公	磐梯山噴火記念館館長	副会長 社会教育
長沼 千恵	福島県家庭教育インストラクター 連絡協議会理事	家庭教育
川口 立喜	公立大学法人会津大学企画推進本部国際戦略室長・上級准教授	学識経験者
四家 久央	いわき市文化財保護審議会委（合 名会社四家酒店代表社員）	学識経験者
大越 章子	日々の新聞社記者	学識経験者
岩崎 和美	書道家	学識経験者
町田 久次	公募委員	公 募

イ 会議

第1回 令和6年6月20日(木)

議題

- ①令和5年度事業実績について
- ②第3期中期目標の総括について
- ③第4期中期目標について
- ④令和6年度事業案について
- ⑤令和6年度当初予算について
- ⑥常設展総合展示室再開の見込みについて

第2回 令和7年2月19日(水)

議題

- ①令和6年度事業報告について
- ②令和7年度事業計画(案)について
- ③文化観光拠点施設機能強化事業(三の丸からプロジェクト)の成果と今後の展望について
- ④第4期中期目標の実績について
- ⑤今後の取組みについて
- ⑥観覧料の改定について

2 資料収集事業

(1) 収集展示委員会

ア 収集展示委員会委員

館の収集資料、企画展の計画等についての審議のため、12人を委嘱している。

福島県立博物館収集展示委員会 委員名簿

氏 名	役 職 名	備 考
村川 友彦	福島県史学会会長、元福島県歴史資料館課長	委員長
岡田 清一	東北福祉大学名誉教授	副委員長
青野 友哉	東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科准教授	
大石 雅之	岩手県立博物館研究協力員、東北大学総合学術博物館協力研究員	
奥村 弘	神戸大学理事・副学長	
加藤 幸治	武蔵野美術大学教養文化・学芸員課程教授	
北野 博司	東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科教授	
角屋 由美子	米沢市上杉博物館上杉文化研究室室長	
玉川 一郎	前 福島県考古学会会長	
原田 一敏	ふくやま美術館長	
三上 喜孝	国立歴史民俗博物館教授	
柳沢 秀行	公益財団法人大原美術館学芸統括	

イ 会議

令和6年度は前年度に引き続き、対面開催・オンライン開催を組み合わせた開催方法とした。

開催日 令和6年7月24日(水)

議題

- ①今後3年間の展示計画について
- ②令和7年度・令和8年度開催予定企画展等について
- ③購入予定資料について
- ④美術品等取得基金の現状と購入希望資料について

(2) 受贈・受託

ア 歴史資料

- (ア) 受贈 写真ほか 計47件
- (イ) 受託 海軍大尉鹿岡圓平「日記」ほか 計7件

イ 美術資料

- (ア) 受贈 勝田蕉琴筆「農村新年図」ほか 計41件
- (イ) 受託 永峰伊水「牡丹孔雀図」ほか 計50件

ウ 民俗資料

- (ア) 受贈 再現製作根子町人形「鯛乗り恵比寿」ほか 計117件

エ 考古資料

- (ア) 受贈 土器一括 1件

オ 自然資料

- (ア) 受贈 川俣町水晶山産鉱物ほか 計7件

(3) 購入

ア 自然資料

- 恐竜レプリカほか 計5件

イ 図書資料

- (ア) 一般図書 31冊
- (イ) 定期刊行物 30種

(4) 移 管

ア 歴史資料

- 野口英世千円札(記番号HM299999A) 1件

イ 災害資料

- 新型コロナウイルス感染症関連ファイル 1件

(5) 制 作

民俗資料

- 食品サンプル 計3件

3 保存管理事業

(1) 資料の収蔵

ア 博物館資料

資料受入れ時点における収蔵資料件数の、現在までの累計を示す。件数は概数であり、「一括」で受け入れた資料は1件と数える。

収蔵資料数(令和7年3月31日現在)

分野	件数	備 考
考古	21,071	土器・石器・金属器ほか
民俗	14,391	生活・生業・交通・信仰・芸能用具ほか
歴史	22,772	書籍・文書資料ほか
美術	7,666	絵画・彫刻・工芸資料ほか
自然	44,586	化石・岩石・鉱物ほか
震災遺産	638	被災遺物、文書資料、写真ほか
合計	111,124	

令和6年度収蔵指定文化財 国指定: 9件
福島県指定: 46件

イ 図書及び映像

(ア) 収蔵図書数 (令和7年3月31日現在)

- 考古分野 31,172冊 民俗分野 5,191冊
- 歴史分野 11,306冊 美術分野 5,064冊

自然分野 18,046 冊 保存分野 1,977 冊
 震災遺産 224 冊 そ の 他 66,712 冊
 合計 139,692 冊

(イ) 収蔵映像資料数 (令和 7 年 3 月 31 日現在)

収蔵映像資料総数 1,932 点

(2) 登録・整理

ア 資料管理システムの運用

イ 資料の登録・資料情報の外部公開

登録資料数・資料情報の外部公開数

(令和 7 年 3 月 31 日現在)

資料類別	登録資料 (令和 6 年度)	登録資料 (累計)	資料情報の外部公開 (令和 6 年度)	資料情報の外部公開 (累計)
考古資料類	1,274	14,103	1,274	5,800
民俗資料類	2,494	27,224	2,494	16,803
歴史資料類	0	47,036	0	20,801
美術工芸品類	0	7,586	0	194
自然標本類	5	29,882	2	19,148
合計	3,773	125,831	3,770	62,746

ウ ボランティア

博物館資料の整理のため、次のとおり資料整理ボランティアを受け入れ、学芸員との協働により資料整理作業を進めている。

(ア) 自然資料整理

相馬中村層群資料の整理作業など

登録人数 2 名 活動日数 延べ 58 日

(イ) 古文書整理

歴史資料の整理作業 (表題・年代・法量などのデー

タ採取) 登録人数 11 名 活動日数 延べ 67 日

(ウ) 民俗資料整理

写真資料の整理

登録人数 1 名 活動日数 6 日

(エ) 考古資料整理

寄贈資料の整理・撮影

登録人数 2 名 活動日数 延べ 46 日

(オ) 美術資料整理

会津工業高校旧蔵資料整理作業

登録人数 1 名 活動

(3) 貸 出

ア 博物館資料

貸出資料一覧

資 料 名	貸 出 先	貸出期間	展 覧 会 名
郡山市熱海町出土ナウマンゾウ臼歯 (レプリカ) 1 点	大安場史跡公園	令和 6 年 4 月 1 日～ 令和 7 年 3 月 31 日	常設展
跡見塚古墳出土土玉類 318 点	須賀川市立博物館	令和 6 年 4 月 1 日～ 令和 7 年 3 月 31 日	常設展
桜井遺跡出土土器ならびに石器 21 点	南相馬市博物館	令和 6 年 4 月 1 日～ 令和 7 年 3 月 31 日	常設展
十二天図 (慧日寺旧蔵) 旧軸木 慶長 6 年銘 1 点 十二天図 (慧日寺旧蔵) 旧軸木 延宝政 3 年銘 1 点	磐梯町磐梯山 慧日寺資料館	令和 6 年 4 月 5 日～ 12 月 2 日	常設展
ぜんまい綿のワンピース	ミュージアムパーク 茨城県自然博物館	令和 6 年 6 月 21 日～ 10 月 18 日	企画展「羊歯 (シダ) —花はな いけど華はある—」
蚕当計	アクアマリンいわしろ カワセミ水族館	令和 6 年 7 月 4 日～ 11 月 30 日	企画展「蠶 (カイコ) 展～あな たの知らないカイコの世界～」
雪村周継筆「瀟湘八景図帖」 雪村周継筆「竹に鳩図」 雪村周継筆「蔬果図」	茨城県立歴史館	令和 6 年 10 月 16 日～ 令和 7 年 5 月 31 日	展覧会「雪村」
木造建築継ぎ手一式	昭和村松山区	令和 6 年 8 月 8 日～ 8 月 15 日	昭和村松山集落主催学習会「地 域に伝わる伝統的な手仕事」
白河城下絵図 (当館寄託) 1 点	小峰城歴史館	令和 6 年 8 月～11 月	企画展「南湖公園物語—白河に うけつがれた共楽の園地—」

資 料 名	貸 出 先	貸出期間	展 覧 会 名
平成 17 年制作「只見川の雛流し」映像 DVD（ショート版） 1 点 平成 17 年制作「只見川の雛流し」映像 DVD（ロング版） 1 点	福島県文化財センター白河館	令和 7 年 1 月 17 日～ 3 月 12 日	体験活動メニュー「ふくしまのおひなさまをつくろう」
石英安山岩質溶結凝灰岩ほか 計 8 点	会津美里町郷土資料館	令和 7 年 3 月 11 日～ 令和 8 年 3 月 10 日	常設展
刺繍阿弥陀名号（当館寄託） 1 幅	東京国立博物館 京都国立博物館	令和 6 年 3 月 22 日～ 12 月 末 日	特別展「法然と極楽浄土」

イ 写真資料

総数 : 111 件 189 点

考古 : 17 件 35 点 民俗 : 6 件 18 点

歴史 : 53 件 93 点 美術 : 35 件 43 点

(4) 保 存

収蔵資料を適切に保存するため、収蔵庫及び展示室など主要箇所の保存環境の定期調査、新規収蔵資料の生物被害防除を実施している。

ア 保存環境調査

常設展示室・収蔵資料展示室・企画展示室、収蔵庫（一時、第 1～第 6 収蔵庫）など主要なスペースの保存環境を 6 月と 10 月の年 2 回調査した。

イ 生物被害防除

7 月と 9 月に新収蔵資料などを対象にエキヒューム S を用いた文化財燻蒸を実施した。

ウ 収蔵庫問題

収蔵庫のひっ迫問題への対応として、運営協議会委員有志メンバーとオンラインミーティングを 3 回行った。2 つの収蔵庫の収蔵率を算出した。

4 展示事業

(1) 常設展示

総合展示と分野別展示からなる。総合展示は、原始から現代までの福島県の歴史を通観し、人々の暮らしを時系列に沿って展示している。原始・古代・中世・近世・近現代・自然と人間の 6 つのテーマで構成される。ただし、令和 6 年度は消防設備の不具合から総合展示室を閉室した。分野別の展示は、テーマ性の高い専門的な展示であり、民俗・自然・考古・歴史美術の展示に分かれる。

ア テーマ展

常設展示室内において、特定のテーマを設定した小・中規模展示を「テーマ展」として全 7 回開催した。

- (ア) 「よみがえる会津大塚山古墳」
- (イ) 「けんぱくの宝一会津の絵画」
- (ウ) 「三島町荒屋敷遺跡を考える」
- (エ) 「祈りのふくしま 8 一個性豊かなほとけたち」
- (オ) 「美しき刃たち」
- (カ) 「蒲生氏郷と会津の茶陶」
- (キ) 「酒をとりまく美術」

イ ポイント展

常設展示室内及びエントランスホールにおいて、特

定資料の公開を目的とした小規模展示を「ポイント展」として全 9 回開催した。

- (ア) 「イノセ学芸員のイノセラムス研究」
- (イ) 「ヴェーゲナーの見た夢」
- (ウ) 「ありがとう！野口英世千円札」
- (エ) 「触って観ようー障がい者をめぐるあそび・まなびー」
- (オ) 「恐竜を発掘するには」
- (カ) 「みんなの震災遺産」
- (キ) 「友の会化石鉱物探検隊ミニ成果展」
- (ク) 「会津木綿の世界」
- (ケ) 「新鉱物発見！ 宮脇石」

ウ 総合展示室 F 「自然と人間」の展示更新

開館以来更新がなかった第二次世界大戦後の福島県の姿について、総合展示室 F 「自然と人間」を現代史の視点で展示更新し、東日本大震災を伝える資料である「震災遺産」を常設展示した。

(2) 企画展示

歴史・美術・民俗・考古・自然・災害の各分野が単独もしくは協力し企画した館のオリジナルなテーマに基づいた展示を中心に、会期を設定して開催している。令和 6 年度は、3 本の企画展示と令和 7 年度春の企画展のプレイベントを実施した。

ア 春の企画展

「幕末明治の浮世絵百年―大江戸の賑わい―」

- (ア) 会期 令和 6 年 4 月 27 日(土)～6 月 16 日(日)

開館日数 45 日間

- (イ) 会場 企画展示室
- (ウ) 入館者数 6,821 人
- (エ) 担当学芸員 歴史分野：栗原 祐斗、渡邊 歩
- (オ) 趣旨

庶民文化で賑わう江戸末期から文明開化で華やぐ明治までの約 100 年。浮世絵は多色摺木版画の登場によって世に広まり、庶民に親しまれた。浮世絵の文化が花開くと、北斎、広重、英泉、豊国、国貞、国芳、芳年といった天才・奇才の絵師が次々と登場し、数々の作品を生み出した。今回の展覧会では、複数の絵師による多様なテーマの作品を集め、観覧者に浮世絵の世界の幅広さや面白さに触れていただくことを目指した。

(カ) 展示構成

- a 風景画 旅すがた人模様

- b 美人画 四季の装いと化粧
- c 幽霊と妖怪絵
- d 江戸の三大ペット 猫、犬、金魚
- e 相撲絵
- f 英雄、ヒーローたちの物語
- g 劇画 江戸っ子の遊び心
- h 開花絵 異国への憧れ
- i 明治という時代
- j 明治の美人画 欧化ファッション

(k) 関連事業

- a 講演会「浮世絵の楽しみ方—絵師や主題に注目して—」
5月12日(日)
講師 藤澤 茜(神奈川大学准教授、国際浮世絵学会常任理事)
- b ワークショップ「うきよえをぬってみよう in こどもミニミニはくぶつかん」
5月3日(金・祝)
- c 歴史講座「浮世絵のくずし字を読んでみよう」
6月9日(日)
講師 栗原 祐斗(当館学芸員)
- d 展示解説会
4月28日(日)、5月26日(日)、6月9日(日)
講師 栗原 祐斗、渡邊 歩(当館学芸員)

イ 夏の企画展

「縄文DX—会津・法正尻遺跡と交流の千年紀—」

(ア) 会期 令和6年7月6日(土)～9月1日(日)

開館日数 50日間

(イ) 会場 企画展示室

(ウ) 主催 福島県立博物館

(エ) 入館者数 7,761人

(オ) 担当学芸員 考古分野：高橋 満

(カ) 趣旨

平成21年(2009)7月10日に国重要文化財に指定された「法正尻遺跡出土品」の指定15周年を記念し、保管する県文化財センター「まほろん」から会津への「里帰り展」として国重文の優品(一部指定品外を含む)を展示公開した。「法正尻遺跡出土品」のまとまった数量を会津地域で公開する初めての展覧会である。

当該資料は、法正尻遺跡(磐梯町・猪苗代町)から出土した縄文時代中期の出土品の一括である。

磐越自動車道建設に伴い発掘調査行われ、堅穴住居跡129軒、土坑759基、埋甕26基、焼土遺構108基などが発見され、26万点におよぶ遺物が出土した。遺跡の広がりや遺構の数、そして出土品の量から福島県域のみならず東北地方南部を代表する拠点的な大規模集落であることが分かる。

また遺跡の存続年代がおよそ一千年間に及ぶ長期継続集落であることも特徴的で、遺跡形成期は会津盆地一円に大きな影響を与えた沼沢火山の噴火とほぼ一致することが注目され、会津地域の環境変動と縄文

社会の再編成を検討しうる遺跡としても重要である。出土遺物のうち遺跡を特徴づけるのは縄文時代中期をほぼ網羅する縄文土器である。会津地域は、東北南部の大木式土器(Daigishiki)の分布圏にある。地理的に関東地方や北陸地方に近接することから大木式土器圏の中でも他地域との交渉が盛んなエリアで、例えば新潟方面の馬高式土器の影響による「会津タイプ」とよばれる大木式に他地域の要素を掛け合わせた独自の土器類型も生み出されている。また土偶(Dogu)にも着目し、県内出土関連資料や他県の出土資料も紹介しながら会津との地域間交流とそれを支えるネットワーク(X)から縄文文化の十字路(X)として会津地域の特徴を浮かび上がらせる。

(k) 展示構成

- a DXな土器たちと大木式土器
- b 法正尻遺跡の出現
- c DoGuの世紀
- d デコデココレクション とっても3Dな土器たち
- e ようこそふくしまへ あちらの土器そちらの形
- f 行き交うモノとネットワーク
- g D×DG —土器とヒト形のハイブリッド
- h 土器の変化と繋がる文様
- i 複式炉の時代
- j Next DX

(k) 関連事業

- a 講演会「土器に宿る—縄文中期・ふくしまの人体文」
7月13日(土)
講師 高橋 満(当館学芸員)
- b 講演会「ヒスイの道を探る」
8月3日(土)
講師 栗島 義明(明治大学非常勤講師)
- c 展示解説会「『縄文土器』をよみきかせ」
8月10日(土)、8月21日(水)、8月31日(土)
講師 高橋 満(当館学芸員)

ウ 秋の企画展

「ふくしまの酒造り—酒を醸し 和を醸す—」

(ア) 会期 令和6年9月21日(土)～12月1日(日)

開館日数 62日間

(イ) 会場 企画展示室

(ウ) 主催 福島県立博物館

(エ) 後援 会津若松市教育委員会ほか18団体

(オ) 入館者数 6,615人

(カ) 担当学芸員 主担当 民俗分野：大里 正樹
副担当 民俗分野：山口 拡、西尾 祥子
美術分野：小林 めぐみ
歴史分野：栗原 祐斗

(キ) 趣旨

会津地方は創業年として寛永年間にも遡る歴史ある酒造家が多く、また近世後期には会津藩家老・田中玄宰による藩財政再建策の一環として、藩直営の酒造

蔵にて銘酒「清美川」が醸造されるなど、酒は重要な産品の一つでもあった。近世会津の名物の番付である『若松緑高名五幅対』には、「酒座」「酒造」「名酒」の項目も見られる。そうした老舗蔵元のいくつかは地域の神社の神酒を醸造する酒蔵でもあり、元来、酒は神に供える重要な神饌でもあった。福島県域は神社の例大祭などの際に神饌としてどぶろくを醸して供え、参拝客へふるまうなどいわゆる「どぶろく祭り」の多い地であることが特筆される。酒造免許を有する神社は東北6県で唯一、福島県にのみ10社と多数を数える。

また、酒造家はそれぞれの土地を象徴する存在でもあり、酒造家を中心とした文化的サロンが形成されるなど新たな文化を創造し、地域の文化を向上させる役割も果たしてきた。ひるがえって現代では、福島県は全国新酒鑑評会金賞受賞数9年連続日本一の酒どころとなり、日本酒の名産地として国内のみならず世界的にも高い知名度を誇っている。本展ではそうした福島の「酒」をテーマに、様々な切り口から酒どころ・福島県の歴史や文化を紐解いた。

(ク) 展示構成

- a 酒と信仰
- b 酒造りの技術と道具
- c 酒どころ・ふくしまの歩み
- d 酒造と地域

(ケ) 関連事業

- a 会津酒蔵めぐり 酒蔵スタンプラリー
10月1日(火)～12月1日(日)
- b 講演会 「酒の日本文化」
9月28日(土)
講師 神崎 宣武 (民俗学者)
- c ワークショップ「酒林(杉玉)をつくろう」
10月27日(日)
講師 渡部 裕高 (会津酒造専務)
- d 令和6年能登半島地震復興支援チャリティー上映会「一献の系譜」
11月4日(月・祝)
- e 学芸員によるギャラリートーク
9月21日(土)、9月23日(月・祝)、10月1日(火)、10月12日(土)、10月13日(日)、10月14日(月・祝)、10月19日(土)、11月3日(日・祝)、11月9日(土)、11月30日(土)、12月1日(日)

エ 令和7年度春の企画展プレイベント

「ボーダーなき世界を―福島県立博物館と Well-being―」

(ア) 助成 一般財団法人 地域創造 令和6年度地域の文化・芸術活動助成事業

(イ) 担当学芸員 美術分野：小林 めぐみ、川延 安直

(ウ) 趣旨

性、年齢、障害の有無による差、経済格差、都市と地方の地域格差、被災地と非被災地。私たちが生きる

社会にはさまざまなボーダーがあり、その克服が課題である。

本展では、7つの問いを起点にこれまで福島県立博物館がアーティストと取り組んできた活動などをご紹介し、ミュージアムとアートが介在することで生まれる well-being から、みなさんと目指すべきボーダーなき世界を考える。

(エ) 事業内容

a ワークショップ「食に学ぶ海幸山幸」

12月15日(日)、令和7年2月22日(土)

講師 一ノ瀬 幸代、新井田 恵子 (柳津町の料理継承者)、小池アミゴ (イラストレーター)

協力 柳津町中央公民館

b ワークショップ「魅力の予感」

令和7年1月20日(月)、2月14日(金)、2月15日(土)、3月7日(金)、3月8日(土)

講師 きむらとしろうじんじん (美術家、陶芸家)

協力 会津若松市教育委員会、適応指導教室「ひまわり」

c 会津型で何つくろう？

令和7年3月3日(月)、3月15日(土)、3月25日(火)

アドバイス さとうてつや (デザイナー)

協力 西会津町授産所、特定非営利活動法人夢あるき・夢の樹

(3) 指定文化財の公開

令和6年度の展示で以下の指定文化財の公開を行った(館蔵・寄託品などは除く)。

ア 国指定

a 国宝

- (a) 土偶 1点 茅野市 (長野県)
- (b) 土偶／山形県西ノ前遺跡出土 1点 山形県
(以上2件は、企画展「縄文DX」にて展示公開)

b 重要文化財

- (a) 磐城檜葉天神原遺跡出土品のうち2点 檜葉町教育委員会 (福島県)
(総合展示室：原始にて展示公開)
- (b) 法正尻遺跡出土品のうち 土器83点、石器102点、土製品3点、石製品20点 福島県
- (c) 長野県藤内遺跡出土品のうち 神像筒型土器 1点 富士見町 (長野県)
- (d) 山梨県鋳物師屋遺跡出土品のうち 人形文様付有孔鍔付土器1点、サル形土製品1点 南アルプス市
(以上3件は、企画展「縄文DX」にて展示公開)

イ 県指定 (福島県指定)

a 重要文化財

- (a) 関和久官衙遺跡出土品のうち 墨書土器 4点 福島県

- (b) 根岸官衙遺跡出土品のうち 軒丸瓦 1点
いわき市
- (c) 夏井廃寺跡出土品のうち 軒丸瓦 2点 いわき市
(以上3件は、総合展示室：古代にて展示公開)
- (d) 石生前遺跡出土品 7点 柳津町
- (e) 和台遺跡出土 人体文土器及び狩猟文土器 2箇
福島市
(以上2件は、企画展「縄文DX」にて展示公開)

(4) 展示解説

ア 展示解説員

令和6年度の展示解説員の人数は13名で前年度と変わらなかった。

12月からの休館中には、研修など多く取り入れ、スキルアップに努め、また館内整理や資料整理などの学芸員の業務をサポートした。

5 調査研究事業

(1) 展示資料調査研究

将来の博物館リニューアルに向け、令和6年度は以下の7テーマの調査を実施した。

ア 考古資料による原始・古代の画期の再検討

(ア) 分野 考古分野

(イ) 調査概要

名古屋大学博物館が所蔵する本県桑折町出身の考古学者故角田文衛氏(昭和61年第17回県外在住功労者知事表彰受賞)が本県で発掘調査した桑折町南薩摩遺跡等の縄文時代の遺跡出土品の内容確認調査を実施した。昭和初期に行われた発掘調査であり、発掘調査に手法や一部をのぞく未公表資料は本県考古学史を振り返る上で重要である。

イ 災害史の学際的研究と災害史展示の構築

(ア) 分野 民俗・考古・歴史・自然・災害分野

(イ) 調査概要

震災遺産の常設展での展示に向けて、学芸員との意見交換を通じて、来館者に求められる内容の検討や、今後展示に必要な資料等の確認を行った。他施設の学芸員とも現代史の捉え方や関連資料に関して意見交換を行った。第二次世界大戦後から県土の開発や産業の変遷などを軸とした現代史の展示として東日本大震災までを展示した。資料調査を進めた成果として、エネルギーや産業を伝える資料を展示することができた。また震災遺産を用いた教育普及活動を通じて、問いを活用した講座やワークショップを実施し、災害伝承の持続可能性の獲得についても検討を行った。仙台で行われたフォーラムにおいて、出展やワークショップを実施し、研究成果を発表した。特に高校における授業を教員と共に実施することができた。またその成果の一部を研究紀要に掲載した。

ウ 福島県の恐竜化石産地の研究

(ア) 分野 自然分野

(イ) 調査概要

恐竜化石産地の現地調査を行い、新たに中生代大型化石を採取した。いわき市、広野町、南相馬市での調査研究を中心に調査をすすめた。

エ 近世・近代絵地図の研究

(ア) 分野 歴史分野

(イ) 調査概要

令和6年度は、主に会津若松市立会津図書館、新潟県立歴史博物館、長岡市歴史文書館等の資料を調査した。

オ 福島県内の食文化の伝承に関する研究

(ア) 分野 民俗分野

(イ) 調査概要

令和6年度は、令和4年度以来の酒造業を中心とする調査研究の成果を、秋の企画展「ふくしまの酒造り一酒を醸し 和を醸す」にて公開し、あわせてその記録として企画展図録を発行した。

また、県内の伝統的な保存食・郷土食である「棒たら」「えごぐさ」「いかにんじん」の食品サンプルを製作し、展示資料の充実に資した。

カ 国宝・白水阿弥陀堂の維持修理に関する基礎研究

(ア) 分野 保存科学分野

(イ) 調査概要

白水阿弥陀堂について、行政による公刊の報告書に記載の修理記録について整理した。

木造阿弥陀如来坐像及両脇侍、木造持国天立像、木造多聞天立像の仏像修理記録について所在調査を行った。この結果として、①奈良国立博物館所蔵「日本美術院彫刻等修理記録データベース」によると、木造阿弥陀如来坐像及両脇侍については明治37年の修繕関係書類(紙資料)が現存し、木造持国天立像、木造多聞天立像については昭和3年の宝物調書(紙資料及びガラス乾板)が現存すること、②東京文化財研究所所蔵「松島健旧蔵資料データベース」によると、木造阿弥陀如来坐像及両脇侍、木造持国天立像、木造多聞天立像について昭和56年度の修理記録が現存することを確認した。③他に『美術院紀要第5号』により、木造阿弥陀如来坐像及両脇侍、木造持国天立像、木造多聞天立像について昭和33年に仏像修理(燻蒸を含む)が行われているとの記載を確認した。

キ 会津地方の仏像・仏画の調査研究

(ア) 分野 美術分野

(イ) 調査概要

令和5年、6年度の調査に基づき喜多方市の文化財指定を受けた、喜多方市万勝寺・弁財天像、喜多方市浄教寺・聖徳太子像をテーマ展「祈りのふくしま8—個性豊かなほとけたち—」において展示公開し、地域の文化財を広く知っていただく機会とした。

また、西会津町鳥追い観音如法寺と早稲田大学會津八一記念博物館に分蔵されている三十三応現身像の

調査を、如法寺・早稲田大学との合同で実施し、今後の展示公開に向けて意見交換を行った。

(2) その他の調査研究事業

ア 古文書整理事業

古文書類の調査・研究は、福島県の歴史をさぐるために欠かせない。しかし古文書を歴史資料として活用するためには、1点ずつ整理を行い、表題・年代・形態・分量・状態などのデータを採取した上で、博物館資料として登録する必要がある。このため、購入・寄贈・寄託などにより当館で受け入れた古文書の整理・登録作業を行っている。また古文書原本を状態よく保存し後世に伝えていくため、古文書をマイクロ撮影し、原本のかわりに閲覧用に提供している。

令和6年度は、村山隆之家、渡部昇司家、満田信也家、宇野祐子家、坂内利子家の資料整理を行った。マイクロ撮影は、前年度に引き続き「松崎達夫家寄贈資料」の撮影を行った。

(3) 職員の研究活動

ア 研究成果の公表（職員の氏名あいうえお順）

(ア) 印刷物

a 猪瀬 弘瑛、利光 誠一、鈴木 千里

「福島県いわき市に分布する上部白亜系双葉層群足沢層産イノセラムス科二枚貝とその地質学的意義：特にチューロニアン/コニアシアン階境界付近について」『地質学雑誌』第130巻。

b Aiba, H. and Inose, H.

「A New False Fairy Wasp (: Mymarommatoidae : Mymaromatidae) in Late Cretaceous Iwaki Amber from Futaba Group of Iwaki City, Fukushima Prefecture, Japan」『Paleontological Research』vol. 28.

c Shigeta, Y., Endo, Y. and Inose, H.

「Spathian (Late Olenekian, Early Triassic) Ammonoids from the Osawa Formation, South Kitakami Belt, Northeast Japan」『Paleontological Research』vol. 28 supplement 1.

d 猪瀬 弘瑛

「博物館・ジオパークで地球を学ぼう！(34) 福島県立博物館 バラエティー豊かな福島県の地質」『日本地質学会 News』vol. 27, No. 10.

e 平山 廉、猪瀬 弘瑛、土屋 祐貴、藤田 英留、鶴野 光、仲谷 英夫、久保 泰、大石 裕二郎、鷲野 結衣、清川 顕

「福島県塙町の中新統久保田層から産出したイシガメ科のカメ類：予報」『日本古生物学会第174回例会講演予稿集』

f Inose, H. and Watanabe, N.

「Ontogeny and variation of four species of Upper Cretaceous barroisiceratine ammonoids *Yabeiceras* and *Forresteria* by means of X-ray

microcomputed tomography」『Paleontological Research』vol. 29

g Aiba, H., Souma, J. and Inose, H.

「A new genus and species of Microphysidae (Hemiptera: Heteroptera) with long Labium in Late Cretaceous Iwaki amber from Futaba Group of Iwaki, City, Fukushima Prefecture, Japan」『Paleontological Research』vol. 29.

h 猪瀬 弘瑛

「福島県いわき市と広野町に分布する上部白亜系双葉層群より産したアンモノイド *Pseudo-barroisiceras compressum* について」『福島県立博物館紀要』第39号。

i 大里 正樹

『ふくしまの酒造り—酒を醸し 和を醸す—』福島県立博物館

j 杉崎 佐保恵

「国指定史跡荒神谷遺跡及び国宝島根県荒神谷遺跡出土品の長期維持管理に関する事例報告」『日本文化財科学会第41回大会研究発表要旨集』, pp. 308-309.

k 杉崎 佐保恵

「明治時代の文化財保護行政に関する研究—鑑査制度及び文化財保存修理の制度創出について—」『福島県立博物館紀要』第39号, pp. 27-33

l 高橋 充

「豊臣秀吉の会津仕置」江田郁夫編『秀吉の天下統一 奥羽再仕置』勉誠社 29-48 頁

m 高橋 充

「九戸城攻め」『第40回全国城館研究者セミナー テーマ城攻めの実像』予稿集 中世城郭研究会 K1-14 頁

n 高橋 充

「蘆名氏と黒川の城・町」『至徳元年黒川城築城640周年 いかにして黒川城はなったか』パンフレット 14 頁

o 高橋 充

「向羽黒山城へ垣楯を供出した村—会津盆地南縁の中世から近世へ—」『南奥中世史との対話』福島県中世史研究会 68-77 頁

p 高橋 充

「研究ノート 三の丸の変遷からみた若松城」『福島県立博物館紀要』第39号 57-76 頁

q 高橋 満 編著

『縄文DX —会津・法正尻遺跡と交流の千年紀』福島県立博物館企画展図録

r 阿部 芳郎、高橋 満、米田 穰、宮内 慶介、小久保 拓也

「東北地方北半における縄文時代土器製塩の研究—八戸市中居遺跡出土の製塩土器と階上町寺

下遺跡の製塩痕跡～』『八戸市埋蔵文化財センター
一是川縄文館研究紀要』第14号. pp21-35

s 小峰 朱理菜、筑波 匡介

「実践報告「震災遺産と問いづくり」の授業から
考える震災伝承について」『福島県立博物館紀要』
第39号

t 関谷 央子、筑波 匡介

「博物館での防災教育実践の意義—防災講座で
育まれる力学習指導要領・キャリア教育との関連
性—」『福島県立博物館紀要』第39号

u 土屋 祐貴、猪瀬 弘瑛

「実践報告『地質時代の地球儀の制作とその時代
について』」『福島県立博物館紀要』第39号.

v 土屋 祐貴、猪瀬 弘瑛

「実践報告『白雲母を用いた万華鏡づくり講座』」
『福島県立博物館紀要』第39号.

w 菊地 芳朗、佐々木 由香、山本 華、青山 博
樹、大栗 行貴、平澤 慎

「東北南部における弥生—古墳移行期の穀類圧
痕とその意義—福島県和泉遺跡・落合遺跡の土器
圧痕調査をもとに—」『日本考古学協会 第90
回総会研究発表要旨』

x 岸田 徹、山口 欧志、三井 猛、梅田 由子、
平澤 慎

「若松城三の丸堀跡地中レーダー探査の調査成
果報告」『福島県立博物館紀要』第39号

y Yoshida, J., Kobayashi, Y., Norell, M. A.
The first discovery of dinosaur larynx
provides insights for their bird-like
vocalization. *Abstract book of the 11th
Annual Meeting of the Society for
Bioacoustics.*

z Van Niekerk, J., Tucker, R.T., Delgerzaya,
P., Freimuth, W. J., Chinzorig, T., Tsogtbaatar,
K., Yoshida, J., Zanno, L.E.
Geological reassessment of syn-rift
extensional sequences in the Shine Usny
Tolgod and Dzun Shakhai fossil localities,
Eastern Gobi Basin, Mongolia. *Sedimentology.*

(イ) 学会発表

a 平山 廉、猪瀬 弘瑛、土屋 祐貴、藤田 英
留、鶴野 光、仲谷 英夫、久保 泰、大石 裕
二郎、鷺野 結衣、清川 顕

「福島県塙町の中新統久保田層から産出したイ
シガメ科のカメ類:予報」『日本古生物学会第174
回例会』オンライン

b 大里 正樹

令和6年度伝承郷講座第1回「ふくしま 酒の民
俗」 於:いわき市暮らしの伝承郷

c 杉崎 佐保恵

「国指定史跡荒神谷遺跡及び国宝島根県荒神谷
遺跡出土品の長期維持管理に関する事例報告」

日本文化財科学会第41回大会 於:青山学院大学

d 高橋 充

「九戸城攻め」第40回全国城郭研究者セミナー
テーマ城攻めの実像 於:駒澤大学 中世城郭研
究会主催

e 高橋 充

「『田村家文書』の蘆名氏関係書状について」科
研報告会「戦国時代の南東北地方—史料から考え
る—」 於:淑徳大学(東京キャンパス)

f 高橋 満

「土器に宿る—縄文中期・ふくしまの人体文」企
画展『縄文DX』関連講演会1 於福島県立博物
館

g 小峰 朱理菜、筑波 匡介

「実践報告「震災遺産と問いづくり」の授業から
考える震災伝承について」『東日本大震災・原子
力災害第3回学術研究集会』 於:コラッセ福島

h 関谷 央子、筑波 匡介

「博物館での防災教育実践の意義—防災講座で
育まれる力と学習指導要領・キャリア教育との関
連性」『東日本大震災・原子力災害第3回学術研
究集会』 於:コラッセ福島

i 菊地 芳朗、佐々木 由香、山本 華、青山 博
樹、大栗 行貴、平澤 慎

「東北南部における弥生—古墳移行期の穀類圧
痕とその意義—福島県和泉遺跡・落合遺跡の土器
圧痕調査をもとに—」日本考古学協会第90回総
会研究発表 於:千葉大学

j Yoshida, J., Kobayashi, Y., Norell, M. A.
The first discovery of dinosaur larynx
provides insights for their bird-like
vocalization. The 11th Annual Meeting of the
Society for Bioacoustics at The University
of Tokyo.

イ 他団体による委嘱等

猪瀬 弘瑛 ふくしまサイエンスぷらっとフォー
ム 連携コーディネーター

大里 正樹 須賀川市文化財保護審議会委員ほか3件

川延 安直 福島芸術計画運営委員会委員ほか8件

栗原 祐斗 郡山市文化財保護審議会委員ほか1件

小林 めぐみ 福島芸術計画運営委員会委員ほか13件

高橋 充 二本松城跡整備検討委員会委員ほか16件

塚本 麻衣子 喜多方市文化財保護審議委員

筑波 匡介 磐梯山ジオパーク協議会運営委員ほか4件

山口 拡 会津若松市文化のまちづくり事業委員会委員

吉田 純輝 北海道大学総合博物館資料部研究員ほか3件

6 教育普及事業

(1) 講座・講演会

館長と学芸員による各種講座のほか、外部講師による
さまざまな講座・講演会等を実施している。令和6年度の
各講座開催数は92、総参加者数は9,357人であった。

令和6年度講座・講演会等行事一覧

ア 特別講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
「詩人のいる博物館 詩作ワークショップ 夏、山によせて」	和合 亮一（詩人）、蓮岡 真（磐梯山ジオパーク協議会専門員）、会津磐梯山盆踊り保存会のみなさん	令和6年8月11日（日・祝）	2

イ 考古学講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
縄文土器をつくろう	高橋 満、五十嵐 岳樹（学芸員）	令和6年7月27日（土） ～7月28日（日）	19
縄文土器の野焼き	当館考古分野学芸員	令和6年10月6日（日）	19
会津大塚山古墳を歩こう	平澤 慎（学芸員）	令和6年11月23日（土・祝）	14

ウ 歴史講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
浮世絵のくずし字を読んでみよう	栗原 祐斗（学芸員）	令和6年6月9日（日）	50

エ 自然史講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
講演会「恐竜を発掘するには」	吉田 純輝（学芸員）	令和6年9月14日（土）	11
野外講座「恐竜をさがそう」	当館自然分野学芸員	令和6年10月20日（日）	11

オ 美術講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
美術放談1「主のために」	小林 めぐみ、塚本 麻衣子、川延 安直（学芸員）	令和6年4月13日（土）	30
美術放談2「私だってすごいんです」	小林 めぐみ、塚本 麻衣子、川延 安直（学芸員）	令和6年6月15日（土）	34
会津の個性豊かなほとけたち	塚本 麻衣子（学芸員）	令和6年7月20日（土）	21
美術放談3「おしゃれ心あれこれ」	小林 めぐみ、塚本 麻衣子、川延 安直（学芸員）	令和6年8月24日（土）	38
美術放談4「美味しい美術」	小林 めぐみ、塚本 麻衣子、川延 安直（学芸員）	令和6年10月19日（土）	23
美術放談5「共創の美術」	小林 めぐみ、塚本 麻衣子、川延 安直（学芸員）	令和6年11月30日（土）	33

カ 災害分野講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
楽しいそなえ	筑波 匡介、鈴木 弥生（学芸員）	令和6年9月1日（日）	12
楽しいそなえ～マイ避難シートをつくろう～	福島県危機管理課のみなさん	令和6年9月1日（日）	9

キ 企画展・特集展関連行事

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
企画展「幕末明治の浮世絵百年」内覧会（友の会・報道向け）		令和6年4月26日（金）	18
企画展「幕末明治の浮世絵百年」展示解説会	栗原 祐斗（学芸員）	令和6年4月28日（日）	25
		令和6年6月9日（日）	25
	渡邊 歩（学芸員）	令和6年5月26日（日）	23
ワークショップ「うきよえをぬってみよう in こどもミニミニはくぶつかん」		令和6年5月3日（金・祝）	80
講演会「浮世絵の楽しみ方―絵師や主題に注目して」	藤澤 茜（神奈川大学准教授、国際浮世絵学会常任理事）	令和6年5月12日（日）	40
企画展「縄文DX」内覧会（友の会・報道向け）		令和6年7月5日（金）	41
講演会「土器に宿る―縄文中期・ふくしまの人体文」	高橋 満（学芸員）	令和6年7月13日（土）	95
講演会「ヒスイの道を探る」	栗島 義明（明治大学非常勤講師）	令和6年8月3日（土）	79

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
展示解説会『縄文土器』をよみきかせ	高橋 満（学芸員）	令和6年8月10日（土）	45
		令和6年8月21日（水）	40
		令和6年8月31日（土）	48
企画展「ふくしまの酒造り」内覧会（友の会・報道向け）		令和6年9月20日（金）	16
学芸員によるギャラリートーク	大里 正樹（学芸員）	令和6年9月21日（土）	16
		令和6年9月23日（月・祝）	23
	大里 正樹ほか（学芸員）	令和6年10月1日（火）	14
		令和6年10月12日（土）	18
		令和6年10月13日（日）午前	22
		令和6年10月13日（日）午後	19
		令和6年10月14日（月・祝）午後	15
		令和6年10月14日（月・祝）午後	25
		令和6年10月19日（土）	19
		令和6年11月3日（日・祝）	18
		令和6年11月30日（土）	20
		令和6年12月1日（日）	35
講演会「酒の日本文化」	神崎 宣武（民俗学者）	令和6年9月28日（土）	60
ワークショップ「酒林（杉玉）をつくろう」	渡部 裕高（会津酒造専務）	令和6年10月27日（日）	7
映画上映会「一献の系譜」		令和6年11月4日（月・祝）	19
学芸員によるギャラリートーク（手話通訳付き特別解説会）	大里 正樹ほか（学芸員）	令和6年11月9日（土）	28

ク 博物館講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
三の丸から講座「空から読む若松の歴史―地形・戊辰戦争・三十三観音―」	高橋 満、栗原 祐斗、大里 正樹（学芸員）	令和6年4月20日（土）	40
会津の三十三観音を知る	高橋 充（副館長）、塚本 麻衣子、大里 正樹（学芸員）	令和6年10月26日（土）	83
親子で探検！博物館のウラ側		令和6年11月10日（日）	9

ケ みんなでつくるイベント

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
博物館でもよみきかせ	博物館職員	令和6年4月13日（土）	22
	読み語り たんぽぽの会	令和6年5月11日（土）	18
	心に虹のおはなし会	令和6年6月8日（土）	8
	ボランティアサークルハーモニー	令和6年7月13日（土）	13
	会津大学短期大学部のみなさん	令和6年8月10日（土）	29
	読み聞かせの会マザーグース	令和6年9月14日（土）	7
	坂下読み聞かせの会	令和6年10月12日（土）	23
	おはなしの会ゆがわ	令和6年11月9日（土）	8
こどもミニミニはくぶつかん	会津大学短期大学部幼児教育・福祉学科のみなさん	令和6年5月3日（金・祝） ～5月5日（日・祝）	460
会津短大生とあそぼう	会津大学短期大学部幼児教育・福祉学科 あそびサークルのみなさん	令和6年5月26日（日）	40
	会津大学短期大学部幼児教育・福祉学科のみなさん	令和6年9月22日（日・祝）	44
	会津大学短期大学部幼児教育・福祉学科のみなさん	令和6年11月24日（日）	43
民謡を知る 民謡を唄う―玄如節と各地の民謡―	玄如節顕彰会のみなさん	令和6年6月8日（土）	75
博物館でもよみきかせ こどもミニミニはくぶつかん	会津大学短期大学部幼児教育・福祉学科葉山ゼミ・会津大学短期大学部あそびサークルの皆さん・会津民話会のみなさん	令和6年8月10日（土） ～8月11日（日・祝）	164
市民会津磐梯山盆踊り	会津磐梯山盆踊り保存会のみなさん	令和6年8月15日（木）	265

コ 実技講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
藁に親しむワークショップ～楽しく学ぼう わら細工	山口 拓、大里 正樹、西尾 祥子 (学芸員)	令和6年12月1日(日)	16

サ 三の丸からプロジェクト

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
武士が愛したかそけき音色・七絃琴に触れる	飛田 立史 (琴士)	令和6年5月12日(日) 令和6年6月9日(日) 令和6年7月7日(日) 令和6年8月25日(日) 令和6年9月8日(日)	24 11 20 21 22
雪国ものづくりマルシェ 2024 春		令和6年5月18日(土) ～5月19日(日)	2,185
抹茶を飲んでみませんか	宮崎 宗伊 (会津茶道会主宰)	令和6年6月16日(日)	16
見て触れて、能を体験してみよう	会津能楽会のみなさん	令和6年7月14日(日) 令和6年11月3日(日・祝)	25 9
刀剣取扱い講座	藤安 将平 (将平鍛刀場 刀匠)	令和6年8月18日(日)	12
奥会津の恵みでつくるタペストリー	齊藤 加津代 (畑から育てた布)	令和6年10月6日(日)	6
雪国ものづくりマルシェ 2024 秋		令和6年10月12日(土) ～10月13日(日)	3,197
またたび細工職人の技を見てみませんか?	菅家 豊 (またたび細工職人)	令和6年10月25日(金)	80
またたび細工～六つ目ザルをつくろう	菅家 豊 (またたび細工職人)	令和6年10月26日(土)	11
錫粉蒔絵に挑戦!～ミニトレーまたは盃の 絵付け体験～	八木 由紀子・佐藤 淳 (蒔絵師)	令和6年11月2日(土)	9
会津木綿でじんわりほかほか小豆カイロを つくろう	田崎 薫 (株式会社はらっぱ)	令和6年11月10日(日)	8
松平家の茶道を見る、飲む、楽しむ	茶道石州流宗家会津支部のみなさん	令和6年11月17日(日)	62
会津本郷焼の器をつくろう	宗像 利訓 (宗像窯9代目)	令和6年11月24日(日)	12

シ 共催事業

テーマ	主催	期日	参加人数
徳一菩薩に学ぶ会主催・講演会「徳一と最澄 分断を越える対話」	師 茂樹 (花園大学教授)	令和6年8月25日(日)	150
会津史学会歴史文化講演会「高寺伝承と発掘 された会津盆地西部古代の様相」	吉田 博行 (日本考古学協会)	令和6年11月17日(日)	91
こどもミニミニ博物館 I N会津短大	会津大学短期大学部	令和7年1月26日(日)	122

ス 後援事業

テーマ	主催	期日	参加人数
会津の怪を語る会	煙鳥・吉田 悠軌・斉木 京 (『会津怪談』著者)	令和6年4月6日(土)	91
福島県民俗学会総会・研究発表会		令和6年6月2日(日)	17
全会津公立小中学校事務職員研究協議会研 修会並びに総会		令和6年6月14日(金)	81
夏季特別支援教育セミナー		令和6年8月22日(木)	36
会津塾 (会津地域文化芸術フォーラム主催)		令和6年11月16日(土)	205

セ 友の会事業

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
博物館友の会総会・講演会「ふくしまの古墳 を知る」	平澤 慎 (学芸員)	令和6年4月14日(日)	71
矢じりをつくろう!	博物館友の会化石鉱物探検隊のみなさん	令和6年8月17日(土)	5
博物館友の会講演会「古代の人々が見上げた 星空」	渡部 潤一 (国立天文台上席教授、国際天文学連 合副会長)	令和6年9月8日(日)	132

(2) 博物館の新しい風景創造事業

誰もが安心して利用できる博物館を目指し、多くの方との協働により事業を実施した。

ア みんなでつくるイベント

「民謡を知る、民謡を唄う一玄如節と各地の民謡―」「会津磐梯山市民盆踊り」の2件を開催した。例年開催していた本瀧澤獅子保存会による「会津の彼岸獅子」は記録的な大雪の影響により開催を中止した。

会津各地の読み聞かせ団体との協働により「博物館でもよみきかせ」（全8回）を、会津大学短期大学部幼児教育福祉学科との協働により「こどもミニミニはくぶつかん」「会津短大生と遊ぼう」を実施した。

イ 未就学児団体連携事業

前年度までの取組の振り返りをもとに「会津慈光こども園」「会津慈光第二こども園」とは通年で学習プログラムを実施した。「認定こども園こどもの森」とは「大好きなかおーミニお面をつくろうー」をテーマに遠隔観覧プログラムの試行とゲストティーチャーを組み合わせた連携事業を実施した。

ウ 障がい者支援団体連携事業

福島県立会津支援学校（竹田校を含む）と連携し、ゲストティーチャー、来館時の学習プログラムの提供、職場体験、テレプレゼンスロボットによる遠隔観覧などを実施した。会津支援学校本校とは17回、竹田校とは1回実施した。

(3) 学校・文化施設との連携

県内外の学校団体や文化施設主催団体との連携をはかり、次の事業を実施している。

ア 展示室での自主学習（しおり・ワークシート）

常設展示室を各自のペースで目的をもって見学できるワークシートを当館ホームページで公開、ダウンロードしていただけるようにしている。また、令和3年度に作成した「動物さがし」をテーマにしたワークシートを常設展入口と雪国ものづくり広場なんだべやに設置した。しかし、2つのワークシートは、常設展総合展示室の資料を中心としたワークシートのため、令和6年度は総合展示室の閉室に伴いワークシートの活用はほぼ見られなかった。

イ 学習プログラム

修学旅行等の学校団体に対しては、訪問する場所の歴史や文化に触れる展示解説や地域の歴史にちなんだ講座等を多数実施した。また、総合展示室閉室のため観覧いただけない部分を補うためにエントランスで行った「さわれる・けんぱく」の展示資料を来館者に触っていただきながら学芸員が資料を解説する独自のプログラムも実施した。公民館等の地域団体には、「企画展見どころ解説」や「会津大塚山古墳とは」のプログラムを多くご利用いただいた。支援学校や未就学児の教育・保育施設の団体に対しては、さわれる資料の提示や関連するワークショップを行うなど、楽しみながら学びにつながる独自

のプログラムを提案、実施した。

ウ 指導者向け研修

「博物館を活用した教育プログラム研修会」と題し、令和6年8月6日（火）に4名の参加者を得て開催した。当館が学校や公民館等の団体向けに提供してきたプログラムを紹介したほか、実際に授業で当館のプログラムを利用した2名の教員の方をお招きし、博物館を利用するに至った意図やその効果について報告をいただいた。

エ 学習用具・教材等の貸出

学校での授業づくりや生涯教育関連施設における活動等を支援するため、考古・民俗・自然の各分野で貸出用の学習用具・教材等を準備している。今年度の貸出はなかった。

オ ゲストティーチャー

学芸員がもつ専門知識や経験を館外で有効に活用してもらうため、学校等教育機関の要請に応じて現地に赴き、体験学習や講話を中心とした授業を担当している。令和6年度の実施回数は52回で、参加者は2,780人であった。

カ 職場体験

児童・生徒の進路意識の向上や職業観・勤労観の育成に寄与すべく、職場体験を受け入れている。令和6年度は4校からの要請があり、受け入れを実施した。

○職場体験受け入れ実績（生徒のみ）

- ・福島県立会津支援学校（高等部11名）1日間
- ・会津若松市立第二中学校（2年生3名）2日間
- ・福島県立若松商業高等学校（2年生4名）3日間
- ・福島県立会津学鳳高等学校（1年生4名）1日間

キ 博物館実習

学芸員資格取得のための博物館実習を実施している。令和6年度は県内出身学生と当館の使命に共感し当館での実習を強く希望する学生の計7名を受け入れた。

実習期間 令和6年8月27日（火）～9月1日（日）

(4) 生涯学習・研究支援

ア 図書コーナー

エントランスホール内に配置されており、展示図録・報告書・紀要など博物館の刊行物及び博物館資料に関連した図書を配架している。図書は図鑑・事典類、調べ学習への対応、見て楽しむ本の3項目を重視して選定し、入館者が自由に閲覧できる。

イ 資料の特別観覧

個人や研究機関による研究活動を支援するため、博物館資料の閲覧や撮影を許可し、実施している。

分野別特別観覧件数

考古：6件124点 歴史：15件195点 民俗：2件10点
美術：1件1点 計24件330点

ウ 講師派遣

大学や公民館、研究団体などからの依頼に応じて、学芸員を講演会や講座に講師として派遣している。令和6年度の派遣回数は33回で、参加者は1,302人であった。

講師派遣一覧

月 日	講 師	分野	演 題 ・ 内 容 等	主 催
令和6年6月2日(日)	筑波 匡介	災害	つながろう猪苗代 (防災減災講座)	猪苗代町社会福祉協議会
令和6年6月6日(木)	筑波 匡介	災害	防災・減災についての基礎・基本	国立磐梯青少年交流の家
令和6年6月8日(土)	小林 めぐみ	美術	コア・アクティブ科目講義	福島大学
令和6年6月12日(水)	吉田 純輝	自然	恐竜最新研究	福島県高等学校教育研究会理科部会相双支部
令和6年6月14日(金)	小林 めぐみ	美術	地域連携とネットワークの拠点として～博物館の役割～	全会津公立小中学校事務職員研究協議会
令和6年6月19日(水)	小林 めぐみ	美術	会津の刀鍛冶について	会津若松市中央公民館
令和6年6月22日(土)	山口 拡	民俗	コア・アクティブ科目講座	福島大学
令和6年6月23日(日)	高橋 充	歴史	根城おもしろ講座「蒲生氏郷と奥羽再仕置」	一般財団法人 VISIT はちのへ
令和6年6月30日(日)	筑波 匡介	災害	つながろう猪苗代	猪苗代町社会福祉協議会
令和6年7月6日(土)	筑波 匡介	災害	コア・アクティブ科目講座	福島大学
令和6年7月12日(金)	高橋 充	歴史	村ができた！街道が通った！―「新編会津風土記」にみる江戸時代の大戸地区―	会津若松市大戸公民館
令和6年7月22日(月)	筑波 匡介 鈴木 弥生	災害	「生きる力を育むための防災教育」	ムシテックワールド
令和6年7月22日(月)	筑波 匡介	災害	「防災を学ぼう」	南会津中央公民館
令和6年8月3日(土)	吉田 純輝	自然	恐竜は鳴く？恐竜研究最前線	仙台市科学館
令和6年8月6日(火)	筑波 匡介	災害	防災に関する工作 ・ クイズ	会津坂下町中央公民館
令和6年8月20日(火)	塚本 麻衣子	美術	会津三十三観音について	会津美里町教育委員会
令和6年8月22日(木)	筑波 匡介	災害	震災遺産について	会津坂下町教育委員会
令和6年9月5日(木)	塚本 麻衣子	美術	日本遺産 会津の三十三観音めぐり	ゆめ寺子屋（事務局：若松市高齢福祉課）
令和6年9月7日(土)	筑波 匡介	災害	防災を学ぼう	南会津町中央公民館（たじま kids クラブ）
令和6年9月13日(金)	高橋 充	歴史	モノをつくる！神仏に祈る1―蘆名氏の時代の大戸地区―	会津若松市大戸公民館
令和6年9月14日(土)	筑波 匡介	災害	防災教育コーディネーターについて	防災教育コーディネーター養成塾
令和6年10月8日(火)	猪瀬 弘瑛	自然	理科実技研修	両沼地区小学校教育研究会
令和6年10月12日(土)	筑波 匡介	災害	復興とは何か	長岡市立歴史文書館
令和6年11月8日(金)	筑波 匡介	災害	防災について考えよう～クロスロードゲームを用いた防災入門編～	猪苗代婦人消防連絡協議会
令和6年11月21日(木)	猪瀬 弘瑛	自然	博物館資料論	福島大学
令和6年11月29日(金)	筑波 匡介	災害	振り返りと次年度に向けて	猪苗代町社会福祉協議会
令和6年12月7日(土)	高橋 充	歴史	古文書講座（中級編）	会津図書館
令和6年12月14日(土)	高橋 充	歴史	古文書講座（中級編）	会津図書館
令和7年1月18日(土)	高橋 充	歴史	古文書講座（中級編）	会津図書館
令和7年1月25日(土)	筑波 匡介	災害	学習発表会アドバイザー	福島県立猪苗代高等学校
令和7年1月30日(木)	筑波 匡介	災害	令和7年度「つながろう猪苗代」検討会	猪苗代町社会福祉協議会
令和7年2月15日(土)	高橋 充	歴史	古文書講座（中級編）	会津図書館
令和7年3月25日(火)	筑波 匡介	災害	震災を学ぶ講座 避難所ワークショップ	下郷町民生児童委員協議会

エ 動画の制作と配信

イベントや事業を紹介する動画の制作と配信を行った。令和6年度は7本の動画を公開した。

(5) 博物館友の会活動への支援

当館は、福島県立博物館友の会の活動を支援するため、共催事業などの実施、行事に対する講師の派遣、サークル活動への協力、各会員に対して当館開催事業の周知、展示観覧への便宜、資料や文献の閲覧等、研究活動の支援などを行っている。

ア 友の会の概要

(ア) 発足 平成元年3月10日

(イ) 設立の目的

博物館活動に協力するとともに、会員が「福島県の歴史と文化・自然」についての研修を深め、会員相互の親睦をはかり、あわせて博物館活動の普及発展に寄与することを目的とする。

(ウ) 総会の開催

会計年度の期間が変更されたことにより、令和5年度の事業・会計決算報告と令和6年度の事業・予算案を審議する総会は、令和6年4月14日(日)に開催されることとなった。

(エ) 令和6年度会員数

個人会員 111 名 家族会員 33 名 高校生会員 2 名
賛助会員 2 名 合計 148 名

イ 令和6年度事業概要

(ア) 講演会の開催

2 回の講演会を開催した。内容と日時は「6-(1)-^(カ)友の会事業」を参照。

(イ) 研修旅行

令和6年度実施せず。

(ウ) 会報の発行

友の会会報第 132 号・第 133 号を発行し会員に配布した。

(エ) 博物館事業への協力

○博物館展示観覧

○友の会会員向け企画展内覧会への参加

○博物館講座への協力

博物館の各種講座へ多くの会員が参加した。

ウ サークル活動

化石・鉱物探検隊、古文書愛好会、考古学倶楽部、仏像に親しむ会の 4 サークルが、それぞれの目的に向かって積極的に活動している。サークルごとに主体的に計画し、自立した活動となっている。

(ア) 化石・鉱物探検隊

化石や鉱物に興味をもつ研究サークルで、自然史に関する研鑽と会員相互の親睦を深めることを目的とし、平成 11 年に設立。会員数 54 名。令和 6 年度は全 6 回の野外活動（化石・鉱物の観察活動）のほか、実技講座「矢じりをつくろう！」といったイベントを博物館で開催した。

(イ) 古文書愛好会

平成 14 年度に発足した古文書愛好会は随時 11 名が参加し、活動を続けてきた。メンバーは 4 つの班に分かれ、チームを組んで古文書の解読・考察にあたっている。通常月 1 回の活動計画で、令和 6 年度は前年度から引き続き「大町に関する書上」の解読を行った。

(ウ) 考古学倶楽部

考古学に興味をもつ友の会会員が集うサークルで、令和 3 年 4 月に発足した。研修会や考古学関連の展覧会の見学を行った。

(エ) 仏像に親しむ会

県内の仏教文化、特に仏像に関心をもつ会員によって、令和 3 年度から活動を開始。令和 5 年度に名称を「仏像を研究し旅する会」から「仏像に親しむ会」に変更した。会員は 12 名。本年度は会津地域を中心に寺院を訪れての仏像見学を全 5 回、座学を全 6 回行った。併せて、博物館での展示見学や関連する美術講座への参加、会員各自の興味関心や学習成果を発表する勉強会を組み合わせる形で活動を行った。

7 文化財・自然資料レスキュー

(1) 東日本大震災に伴う被災文化財・自然資料レスキュー

東日本大震災の発生以来、福島県立博物館では、被災文化財・自然資料レスキューを実施してきた。令和 6 年度は、当館が新規に関わった被災地域の資料の調査や受け入れはなかった。また平成 23 年度から様々な事情によって当館で受け入れた資料のうち、所蔵先の避難状況の変化によって返還できるようになった場合は、順次対応するようにしているが、令和 6 年度は 3 件の返却があった。

(2) 令和6年能登半島地震被災文化財等救援活動

令和 6 年 1 月 1 日に起きた令和 6 年能登半島地震により被災した文化財等の救援活動として、独立行政法人国立文化財機構文化財防災センターが実施する文化庁受託事業「令和 6 年被災文化財救援等事業（文化財ドクター派遣事業・文化財レスキュー事業）」が行われている。

当館は上記の事業へ公益財団法人日本博物館協会の加盟館の一員として参加している。令和 6 年度は 11 月と令和 7 年 3 月の 2 回、それぞれ当館学芸課の職員 2 名を派遣した。

(3) その他の災害発生時対応に伴う活動

令和元年度に福島県文化財保存活用大綱が策定され、災害発生時に文化財・自然資料レスキューを実施するしくみが整えられた。令和 7 年 1 月 29 日に「文化財に係る災害時の応援活動支援に関する協定」連絡会議が行われた。また 2 月 25 日に「文化財に係る災害時の相互応援に関する協定」連絡会議が大熊町で開催された。

8 ふくしま震災遺産保全プロジェクト

平成 26 年度から 28 年度まで文化庁芸術振興費補助金の採択を受けて、県内の資料館や研究会とともに実行委員会を組織し「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」を推進してきた。大震災を契機に起こった様々な出来事を歴史として共有し未来へ継承するため、震災を物語る資料を「震災遺産」と位置付けて、その保全や県内外での展覧会・シンポジウム等のアウトリーチ活動を行った。平成 29 年度からは当館の事業として、引き続き「震災遺産」の保全や発信を行っている。

(1) 震災遺産保全チームの組織

令和 6 年度は民俗 1 名、歴史 1 名、美術 1 名、災害 2 名の計 5 名の学芸員が業務を担当した。震災遺産に主体的に関わる災害分野担当学芸員を中心に、所蔵する資料の研究・調査を取りまとめ、教育普及活動、ポイント展の実施を行った。

(2) 震災遺産の調査・保全

震災遺産の未整資料の整理を進めている。また課題である収蔵場所として第 5 収蔵庫や第 2 収蔵庫の整理を引き続き進めている。令和 2 年度末より引き続き、コロナ関連資料の収集を継続している。震災遺産の常設展示に向けて、内容の検討を進めてきた。

(3) 他団体・他機関との連携・協力

社会教育研究全国集会福島大会に実行委員として運営に参加した。仙台防災未来フォーラムへ大熊町、南国Rスタジオと協働して震災遺産の活用について共同研究の内容についてブース出展を行った。磐梯山ジオパーク運営協議会とも防災教育の普及活動を展開し学校行事へ防災学習の提案を行った。会津自然の家や磐梯山青少年交流の家との連携も定例化し、猪苗代町社会福祉協議会とも連携して地域づくりへの参画を始めた。

(4) 普及事業

今年度は申込みが多く、ゲストティーチャー、講師派遣、特別プログラムなどの今年度は対応をお断りすることが複数あった。震災遺産をテーマとした高校での授業実践について東日本大震災・原子力災害学術研究集会にて報告した。

(5) 震災遺産の常設展化

休館中に総合展示室「自然と人間」の展示更新を行い、アジア・太平洋戦争後について、高度経済成長、エネルギーの変遷、産業の転換、磐梯山噴火とその後、東日本大震災として項目を立て、震災遺産を展示に加えた。

9 ポリフォニックミュージアム

(1) 事業趣旨

これまで福島県立博物館が築いてきたネットワークを基盤に、創作活動（芸）や農業（農）、福祉（福）の専門的な知識や情報、経験を有するNPO等の団体と博物館とが協働し、それぞれの専門性や博物館資源を活かしたこどもの居場所づくりに取り組んだ。本事業を通して、家庭と園・学校以外に、こどもたちが地域社会や様々なコト・モノ・ヒトに出会える居場所をつくることで、不登校児など社会的に困難を抱えたこどもたちの課題解決に向き合い、こどもたちの可能性や創造性を育むことを目指した。

(2) 実施期間

令和6年4月1日(月)～令和7年3月31日(月)

(3) 助成

こども家庭庁 令和6年度こどもの居場所づくり支援体制強化事業費国庫補助金（NPO等と連携したこどもの居場所づくり支援モデル事業）

(4) 事業内容

「大人が学ぶワークショップ」2回、「大人ミーティング」2回、「こどもを対象としたワークショップ」10回を実施。成果を記録集（800部）にまとめるとともに、第2回「大人が学ぶワークショップ 博物館×アーティストから生まれる場」は記録映像を編集し、YouTube当館公式チャンネルで公開した。

10 三の丸からプロジェクト

(1) 事業趣旨

令和2年5月1日に施行された文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律に基づ

き、当館では、共同申請者と共に「福島県立博物館を活用した会津文化観光拠点計画」を策定、申請し、令和2年11月18日に認定を受けた。同計画の実現のため、令和2年度から5ケ年にわたって「福島県立博物館文化観光拠点施設機能強化事業『三の丸からプロジェクト』」を実施することとなった。

(2) 組織

ア 申請者 福島県（福島県立博物館）

イ 共同申請者

会津若松市、一般財団法人会津若松観光ビューロー、公益財団法人福島県観光物産交流協会（地域連携DMO）、会津若松商工会議所、只見川電源流域振興協議会

(3) 助成

令和6年度文化芸術振興費補助金（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業）

(4) 事業内容

ア 展示強化事業

令和5年度に行ったレーダー探査結果をもとに、令和6年度は堀跡を再現する植栽を整備した。整備箇所は一般駐車場から博物館入り口に向かう動線部分である。堀跡の説明に関しては、サイン看板に表記することとした。

三の丸堀跡は、春には、コヒガンザクラが咲き多くの人が訪れる場所でもあるため、市民参加のワークショップを実施し、整備の在り方を議論した。また、サイン計画とも関わることが多いため、関連する行政担当部署との情報共有など実施するための会議を行った。

イ 体験型プログラム提供事業

武家文化を観賞・体験する5つのプログラム（七絃琴、茶道2プログラム、刀剣取り扱い、能楽）、会津のものづくりを体験する6つのプログラム（会津木綿、会津本郷焼、蒔絵、からむし織、またたび細工2種）を実施した。体験学習用の部屋に暖簾やスクリーンを設置した。また、事業終了後の令和7年度からの自走化に向けた意見交換会を実施した。

ウ 多言語化事業

3エリア周遊に関連する既存映像コンテンツの多言語化（英語、中国語（簡体字・繁体字）字幕テロップ挿入映像の制作）を行った。

エ 「会津のSAMURAI文化エリア」周遊のためのサイン強化事業

博物館から鶴ヶ城までの双方向の周遊をはかるために、外構展示と合わせて市民ワークショップを実施し、雑多なサインについては、撤去していくことを方針として掲げた。コーチングからもサインの設置に関して、専門的な意見をいただきながら、掲示する内容やデザイン、設置場所などの検討を進めた。また、サイン計画を進めるにあたってのデザインマニュアルを作成した。

オ 来館者利便性向上事業

一般的なWebブラウザで閲覧できる情報ビューワー「VRナビゲーションけんぱくん」を前年度の常設展総

合展示室に引き続き、常設分野別展示室にまで拡大・整備した。また、令和4年度、5年度に作成した視覚支援カード「さわって観ようてんじカード」を補強するハンズオン資料（勝常寺薬師如来像3分の1縮小模型）を作成した。来館が困難な層の観覧や海外・県外からの観光への導入、学習旅行の事前・事後学習を目的に、テレブレゼンスロボットによる遠隔観覧を実施し、令和7年度からの博物館学習プログラムでの運用方法についてまとめた。視聴覚障がいへの理解を深める研修を実施した。

カ 周遊促進情報発信事業

前年度までに作成した各エリアの文化観光に役立つ外国語テキストをまとめ、Webパンフレットを製作した。製作物を今年度新たに整備した三の丸からプロジェクトのランディングページにて公開し、PDF形式とデジタルブック形式で閲覧できるようにした。ランディングページ用の多言語（英語・中国繁体字・簡体字）テキストも併せて作成した。

第14節 福島県自然の家

1 概要

(1) 沿革

昭和47年県内初の県立少年自然の家として、また、東北でも3番目の宿泊研修用の先導的施設として「福島県少年自然の家」（以下「自然の家」という。）を開設。

昭和50年海浜型の青少年社会教育施設として「福島県海浜青年の家」（以下「青年の家」という。）を開設。同年発足した「財団法人福島県海浜青年の家」が管理運営を行うこととなる。

昭和56年県立少年自然の家2施設目となる「福島県会津少年自然の家」を開設。これに伴い、「自然の家」の名称を「福島県郡山少年自然の家」に改める。

平成8年「福島県いわき海浜自然の家」を開設。これに伴い、「青年の家」の名称を「福島県相馬海浜自然の家」に改める。運営財団の名称を「財団法人福島県海浜自然の家」に変更し、海浜型2施設の管理運営を行うこととなる。

平成10年福島県教育庁の直営であった「福島県郡山少年自然の家」及び「福島県会津少年自然の家」の名称を「福島県郡山自然の家」及び「福島県会津自然の家」と改める。これにより財団の名称を「財団法人福島県自然の家」に変更し、県内4施設の管理運営を行うこととなる。

平成18年度から指定管理者制度を導入し、平成20年度までの3年間「財団法人福島県自然の家」が指定管理者となり4施設の管理運営を行うこととなる。

指定管理者であった財団が平成20年度末をもって解散したため、平成21年度から4施設とも県の直営による管理運営となる。

平成22年度に開催した指定管理者選定検討会において「福島県いわき海浜自然の家」の指定管理者候補団体に「財団法人いわき市教育文化事業団」が選定される（指定管理者の指定は議会の議決を経て決定するが、本書ではその記載は省略

する。）。なお、他3施設については検討会の条件を満たす団体がいないため直営による運営が継続されることとなる。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、「福島県会津自然の家」は同年7月2日まで「福島県郡山自然の家」は同年8月28日まで避難所として運営を行う。また「福島県いわき海浜自然の家」の指定管理は震災の影響により平成23年11月1日からの開始となる。なお「福島県相馬海浜自然の家」は地震・津波の甚大な被害を受け平成24年3月31日をもって公所廃止となる。

平成25年度に開催した指定管理者選定検討会において「福島県いわき海浜自然の家」の平成26年度から平成30年度までの指定管理者候補団体に「財団法人いわき市教育文化事業団（平成26年度より公益財団法人に移行）」が選定される。

平成30年度に開催した指定管理者選定検討会において令和元年度から令和5年度までの「福島県郡山自然の家」の指定管理者候補団体に「学校法人国際総合学園」が、「福島県いわき海浜自然の家」について、「公益財団法人いわき市教育文化事業団」がそれぞれ選定される。

令和2年度に開催した指定管理者選定検討会において令和3年度から令和5年度までの「福島県会津自然の家」の指定管理者候補団体に「アメニティグループ」が選定される。

令和5年度に開催した指定管理者選定検討会において令和6年度から令和10年度までの指定管理者候補団体に「福島県郡山自然の家」については「学校法人国際総合学園」が、「福島県会津自然の家」については「アメニティグループ」が、「福島県いわき海浜自然の家」については「公益財団法人いわき市教育文化事業団」が、それぞれ選定される。

(2) 所在地

ア 福島県郡山自然の家

福島県郡山市逢瀬町多田野字中丸山46

〒963-0213 TEL 024-957-2111

FAX 024-957-2112

URL <https://koriyama-nc.fcs.ed.jp/>

イ 福島県会津自然の家

福島県河沼郡会津坂下町大字八日沢字西東山4495-1

〒969-6504 TEL 0242-83-2480

FAX 0242-83-2481

URL <https://www.aizu-shizen.jp/>

ウ 福島県いわき海浜自然の家

福島県いわき市久之浜町田之網字向山53

〒979-0335 TEL 0246-32-7700

FAX 0246-32-7730

URL <http://www.iwakikaihin.jp/>

2 教育目標及び基本的視点

(1) 教育目標

恵まれた自然環境の中で、野外学習や集団宿泊活動など様々な活動を通して主体的に対応できる人々の育成を目指す生涯学習の推進のため、次の目標を設定する。

ア 自然の恩恵にふれ、自然に親しむ心や敬虔の念を育て

- る。
- イ 集団宿泊活動を通して規律・協同・友愛及び奉仕の精神を養う。
- ウ 自然体験活動を通して自ら実践し、創造する態度を育てる。

(2) 基本的視点

豊かな自然体験を楽しめる施設として、その機能を十分に発揮するために、施設・設備の整備や運営方法の確立・改善に努め、利用者が充実した活動を展開できるよう、次の基本的視点に基づきそれぞれの施設の運営にあたる。

- ア 所員の英知と創意を結集し、施設の充実・整備を図り活気と魅力ある施設の運営に努める。
- イ 利用者の多様なニーズや利用目的に応じた柔軟な運営を行うよう努める。
- ウ 立地条件を生かした特色ある企画事業を展開するとともに、学校や地域に生きる活動種目やその指導方法の研究開発に努める。
- エ 民間の指導者の協力や高校生・大学生等にボランティアとして参加していただけるように努める。
- オ 現代的課題の解決に対応する事業を推進し、その情報の発信に努める。

3 新型コロナウイルスの影響

自然の家の令和6年度の受け入れは、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが、5類感染症に移行した令和5年度の移行期間を経て、拡大防止のため行われていた利用定数、利用団体数、利用日数（宿泊日数）などの利用制限がすべて解除されての運営となった。

これにより利用状況はさらに回復し、全体的には、コロナ禍前の平成30年度と比較すると、利用者数で7割強、利用団体数で9割となった。なお、学校教育団体の利用者数の回復が、社会教育団体等の回復よりも早い状況となっている。

第15節 福島県郡山自然の家

1 概要

(1) 沿革

郡山自然の家は、昭和47年に「福島県少年自然の家」という名称で設立され、令和5年度には延べ利用者数が180万人に達した。

本施設は、郡山駅より西へ約11km、郡山中央スマートインターから車で約6分、郡山南インターより約8分という交通の便に恵まれ、豊かな自然環境に囲まれた都市近郊型の自然の家として、「みどり・であい・感動」をキャッチフレーズに、野外活動や集団宿泊活動を通して、「自然に親しむ心や畏敬の念」「規律・協同・友愛・奉仕の精神」「自ら実践し、創造する態度」の育成を目指し、活動を展開している。また、生涯学習の拠点として県民に親しまれる施設を目指し、随時、施設の改築・改修を進め、園児から高齢者まで幅広い年齢層の方々やジェンダーを問わず利用しやすい施設

とすべく、多種多様な企画事業を展開し特色あるプログラムの開発に努めている。

平成31年4月1日より学校法人国際総合学園が指定管理者となり管理運営を行っている。

東日本大震災以降は、放射線量が比較的高い場所の除染を実施し放射線量の低減に取り組むとともに、毎月エリア内の放射線量を測定してホームページに掲載するなど情報提供に努めてきた。

年間の利用実績は、利用団体数412団体（前年比104.6%）、延べ利用者数20,917名（前年比120.2%）であった。内訳は学校教育団体の利用が7,753名、社会教育団体（ファミリーを含む）が6,006名、企画事業参加者が7,158名という状況で、5千人まで落ち込んだ利用者数も2万人を超えるまでに回復してきた。

(2) 職員組織

職 名	人員
所長	1
次長	1
事務局長	1
指導部主任	1
指導員	4
事務員	1
運転手	1
計	10

(3) 令和6年度重点目標と成果

「SDGsを念頭に社会教育施設として質の高い活動を提供するとともに、LGBTQなど性の多様性と互いの価値観を尊重し人に優しい自然の家。」を目標に取り組んだ。

ア 利用団体への効果的な支援の充実

(ア) 団体が主体的に活動できるよう、学校利用団体・社会教育団体の担当者と緊密な連携に努めた。特に学校利用団体については、4月と7月に学校利用指導者研修会を実施した。熱中症対策及び感染症予防に努めるとともに、安全安心に利用して頂けるよう対応について情報共有を図った。

(イ) 社会教育団体の利用については、各団体代表者との連絡を密にしながら、事前の施設見学を実施するとともに活動計画作成を支援した。

(ウ) 利用団体の指導者及び利用者から寄せられたアンケート等を集約・分析し、より良いプログラムの提供が図られるよう努めた。

イ 魅力ある企画事業の運営

(ア) 自然の家らしい季節感を生かした魅力ある事業を企画立案するとともに、今までの事業を見直し利用者のニーズに合った事業展開を図るとともに、地域や関係機関との連携に努めた。

(イ) 前年度の反省や評価を踏まえ、事業内容や方法等に工夫・改善を加え、利用者の満足度向上に努めた。

ウ 広報の充実と利用促進

(ア) ホームページやInstagramなど様々な広報機会を利用し、本所における事業実施に関する情報提供に努めた。特に、園や学校を通して園児や児童・生徒に直接チラシを配布することにより、各家庭に様々な企画事業についての情報提供を行った。

また、サザッピー会員については、各事業に関する案内を電子メールにより直接情報提供を行った。

(イ) 企画事業案の普及や事業の実施状況等をホームページに随時掲載するなど、タイムリーな情報提供に努めた。また、毎月エリア内5か所の放射線量をホームページに掲載し、利用者が安心して利用できるよう情報提供を行った。

(ウ) 県内の自然の家が広報機会を共有するという目的の下、各所で作成するチラシ等に他所の情報を掲載出来るよう準備したが、実際の運用には至らなかった。

(エ) 利用促進を図るため、平成25年度から家族を対象とした会員登録制度を立ち上げ、名称を本所のマスコットキャラクターにちなみ「サザッピークラブ」とした。新規会員登録に努めた結果、年度末には会員数が400名を超えた。

エ 安全管理と保健安全指導の徹底

(ア) 「事故はどこでもいつでも起こり得る」という前提のもと、所員の安全意識の徹底を図り、施設設備の日常点検及び定期点検の実施はもちろんのこと、利用者に対しても施設の安全な利用について支援を行った。また、暑さ対策として熱中症計を準備し利用団体に貸し出すとともに、研修室をクールダウンできる場所として準備した。

- ・各団体の利用前のコースや遊具点検を徹底した。
- ・熱中症予防のため、水分の適切な摂取や体調不良時の対応について利用団体との情報共有に努めた。
- ・食物アレルギー対応のため、利用団体との情報共有及び給食業務委託業者との連携を進めた。
- ・スズメバチ等害虫対策として、捕虫装置の設置と点検を実施した。
- ・松食い虫被害による倒木防止のため、郡山市森林組合及び郡山市公園緑地課との連携により計画的な伐採と日常の安全点検を実施した。

(イ) 防災に関しては、国際医療看護福祉大学校及び郡山消防署の協力・連携・指導のもと、給食・警備・清掃等の委託業務担当者の参加協力を得て、消火訓練や避難訓練・救急救命訓練を実施した。毎年定期的に実施することにより、関係者のスキルアップが図られ、実効性のある訓練を実施することができた。実際に消火設備を用いて各種訓練を実施することにより、運用上の課題が明確となり対策を講じることができた。さらに、安全・安心な施設は、そこに勤務する職員の意識に負う所が大きいことから、相互の信頼関係を日々醸成するべく情報の共有伝達に努めた。

オ 施設・設備の整備

(ア) 常に利用者目線での施設の整備に努めた。具体的にはフィールドワーク活動の際など、小学生の目線でコース整備を行い目の高さにある樹木を除伐するほか、杭やコースロープを設置し、安全・安心に利用できるよう対応に努めた。また、総合活動館やアスレチックなどの遊具全般の点検に際しては、「目視、触診、打音、振動、負荷、作動」により器具の状態を確認し、随時、必要な整備・補修に努めた。

(イ) 多言語に関心を持つという観点から、館内標記を日本語と英語の併記とした。

2 施設・設備の概要

(1) 所在地

郡山市逢瀬町多田野字中丸山 46 番地

(2) 宿泊定員

ア 本館 172 名 (15 部屋)

イ ロッジ 126 名 (9 棟)

ウ テント 120 名 (20 張)

(3) 敷地面積

237,587.59 m²

(4) 建物面積

延床面積 3,792.12 m²

- ・本館 (管理棟・宿泊室・研修室・浴室)
- ・体育館、総合活動館、野外活動センター、東西炊飯場、ロッジ等

(5) 設備備品等

ア 野外活動設備

みどりの広場アスレチック、フィールドアドベンチャーコース、アーチェリー場 24 的、ナイトハイクコース、スコアオリエンテーリングポスト、フィールドワークコース、スタンプラリー、営火場 4 か所

イ その他

野外炊飯用具、インラインスケート、フリスビーゴルフ、フロッカー、キンボール、ペタンク、マウンテンバイク、グランドゴルフ、スナップゴルフ、スラックライン、ボッチャ、モルック、そり、各種クラフト用具、伝承遊びセット、ピアノ、双眼鏡、液晶プロジェクター、テレビほか

3 利用状況

令和6年度利用者数

延べ利用者数 20,917 人

内訳	学校教育団体	173 団体	7,753 人
	社会教育団体	170 団体	5,968 人
	ファミリー	4 団体	38 人
	企画事業	65 事業	7,158 人

4 企画事業

(1) 研修会事業

ア 学校利用指導者研修会

(ア) 目的

本所での主体的な利用促進のため、活動計画の立案や活動の実際について研修し、指導者としての資質を高める。

(イ) 期日及び参加者数

- a 令和6年4月25日(木) 21校21名
- b 令和6年7月25日(木) 35校40名

(ウ) 研修内容

施設紹介と活動プログラム立案、本所利用ルールの説明や活動プログラム実技研修を実施した。

イ ボランティア実践研修

(ア) 目的

本所のプログラム活動体験や宿泊体験を通してボランティア活動についての理解を深め人材の育成を図る。

(イ) 期日 令和6年7月20日(土)～21日(日)

(ウ) 対象及び参加者数

高校生以上 10名

(エ) 研修内容

1泊2日でボランティア活動の意義や安全・救急救命講習、活動プログラム実技研修などを実施した。

ウ ボランティア育成講座

(ア) 目的

本所のプログラム活動体験を通してボランティア活動についての理解を深め人材の育成を図る。

(イ) 期日 令和7年3月23日(日)

(ウ) 対象及び参加者数

高校生以上 6名

(エ) 研修内容

ボランティア活動の意義や安全・救急救命講習、防災炊飯実技研修などを実施した。

エ セカンドスクール

(ア) 目的

小学校における教科等に関連付けた活動プログラムを実施することにより、「主体的・対話的で深い学び」につなげ、集団宿泊活動の教育的効果向上を図る。

(イ) 期日 令和6年11月12日(火)～15日(金)

(ウ) 参加校及び参加者数

郡山市立穂積小学校・三和小学校 14名

(エ) 研修内容

3泊4日を通して2校の児童が、本所の活動プログラムや震災を学ぶ活動、職業体験学習、大安場史跡公園見学学習、国語算数合同授業などを実施した。

(2) 利用拡大事業

ア サクラ・カタクリ月間

(ア) 目的

カタクリの群生、桜を鑑賞し、春の自然を満喫する。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- a 令和6年4月2日(火)～30日(火) 一般 629名

- b 令和7年3月1日(土)～30日(日) 一般 3名

(ウ) 活動内容

本所の一部を開放し、春の植物を鑑賞した。

イ さくらウオーク

(ア) 目的

春の三穂田路の野山や田園地帯を歩きながら自然に親しみ、健康増進を図る。

(イ) 期日 令和6年4月7日(日)

(ウ) 対象及び参加者数

一般 111名(ほかボランティア2名)

(エ) 活動内容

本所を出発し笹原川千本桜まで約5km・10kmに分かれて散策をした。

ウ オープニングセレモニー

(ア) 目的

令和6年度のオープンに合わせ、アスレチックと総合活動館を地元小学生に開放し、使い始めを行う。

(イ) 期日 令和6年4月17日(水)

(ウ) 参加校及び参加者数

郡山市立多田野小学校(堀口分校含)
4、5年生と教員 37名

(エ) 活動内容

児童代表あいさつや葛を用いたテープカットなどのセレモニーを行った後、アスレチックを楽しんだ。

エ 家族でチャレンジ!

(ア) 目的

家族や親子で野外活動に挑戦し、体力の増進を図るとともに、参加者の絆を深める。

(イ) 期日 令和6年5月19日(日)

(ウ) 対象及び参加者数

小学生とその家族 67名(ほかボランティア2名)

(エ) 活動内容

午前・午後の定員制とし、3種目をローテーションで体験した。

オ みどりのオープンデー

(ア) 目的

本所の様々な活動プログラムを体験する機会を提供し、本所について理解を深め利用拡大を図る。

(イ) 期日 令和6年6月2日(日)

(ウ) 対象及び参加者数

小学生とその家族 568名

(エ) 活動内容

本所プログラムや警察・消防車両乗車体験、職業体験等を実施した。

カ 夢冒険キャンプ

(ア) 目的

キャンプ生活を通して、自然との共存を図りながら様々な困難にチャレンジして打ち勝つことのできる子どもを育成する。

(イ) 期日 令和6年8月5日(月)～7日(水)

- (ウ) 対象及び参加者数
小学4年生～6年生 36名（ほかボランティア2名）
- (エ) 活動内容
2泊3日で野外炊飯、キャンプファイヤー、ロッジ泊、ムシテックワールドでの体験などを実施した。
- キ 家族で自然散策&防災キャンプ泊
※台風接近により中止
- ク 第22回郡山自然の家オープンデー
- (ア) 目的
本所のような活動プログラムを体験する機会を提供し、本所について理解を深め利用拡大を図る。
- (イ) 期日 令和6年9月15日(日)
- (ウ) 対象及び参加者数
小学生とその家族 841名
- (エ) 活動内容
本所プログラムや警察車両乗車体験、ムシテックワールドの移動昆虫館、職業体験等を実施した。
- ケ 家族で登山を楽しもう in那須茶臼岳
- (ア) 目的
登山についての知識を学び、トレッキングしながら茶臼岳登山に挑戦。
- (イ) 期日 令和6年9月28日(土)
- (ウ) 対象及び参加者数
一般（中級～上級者） 23名
- (エ) 活動内容
茶臼岳登山に挑戦。自然に親しみながら無理なく登山を体験した。
- コ 温故知新～郡山の歴史・近郊をめぐる旅～
- (ア) 目的
一般シニア等を対象とした郡山の歴史や産業に触れ、郡山を再発見し知識を深める機会とする。
- (イ) 期日 令和6年10月5日(土)～6日(日)
- (ウ) 対象及び参加者数
一般（シニア層向け） 6名
- (エ) 活動内容
1泊2日で郡山の歴史や産業に触れ、体験等を通じて郡山の魅力を楽しんだ。
- サ 家族でアーチェリー&秋カレーを作ろう！
- (ア) 目的
自然の中で体を動かし、野外炊飯を体験して家族の交流を深める。
- (イ) 期日 令和6年10月13日(日)
- (ウ) 対象及び参加者数
小学生とその家族 55名
- (エ) 活動内容
複数の家族で班を編成し野外炊飯でカレーを作った。
- シ 家族で自然散策といも煮会
- (ア) 目的
秋の自然散策と野外炊飯・いも煮を通して食についての意識を高め、家族やグループとの交流を深める。
- (イ) 期日 令和6年10月27日(日)
- (ウ) 対象及び参加者数
小学生とその家族 71名
- (エ) 活動内容
複数の家族で班を編成し野外炊飯で豚汁を作った。
- ス 五色沼ハイキング
- (ア) 目的
家族や親子で秋の裏磐梯をトレッキングし、身近な自然に親しみ、家族間の交流を図る。
- (イ) 期日 令和6年11月17日(日)
- (ウ) 対象及び参加者数
小学生とその家族 31名（ほかガイド2名）
- (エ) 活動内容
ボランティアガイドによる説明を聞きながら、裏磐梯の自然を満喫するとともに家族間の親睦を深めた。
- セ ハッピークリスマス&ハッピーニューイヤー
- (ア) 目的
ミニ門松やクリスマスリース作りをとおして、文化を見直し家族や友達との交流を深める。
- (イ) 期日 令和6年12月8日(日)
- (ウ) 対象及び参加者数
幼児から小学生とその家族 56名（ほか講師3名）
- (エ) 活動内容
ミニ門松とクリスマスリースを作り親睦を深めた。
- ソ 名人から学ぶけん玉教室&検定チャレンジ
- (ア) 目的
家族でけん玉検定にチャレンジし、交流を深める。
- (イ) 期日 令和6年12月22日(日)
- (ウ) 対象及び参加者数
幼児から小学生とその家族 47名（ほか講師5名）
- (エ) 活動内容
公益社団法人日本けん玉協会講師のもと、けん玉の基礎から上級技までコツを学びながら、家族で楽しんだ。
- タ 家族スケート教室
- (ア) 目的
スケートについて、安全に滑る知識と技能を身につけ、家族や親子で楽しく活動する。
- (イ) 期日 令和7年1月19日(日)
- (ウ) 対象及び参加者数
幼児から小学生を含む家族 44名（ほか講師1名）
- (エ) 活動内容
郡山スケート協会講師からスケートの基本的な動きの指導を受けながら家族で楽しく活動した。
- チ 家族でハッピーバレンタイン
- (ア) 目的
お菓子作りをとおして、作る楽しさを学ぶとともに家族や友達との交流を深める。
- (イ) 期日 令和7年2月2日(日)
- (ウ) 対象及び参加者数

幼児から小学生を含む家族 62名
(ほか講師3名、ボランティア5名)

(エ) 活動内容

プロのパティシエによる、家族でおいしく本格的なチョコレート菓子づくりの教室を実施した。

ツ わくわく！ファミリー冬のつどい

(ア) 目的

スキーや雪遊びを体験し冬のスポーツを楽しむとともに、家族間の交流を深める。

(イ) 期日 令和7年2月15日(土)～16日(日)

(ウ) 対象及び参加者数

小学生を含む家族 30名 (ほか講師2名)

(エ) 活動内容

裏磐梯スキー場にてスキー教室を実施した。

テ 冬のクラフトまつり

(ア) 目的

家族でクラフト制作をすることにより、ものづくりの楽しさを体験し、家族間の交流と親睦を図る。

(イ) 期日 令和7年3月2日(日)

(ウ) 対象及び参加者数

小学生を含む家族 77名 (ほかボランティア3名)

(エ) 活動内容

6種類のクラフト制作を自由に選択し、各制作コーナーを巡り制作活動を実施した。

ト スコアオリエンテーリング記録にチャレンジ

※降雪によるコース不良のため中止

ナ サザンピーククラブDAY

(ア) 目的

本所サザンピーククラブ限定の企画を開催することでクラブ会員同士の親睦を深める。

(イ) 期日 令和7年3月16日(日)

(ウ) 対象及び参加者数

サザンピーククラブ会員 37名

(エ) 活動内容

家族対抗競技を実施し親睦が図られた。

(3) 協力事業

ア いわき海浜自然の家 春のオープンデー

(ア) 目的

本所のクラフト活動体験を実施し、利用拡大を図る。

(イ) 期日及び参加者数 令和6年5月26日(日) 392名

(ウ) 活動内容 缶バッジ制作。

イ すかがわサイエンスフェスタ

(ア) 目的

本所のクラフト活動体験を提供し、利用拡大を図る。

(イ) 期日及び参加者数 令和6年8月18日(日) 400名

(ウ) 活動内容 缶バッジ制作。

ウ FSGカレッジリーグ学園祭

(ア) 目的

本所のクラフト活動体験を実施し、利用拡大を図る。

(イ) 期日及び参加者数 令和6年8月25日(日) 192名

(ウ) 活動内容 缶バッジ制作。

エ 会津自然の家 あったかふれあいまつり

(ア) 目的

本所のクラフト活動体験を実施し、利用拡大を図る。

(イ) 期日及び参加者数 令和6年10月6日(日) 200名

(ウ) 活動内容 缶バッジの制作。

オ 第48回須賀川子どもの祭典

(ア) 目的

本所のクラフト活動体験を実施し、利用拡大を図る。

(イ) 期日及び参加者数 令和6年10月13日(日) 200名

(ウ) 活動内容 缶バッジの制作。

カ 第35回浄土松公園まつり

(ア) 目的

本所のクラフト活動体験を実施し、利用拡大を図る。

(イ) 期日及び参加者数 令和6年10月13日(日) 210名

(ウ) 活動内容 缶バッジの制作。

キ 浄土松公園 家族でBBQ&自然体験

(ア) 目的

本所の自然体験活動を提供し、利用拡大を図る。

(イ) 期日及び参加者数 令和6年10月20日(日) 48名

(ウ) 活動内容

隣接する浄土松公園でのBBQと本所でのアーチェリーを組み合わせた連携事業を実施。

ク 待池公園 親子で宝探し

(ア) 目的

待池公園との連携により地域の利用促進を図る。

(イ) 期日及び参加者数 令和6年11月4日(月) 35名

(ウ) 活動内容

公園内の宝探しゲームで本所所員が活動支援を実施。

ケ サンタのクリーンナップ大作戦2024

(ア) 目的

本所のクラフト活動体験を実施し、利用拡大を図る。

(イ) 期日及び参加者数 令和6年12月22日(日) 82名

(ウ) 活動内容 缶バッジの制作。

コ 福島ファイヤーボンズホームゲーム出店

(ア) 目的

本所のクラフト活動体験を実施し、利用拡大を図る。

(イ) 期日及び参加者数

a 令和6年12月21日(土) 359名

b 令和6年12月22日(日) 222名

c 令和7年2月8日(土) 165名

d 令和7年2月9日(日) 226名

(ウ) 活動内容 缶バッジの制作。

(4) 年間継続事業

ア 無料開放DAY

(ア) 目的

屋内施設とみどりの広場アスレチックを開放し、思い切り体を動かす機会を提供するとともに、体力の増進を図る。

(イ) 対象者、期日及び参加者数

a 中通り地区の特別支援学校・学級の幼児及び小学生とその家族

- (a) 令和6年4月20日(土) 10名
- (b) 令和6年4月27日(土) 12名
- (c) 令和6年5月11日(土) 26名
- (d) 令和6年11月9日(土) 27名
- (e) 令和6年11月30日(土) 40名
- (f) 令和6年12月14日(土) 27名
- (g) 令和7年1月11日(土) 8名
- (h) 令和7年1月25日(土) 8名
- (i) 令和7年2月8日(土) 15名

b 中通り地区の幼児及び小学生とその家族

- (a) 令和6年4月21日(日) 66名
- (b) 令和6年4月28日(日) 68名
- (c) 令和6年5月12日(日) 52名
- (d) 令和6年11月10日(日) 141名
- (e) 令和6年12月1日(日) 95名
- (f) 令和6年12月15日(日) 53名
- (g) 令和7年1月12日(日) 84名
- (h) 令和7年1月26日(日) 59名
- (i) 令和7年2月9日(日) 68名

(ウ) 活動内容

施設を開放し家族で体を動かす機会を提供した。

イ 未来キッズ生き生き事業

(ア) 目的

家族や親子に体を動かす機会を提供するとともに、自然の家のプログラム体験をとおして、心身の健康や体力向上を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- a 令和6年6月16日(日)
県北地区の小学生を含む家族 145名
- b 令和6年6月23日(日)
県中・県南地区の小学生を含む家族 142名
- c 令和6年6月30日(日)
相双地区の小学生を含む家族 90名

(ウ) 活動内容

本所の様々なプログラムを家族で楽しんだ。

ウ 特別企画 自然の家でからだを動かそう

(ア) 目的

本所を利用し、子どもたちの健康の維持増進と体力の向上を図る。

(イ) 期日

令和6年12月3日(火)～令和7年2月28日(金)

(ウ) 対象及び参加者数

県中地区内の幼稚園・保育園 20団体604名

(エ) 活動内容

みどりの広場や活動館のアスレチックと体育館などを使って体を動かす機会を提供した。

エ こころのケアが必要なこどもを対象とした事業

(ア) 目的

様々な不安を抱え登校等が困難な児童生徒を対象に豊かな自然の中での活動を通して自己肯定感を高める。

(イ) 対象者、期日及び参加者数

集団活動や登校が困難な児童生徒期日

- a 令和6年6月8日(土)～9日(日) 13名
- b 令和6年10月11日(金) 18名
- c 令和6年10月26日(土) 20名
- d 令和6年12月8日(日) 9名
- e 令和7年2月2日(日) 16名

(ウ) 活動内容

保護者や教員、家庭教育支援員と連携し、児童生徒の状況や負担に配慮しながら自然体験活動や交流活動を実施した。

第16節 福島県会津自然の家

1 概要

福島県会津自然の家は、恵まれた自然環境の中で、自然に親しむ活動や集団宿泊生活、野外活動を体験することにより心豊かで心身ともに健全な県民を育成することを目的とした生涯学習施設である。

昭和56年4月に開所し、令和6年度末で44年になり、開所以来多くの方々にご利用いただいているところである。

令和6年度の利用者数は、26,422人で、前年度を3,252人上回った。これは、感染症拡大予防のためコロナ禍以降縮小してきた企画事業の募集人数を増やしたこと、InstagramなどのSNSの発信により会津自然の家がファミリーや高齢者などでも気軽に利用できると周知され、利用者拡大につながったことも一因と考えられる。

また、4つの重点目標を掲げ、その達成のため、誰もが利用しやすい魅力的な施設を目指して運営の改善を図り、時代や利用者のニーズに対応した生涯学習施設の役割に積極的に取り組んできた。

(1) 職員組織

職 名	人員
所長	1
副所長	2
総務長	(1)
総務事務員	2
指導員(常勤)	4
指導員(非常勤)	3
嘱託運転手	2
計	14

(2) 令和6年度重点目標と成果

利用者の満足度90%以上の成果目標を達成するために、次の点に力を入れて取り組んできた。

ア 利用者が満足感を持つことのできる活動を提供する。

(ア) 利用者のニーズに応じた「研修プログラム」の提供
活動プログラム集を作成し、学校団体から社会教育団

体まで幅広い団体のニーズに応じたプログラムを提供することができた。

- (イ) 施設開放等、地域参加型の「企画事業」の開催
里山開放デーなどの自然体験活動や家族がふれあえる企画事業の立案に努めた。
- (ウ) 幅広い年齢層に対応した出前講座の推進
学校、公民館など教育施設への出前講座を行い、子どもから高齢者まで楽しめる講座を提供することができた。
- (エ) 魅力的な「企画事業」や「研修プログラム」の開発
前年踏襲にとらわれず、企画事業において子どもだけでなく大人も対象とした様々なプログラムを提供するとともに、利用者のニーズに応えられるよう創造的な事業の企画立案に努めた。
- イ 生涯学習施設の拠点としてプログラムの提供や情報発信を行う。
 - (ア) 各関係機関との連携強化（事業のタイアップ）
市町村教育委員会や学校、公民館等、様々な関係機関と連携しながら、新聞やラジオ、フリーペーパー等を利用し、事業の広報活動に努めた。
 - (イ) ホームページやLINE・Instagram・フェイスブックを活用しての効果的な情報の発信
タイムリーな話題を、時期を逃さずSNSにアップできるように、担当が中心となり更新に努めた。新たな利用者層にアプローチするために、Instagramやフェイスブックを活用し、活動の様子や企画事業の案内に努めた。Instagramのフォロワー数は2,000人を突破した。
 - (ウ) 地域や各団体への新規プログラムの提供
研修委員会を中心に新たなプログラム開発を行い、各団体のニーズに合った活動ができるようにした。
 - (エ) ボランティアを育成する研修の開催と活動機会の提供
ボランティアのつどいを実施し、ボランティアの確保とともに、参加者のスキルアップに努めた。
- ウ 安全・安心で好感度の高い活動や環境を提供する。
 - (ア) 笑顔と元気なあいさつ、親切・丁寧な接遇
団体対応はもとより、来客や電話対応など、相手の立場に立った対応に努め、好感度の高い施設を目指すことができた。
 - (イ) 熱中症対策
エアコンがない施設のため、夏場は冷水機を設置したり、宿泊棟の廊下や活動場所などに大型の扇風機を設置したりするなど、利用者が熱中症などにならないような工夫を施した。
 - (ウ) 日常（事前、事中、事後）及び定期的安全・確認の徹底
労務員も含めた全所員による定期安全点検と日常点検を徹底し、事故防止に努めることができた。
 - (エ) 施設内の「ごみゼロ」と迅速な施設の整備・修繕
所員だけでなく、委託業者とも連携し、清潔な所内の

環境づくりに努めることができた。

- エ 施設・財産を守る。
 - (ア) 適切な会計処理とチェック体制の充実
会計事務にかかる研修や、服務倫理委員会を定期的に開催し、会計事務の適正化を図った。
 - (イ) 事業等の整備と保管
 - a 研修プログラムや企画事業の電子データ化と指導手順のマニュアル化
研修プログラム、企画事業の電子データ化を行い、写真や動画ですぐに確認できるように整備した。
 - b 活動や施設設備等のデータの累積とその有効活用
活動プログラムの説明や注意事項、放送設備等の使用方法などをデータに保存し、活用できた。

2 施設・設備の概要

(1) 所在地

河沼郡会津坂下町大字八日沢字西東山 4495 番 1

(2) 宿泊定員

- ア 本館 25 室 292 名（うち 1 室障がい者用）
- イ ロッジ 10 棟 120 名
- ウ テント 6 名×10 張、2 名×10 張 80 名

(3) 敷地面積

249,848.98 m²

(4) 建物面積

- 延床面積 5,864.83 m²
- ア 管理研修棟（鉄筋造 2 階建）
- イ 宿泊棟（鉄筋造 2 階建）
- ウ プレイホール（鉄筋造）
- エ アセンブリホール（鉄筋造）
- オ 機械棟（鉄筋造 3 階建）
- カ ロッジ（木造平屋建）
- キ 野外活動管理センター（鉄筋造）
- ク 薪置場（コンクリートブロック造）
- ケ 車庫（鉄筋造）
- コ 野外便所（鉄筋造）

(5) 運動広場面積

8,500 m²

(6) 設備備品等

- ア フィールドアスレチック
- イ 野外活動用具、野外炊飯用具、運動用具
- ウ 双眼鏡、天体望遠鏡、テレビ、VTR
- エ 液晶プロジェクター、CDカセットプレーヤー
- オ ピアノ、オルガン
- カ 伝承遊びセット
- キ クラフト用具
- ク 各種オリエンテーリング用具
- ケ アルペンスキー
- コ 歩くスキー（クロスカン트리スキー）
- サ そり、スノーチューブ
- シ スノーシュー

- ス 営火場（４か所）
- セ 諸活動コース
- ソ その他

3 利用状況

令和６年度の利用団体数

延べ利用者数 26,422 人

内訳	学校教育団体	259 団体	14,584 人
	社会教育団体	131 団体	7,468 人
	ファミリー	22 団体	155 人
	企画事業	57 企画	4,215 人

4 企画事業

(1) 研修会事業

ア 学校団体指導者事前研修会

(ア) 目的

- ①自然の家設立の趣旨・教育目標・方針・利用のねらい及び運営方法の理解を図る。
- ②児童・生徒が安全に生活し充実した活動が行えるよう、屋内外の施設環境を確認するとともに、各種プログラムのねらいや配慮事項を理解し、効果的な活動計画が作成できるようにする。
- ③集団宿泊活動等が円滑かつ効果的に進められるよう、同じ時期に宿泊する他の学校団体との活動及び役割分担等について調整を図る。

(イ) 対象者、期日及び参加者数

幼稚園、保育所及び小中学校の教員

- a 第１回 令和６年４月２３日（火） 32 名
- b 第２回 令和６年４月２４日（水） 29 名
- c 第３回 令和６年４月２５日（木） 28 名

(ウ) 研修内容

午前中、オリエンテーションやプログラム体験会を行い、午後から利用日のプログラム調整をする。

イ ボランティアのつどい

(ア) 目的

- ① ボランティアに関する講話や実践例などを聞く機会とし、ボランティアの意識高揚を図る。
- ② ボランティアメンバーの交流の場を設け、情報交換などを通してボランティアとしての意欲を高める。
- ③ プログラム体験の機会を設け、各種主催事業等に協力する際に必要な体験活動に関わるスキルを身につけることができるようにする。

(イ) 対象者、期日及び参加者数

高校生、一般

- a 第１回 令和６年５月１２日（日） 30名参加
- b 第２回 令和７年２月２２日（土） 10名参加

(ウ) 研修内容

ボランティア講座及び本所プログラム

(2) 教育研究事業

ア 通学キャンプ

(ア) 目的

- ①自然の家での集団生活や様々な体験活動を通して、子どもたちの自律的な生活態度やよりよい人間関係を形成するための社会性を育成する。
- ②中学校進学前に、同じ中学校へ進学予定の他校の児童との交流を図ることにより、中学進学の不安を少しでも解消できるようにする。

(イ) 期日 令和６年１１月７日（木）～１１月９日（土）

(ウ) 対象及び参加者数

会津坂下町立坂下南小学校・坂下東小学校の５～６年 児童 45 名

(エ) 活動内容

- ① 室内ゲーム、ニュースポーツ
- ② 学習会
- ③ クラフト体験

イ お正月飾りを作ろう

(ア) 目的

正月飾りをつくることで、日本の伝統文化を知る。

(イ) 期日 令和６年１２月２１日（土）、２２日（日）

(ウ) 対象及び参加者数

お正月飾り作りに興味のある方とその家族 189 名

(エ) 活動内容 お正月飾り作り

(3) 利用促進事業

ア 第 20 回高寺山山開き（会津坂下町との共催）

(ア) 目的

参加者同士が共に汗を流し登山することにより、健康づくりと温かい心の交流の機会を提供する。

(イ) 期日 令和６年４月２０日（土）

(ウ) 対象及び参加者数 希望者 250 名

(エ) 活動内容 高寺山・見明山登山

イ 里山開放デー（未来キッズ生き生き事業との併催）

(ア) 目的

自然の家の野外プログラムを活用して、心身の健康増進や自然の中で家族のコミュニケーションを図る。

(イ) 期日 令和６年７月１４日（日）

(ウ) 対象及び参加者数 希望者 666 名

(エ) 活動内容

a 協力外部団体

ツリーイング、里山アドベンチャー、水辺の生き物観察、森のスライダー

b 本所プログラム

カヌー、アスレチック、段ボール迷路、どこどこＯＬ、ムシムシランド、ニュースポーツ

ウ 夏の川遊びを楽しもう！

(ア) 目的

- ①暑い夏に川遊びを行い、自然に親しむとともに、地域の自然についての理解を深める。
- ②夏の暑さのもとでの様々な水辺の活動を通して、大自然の恵みや季節感を楽しむ豊かな心を育むと共に、水への安全な関わり方について身に付けさせる。

- (イ) 期日 令和6年7月27日(土) 178名参加
- (ウ) 対象及び参加者数
県内の幼児、小・中学生とその家族 178名
- (エ) 活動内容
①カヌー体験・川流れ体験 ②水辺の生き物探し ③河原で水遊び
- エ あったかふれあいまつり
(未来キッズ生き生き事業との併催)
- (ア) 目的
①野外活動プログラムや各種体験などの自然や人とのふれあいを通して、心身のリフレッシュや体力増進を図る。
②県民に施設及び周辺の環境を開放し、活動プログラムを体験することができる場を提供することにより、自然体験機能及び生涯学習機能を兼ね備えた本所への理解を深め、今後の集客につなげる。
③各団体と連携を図ることにより、体験活動の充実を図る。
- (イ) 期日 令和6年10月6日(日)
- (ウ) 対象及び参加者数
県内の幼児、小・中学生とその家族 597名
- (エ) 活動内容
a 協力外部団体
ツリーイング、秘密基地づくり、水辺の生き物観察
b 本所プログラム
薪割り・火起こし体験、森遊び、カヌー、アスレチック、段ボール迷路、どこどこOL、昆虫OL

オ 東松ウォーキング大会 2024

- (ア) 目的
東松峠ウォーキング大会に地区外からの参加を集うことにより、交流・地域の活性化を図る。
- (イ) 期日 令和6年10月19日(土)
- (ウ) 対象及び参加者数 一般 120名
- カ 三たてを味わう 新そばにチャレンジ
- (ア) 目的
会津の代表的な郷土料理であるそばを打ち、新そばの豊かな味わいを堪能するとともに、郷土の食文化のすばらしさを知る。

- (イ) 対象者、期日及び参加者数
家族またはグループ
a 第1回 令和6年11月16日(土) 39名
b 第2回 令和6年11月17日(日) 36名
- (ウ) 活動内容
そば打ち体験と試食

キ 手作り森のクリスマス

- (ア) 目的
①クリスマス用のクラフト作りや食事を味わうことを通して、家族間の交流を図る。
②手作りの良さや自然素材の温かみを味わってもらう

とともに、本所プログラムや施設についての理解を図り、今後の利用促進につなげる。

- (イ) 対象者、期日及び参加者
県内の小・中学生とその家族
a 第1回 令和6年12月7日(土) 51名
b 第2回 令和6年12月8日(日) 52名
- (ウ) 活動内容
クリスマスケーキデコレーション、クリスマスハンドベル演奏体験

ク ウィンターフェスティバル

- (ア) 目的
雪国ならではのスノーボード体験やそり・チューブ遊び、雪と親しむ活動等に触れることを通して、会津の冬の楽しさを感じさせる。

- (イ) 期日
令和7年1月18日(土)～19日(日)
- (ウ) 対象及び参加者数
県内の小学4年生～6年生 39名

- (エ) 活動内容
①スノーシュー体験、スノーチューブ体験 ②スノーボード教室、そり遊び

ケ クラフトキッズフェア

- (ア) 目的
①親子で工夫し、楽しみながらクラフト製作を行うことにより、子どもの発想力や創造力を高めたり、親子の絆を深めたりする。
②クラフト製作の場を提供することにより、本所のプログラムについての理解を深める機会と利用機会の拡大を図るきっかけを作る。

- (イ) 期日
令和7年3月2日(日)
- (ウ) 対象及び参加者数
県内の幼児、小・中学生とその家族 167名参加

- (エ) 活動内容
①牛乳パッククラフト ②ペットボトルけん玉作り
③缶バッチ作り ④木の実のフォトフレーム作り
⑤卵のひな人形づくり ⑥バードコール作り体験
⑦割りばし鉄砲作り ⑧キャンドル・木レンジャー作り

(4) その他の企画事業

ア 未来キッズ生き生き事業

- (ア) 目的、対象
県内の子どもたちとその家族を自然の家へ招待し、ブレイリーダーの協力も得ながら、一日を通して、自然の家でのプログラムに基づき、心身の健康や運動不足解消や体力増進となる取組を実施する。
会津地方の12歳以下の子どもたちとその家族を対象とする。

- (イ) 名称、期日、参加者数、活動内容
a 芋ほり大作戦!
(a) 期日 通年

- (b) 参加者数 延べ599名
- (c) 活動内容
さつまいもの苗植え、観察、収穫、収穫祭
- b はじめてキャンプ
- (a) 期日 令和6年6月1日(土)～2日(日)
- (b) 参加者数 32名
- (c) 活動内容
テント設営体験、野外炊飯、たき火、ナイトハイク
- c 会津自然の山里山開放デー（前述）
- (a) 期日 令和6年7月14日(日)
- (b) 参加者数 666名
- (c) 活動内容
カヌー、アスレチック、森遊び、森のスライダー等
- d 夏の川遊びを楽しもう！
- (a) 期日 令和6年7月27日(土)
- (b) 参加者数 178名
- (c) 活動内容
カヌー、川流れ体験、水遊び、水辺の生き物探し
- e あったかふれあいまつり（前述）
- (a) 期日 令和6年10月6日(日)
- (b) 参加者数 597名
- (c) 活動内容
カヌー、アスレチック、森遊び、森のスライダー等
- f 秋だ！ちびっこ大集合！
- (a) 期日 令和6年10月20日(日)
- (b) 参加者数 135名
- (c) 活動内容
さつまいもほり体験、薪割り体験、たき火（焼き芋）
- g そりすべり団体開放
- (a) 期日 令和7年1月9日(木)～2月15日(土)
- (b) 参加者数 1,168名
- (c) 活動内容
そり・チューブすべり
- h 雪遊びファミリーデー
- (a) 期日 令和7年2月2日(日)
- (b) 参加者数 208名
- (c) 活動内容
そり・チューブ滑り、色水遊び、スキー体験など
- イ 心のケア事業「もっくんリフレッシュデー」
- (ア) 目的
心のケアが必要な児童生徒に対して、会津自然の家の豊かな環境を活かしたプログラムを提供し、自然体験活動や交流活動を通して、心身ともに健やかな人間性を育むとともに、自ら主体的に考え行動できるようなたくましい子どもたちの育成のための支援を図ることを目的とする。
- (イ) 活動内容、期日、参加者数
保護者、児童、施設と連携し、児童生徒の状況に配慮しながら自然体験活動や手作りの活動を実施した。
- a 笹団子作り、シイタケ植菌体験
6月23日(日) 15名
- b 野外クッキング、カヌー体験
7月28日(日) 29名
- c 野外クッキング体験、ヒシの実収穫体験、ツリーイング
8月31日(土)～9月1日(日) 23名
- d 室内オリエンテーリング、ミニパフェ作り、自然散策
9月17日(火) 3名
- e 野外炊飯(ポークカレー)、室内遊び
9月21日(土) 22名
- f カヌー体験、焼き板体験
10月11日(金) 20名
- g 森の案内人さんと自然体験、炭焼きと芋版作り体験
10月13日(日) 17名
- h そば打ち体験、動物とのふれあい体験
11月2日(土) 30名
- i リース作り、ミニパフェ作り体験
12月15日(日) 26名
- j リース作り、薪割り・たき火体験、ニュースポーツ
12月18日(水) 7名
- k 雪遊び・そり滑り体験、ニュースポーツ体験
2月14日(金) 8名
- l 雪遊び体験、ドレミパイプ演奏会
2月16日(日) 27名
- m スノーシュー体験、雪遊び・そり滑り、ランタン作り
2月21日(金) 24名

第17節 福島県いわき海浜自然の家

1 概要

福島県いわき海浜自然の家は、海と山の豊かな自然環境の中で様々な活動や集団宿泊体験を通して、心身ともに健全な青少年を育成することを目的とした社会教育施設として平成8年7月に開所した。

開所以来、学校教育団体の利用はもとより、スポーツ少年団、子ども会などの社会教育団体や家族などのあらゆる年齢層に利用されてきた。しかし、平成23年3月11日の東日本大震災により休所を余儀なくされ、同年11月1日から財団法人いわき市教育文化事業団（平成26年4月1日に「公益財団法人いわき市教育文化事業団」と改称）を指定管理者として一部再開した。

以降、利用者が安心して利用できる環境を創出するため、平成23年度から同26年度にかけて、本館周辺及び野外施設の放射線量低減措置を実施し、順次供用を再開した。山林部については、放射線量の自然低減が確認されたため、令和4年度・令和5年度に「冒険の森第3コース」の整備を実施し、令和6年度より供用を再開した。「冒険の森第2コース」については、令和6年度に整備を実施し、令和7年度より供用可能な状態となった。

海浜活動については、沿岸部の復旧状況に合わせて平成25

年度から順次再開し、平成30年度に四倉漁港でいかだ乗り、カヤック乗り、ボディボードを再開したことで、全てのプログラムを再開することができた。海浜に隣接した施設としての特性を生かした海浜活動のプログラムは、会津及び中通り地方の学校教育団体だけでなく、相双地区やいわき地区の利用団体からも好評を得ている。

令和5年度11月より新型コロナウイルス感染症に係る利用制限をすべて撤廃しており、令和6年度の利用については、宿泊利用定数・日数等の制限なく受け入れ、年間の利用状況については595団体(前年比82団体増)、延べ利用者数45,258名(前年比8,856名増)となった。

施設管理に関しては、日常的に保守点検や環境美化に努めるとともに、利用者が少ない時期には、設備の細部点検や修繕等を集中して実施し、利用環境の整備・向上を図った。また、引き続き「庁舎等管理規程」「危機管理マニュアル」等に基づき、利用者が安全・安心に利用できるよう努めた。

(1) 職員組織

職 名	人員
所 長	1
次長兼専門指導員	1
主 査	1
副主任指導員	2
指導員	2
事務主任	1
教育指導専門員	1
体験活動指導員	4
運転手	2
環境整備員	1
事務補助員	2
計	18

(2) 令和6年度重点目標と成果

震災の影響で未だに一部の自然体験活動が制限されている中、少しでも多くの利用者が、新たな発見や感動、満足感・充実感を味わうことにより、本来の活動目的が達成されるよう、引き続き次の目標に取り組んだ。

ア 当所の設置目的の明確化とその周知及び利用促進を図る。

(ア) 青少年教育施設としての位置づけを明確にし、利用者への理解徹底を図るため、健全な青少年の育成を目的とした利用のあり方を検討しながら受け入れを実施した。学校教育団体へは、所報「しおね」や企画事業チラシ・ポスター等を配付するなど、当所の取り組みや事業について情報提供し、周知と利用促進に努めた。また、生涯学習施設としての役割に鑑み、いわき市内の教育文化施設及び社会教育施設と連携し、公民館への出前講座等で体験活動を提供するなど、社会教育団体への利用促進を図った。

(イ) 利用団体の指導者への啓発的支援を通して、青少年の自主的自律的な心身の育成を図るため、学校教育団体及び社会教育団体の指導者向けに活動計画立案や活動プ

ログラム体験などを取り入れた研修会を実施した。研修会では、研修目的に沿った活動の提案や、宿泊活動が円滑に行えるよう調整を行った。

(ウ) 利用団体へのオリエンテーション等を通して宿泊活動における生活指導を行い、共同生活の場における社会的集团的なルールの理解と定着を図った。

(エ) 企画事業の充実を図るため、提供プログラムの教育的効果や自然体験を多く取り入れたプログラムの開発について、所員が意見を出し合いながら事業を進めた。令和6年度は、春・秋のオープンデーなどの企画では、紙媒体と複数のSNSを組み合わせた広報活動の結果、多くの参加者があった。夏休み・冬休み期間中の広報活動についても、指定管理者が管理受託する他の施設と連携し、効率的な広報に努めた。

イ 利用者のニーズに対応した施設運営に努める。

(ア) 利用者の研修目的達成のため、団体の特性に合わせた活動プログラムの開発に取り組んだ。特に学校教育団体については、プログラムの教育的効果を検証し、野外活動・海浜活動の内容について検討を行った。

(イ) あらゆる年齢層に対応するため、幼児から高齢者まで、多様なニーズに対応した幅の広いプログラムの開発と内容の充実に努めた。

(ウ) 利用者アンケート調査を実施し、利用者ニーズについての調査・研究を行った。プログラムについては自然の家に求められている体験活動について、既存の内容の見直しを随時行った。また、団体の自主性・主体性を尊重しながら、研修目的を達成できるよう、適切な支援方法について、所員研修を行いながら改善を進めた。

(エ) 誰もが安心して楽しく利用できる施設を目指し、活動前の施設の安全点検だけでなく、活動プログラムについても定期的に安全面での検証を行い、支援に取り入れた。特に海浜活動については、毎年シーズン前に所員研修を実施し、安全な支援方法の確認を行っている。

(オ) 平日の昼間に自然体験活動を希望する大人向けに、閑散期の利用促進対策も兼ねて、四季折々の企画「里山さんぽ」を実施し、利用者から好評を博した。

(カ) 閑散期の土日に施設の一部を開放する「自然の家であそんじゃお！（ミニ開放デー）」を開催した。SNSのみの広報であったが、想定を上回る参加者があった。

(キ) 国立高等専門学校機構福島高等工業専門学校「磐陽テックガレージ」と連携し、企画事業「クラフトのつどい」で海洋生物模型の製作実演及び造形物の彩色体験を実施した。また、参加者からのアンケートを通じ、所員の研究課題の一つである「STEAM教育と体験活動」に関する情報収集を行った。

ウ 事故の未然防止、危機管理体制の充実に努める。

(ア) 当所内外の安全点検を定期的に行い、事故の未然防止を徹底した。特にトリムランドは利用日当日に所員が点検を行うとともに、公園施設製品安全管理士による点検を年1回実施し、安全管理に努めた。用具についても、

利用前に不具合の有無についての確認を徹底した。

- (イ) 学校教育団体及び社会教育団体への事前研修会を実施し、安全で適切な施設の活用について周知徹底を図った。令和6年度は、学校団体指導者研修会・活動プログラム研修会ともに、対面方式で開催してきめ細かい調整を行い、受付やオリエンテーション、活動支援等についても適切な助言や指導を行った。
 - (ウ) 自然災害及び事故発生時の緊急事態等に対応するため、危機管理マニュアルを作成し、緊急時の対応及び連絡体制を明確にすることで、情報共有の徹底と危機管理体制の充実に努めた。マニュアルは毎年見直しを行い、令和6年度は医療機関に関する内容を見直した。
 - (エ) 当所の危機管理体制と安全対策を周知するため、海浜活動時等の自然災害等での避難方法についてマニュアル化し、利用者に配付するとともに、受付時にも説明を行った。また、放射線量について、施設全体と活動エリアである海岸、さらに現在使用休止中の山林部についても、定期的に測定を実施し、データをホームページで公表した。
 - (オ) 利用者がより良い環境の中で安全に安心して活動できるよう、地域の消防署、警察署とも連携して安全対策を徹底した。また、所外での活動に備えて2台のAEDを準備し、年1回の救急救命訓練を実施するなど、安全対策の充実に努めた。
 - (カ) 火災予防については、消防法に定められた防火設備の点検を実施するとともに、消防計画の作成、消防訓練の実施など、常に防火管理に努めた。
- エ 定期的な業務内容の点検と改善に努める。
- (ア) 利用者アンケート結果を参考に、プログラム内容や支援への意見・要望などを分析しながら業務遂行の在り方を検討し、利用者の目線に立った支援及び管理運営に努めた。
 - (イ) 指定管理者である公益財団法人いわき市教育文化事業団の理事会及び評議員会や、法人が管理受託している施設全体の施設長会議などにおいて、計画的かつ定期的な評価を受け、改善点の明確化を図り、満足度の高い施設運営に努めた。
 - (ウ) 自然体験活動にふさわしい環境整備を心がけ、利用団体の活動に支障がないよう施設の維持保全に努めた。食事提供業務、施設等維持保全関連業務等の再委託については、可能な限り指名競争入札により経費の削減を図りながら、受託業者と連携して利用者へのサービス向上に努めた。
 - (エ) 業務改善推進会議を設置して業務の効率化による経費節減について検討し、可能なものから随時実施した。
- オ 地域との連携を深め、生涯学習実践の場として機能する施設運営に努める。
- (ア) ボランティア養成講座を年4回開催し、ボランティアの意義について理解を深めるための講座及びグループワーク、自然体験活動支援に必要な知識と技術を習得す

る実技研修を実施した。ボランティア養成講座には、社会人だけでなく、高校生及び大学生が参加しており、社会教育や生涯学習につながる体験の場を提供することができた。規定の講座修了後には事業支援ボランティアとして企画事業の活動補助を行うなど、ボランティア活動の場の充実に努めた。

また、環境ボランティアによる所内美化活動や、海浜活動を実施する舟戸海岸・四倉漁港の清掃活動を計8回行い、地域に根ざした施設づくりに努めた。

- (イ) 地域の公民館及び教育文化施設等と社会教育に関する情報を共有し、スポーツ団体や漁業関係者との連携、協力を得て、企画事業等で様々なプログラムを提供した。また、地域のまちづくり活動へ協力することで、各種団体との連携強化に努めた。

2 施設・設備の概要

(1) 所在地

いわき市久之浜町田之網字向山 53

(2) 宿泊定員

ア 本館定員	300 名 (和室 28 室)
イ ロッジ定員	160 名 (10 棟)
ウ テント定員	100 名 (25 張)

(3) 敷地面積

350,171 ㎡

(4) 建物面積

延床面積 6,696.97 ㎡

ア 中心施設

本館 (宿泊室、オリエンテーションホール、研修室、野外学習室、事務室、食堂、浴室等)

体育館

イ 野外施設

管理棟、ロッジ、便所等

(5) 野外活動施設面積

ア つどいの広場	7,000 ㎡
イ 多目的広場	8,890 ㎡
ウ 自然観察園	4,050 ㎡
エ みんなの広場	4,700 ㎡

(6) 設備備品等

ア 体育館

バレーボールコート2面、バスケットボールコート1面 (バスケットボールリング、ミニバスケットボールリング)、バドミントンコート2面、卓球台3台、ピアノ1台、キンボール ほか

イ 野営場

野外炊飯場、キャンプ用品一式、冷蔵庫 ほか

ウ 野外活動設備

フィールドアスレチックコース、冒険の森遊歩道、トリムランド、営火場5か所 (うち1か所は利用休止中)、各種オリエンテーリングコース、ナイトハイキングコース、ウォークラリーコース、ロープコース、マウン

テンバイクコース ほか。なお、次の施設は平成 23 年度から利用制限中（フィールドアスレチックコース、冒険の森遊歩道、ロープコース）

エ 多目的広場
ソフトボール、マウンテンバイクコース、サッカーゴール ほか

オ その他
視聴覚機器、無線機、天体望遠鏡、双眼鏡、七宝焼窯、マウンテンバイク、足けりバイク、釣り用具一式、海浜用具一式、マイクロバス ほか

3 利用状況

令和 6 年度利用者数

延べ利用者数 595 団体 45,258 名

内訳 学校教育団体 285 団体 25,199 名

社会教育団体 243 団体 11,627 名

ファミリー 16 団体 202 名

企画事業 51 団体 8,230 名

4 企画事業

(1) 研修会事業

ア 学校団体指導者事前研修会

(ア) 目的

令和 6 年度利用の学校教育団体の指導者が、活動計画の立て方や当所の利用方法について理解を深めるとともに、同日に利用する学校間での活動プログラムの調整を図る。

(イ) 期日及び参加校数

a 令和 6 年 4 月 18 日(木) 参加 50 校

b 令和 6 年 4 月 25 日(木) 参加 66 校

c 令和 6 年 5 月 9 日(木) 参加 56 校

d 令和 6 年 8 月 6 日(火) 参加 41 校

(ウ) 内容

宿泊活動で利用する学校団体の指導者向けに、活動計画の立案や活動方法についての事前研修会と団体間の活動プログラム内容の調整

イ 社会教育団体指導者事前研修会（活動プログラム研修会）

(ア) 目的

令和 6 年度利用の社会教育団体の指導者が、見学会や実技研修等とおして、活動の進め方や活動計画作成に理解を深めることができるよう提案する。

(イ) 期日及び参加者数

令和 6 年 5 月 17 日(金) 14 団体 25 名

(ウ) 内容

①活動プログラムを体験

②参加者の目標とする計画の立案二体する助言や他団体との調整。

ウ ボランティア養成講座

(ア) 目的

自然体験活動を支援する上で、必要な知識と技術を習得するとともに、当所のボランティアとしての活動方法を学ぶ。

(イ) 対象 高校生以上

(ウ) 期日、参加者数

a 令和 6 年 4 月 28 日(日) 23 名

b 令和 6 年 7 月 14 日(日) 18 名

c 令和 6 年 9 月 29 日(日) 5 名

d 令和 6 年 12 月 1 日(日) 7 名

(エ) 内容

実施予定の自然体験活動・企画事業支援についての研修を行った。

(2) 利用促進事業

ア 自然の家であそんじゃお！（ミニ開放デー）

(ア) 目的

閑散期の土日を利用し、体育館やトリムランドを開放し、他者との交流の場を提供するとともに、当所の魅力を発信し、施設の周知を図る。

(イ) 対象及び参加者数

一般 459 名

(ウ) 実施日 計 8 回

令和 6 年 4 月 14 日(日)、21 日(日)、令和 7 年 1 月 11

日(土)、19 日(日)、25 日(土)、2 月 15 日(土)、22 日

(土)、3 月 8 日(土)

(エ) 内容

①ニュースポーツ

②オリエンテーリング

③冬の星空観察会

イ 遊ぼう！初夏の海で

(ア) 目的

初夏の舟戸海岸で、魚釣りや磯遊びを楽しみながら、家族のふれ合いを深める。

(イ) 期日 令和 6 年 5 月 12 日(日)

(ウ) 対象及び参加者数

小学校に通う児童とその家族 49 名

(エ) 内容

①魚釣り②磯遊び

ウ 新緑の里山さんぽ

(ア) 目的

中高年を対象に、新緑の冒険の森 3 コース等を楽しんでもらい、当所の魅力の発信と周知を図る。

(イ) 期日 令和 6 年 5 月 15 日(水)

(ウ) 対象及び参加者数 一般（大人） 14 名

(エ) 内容

ネイチャーガイド付き冒険の森散策

エ 春のオープンデー（第 1 回未来キッズ生き生き事業）

(ア) 目的

施設を県民へ広く開放し、様々な体験活動を通して、

当所への理解を深めるとともに、子どもたちの豊かな人間性や生きる力の育成を図る。

(イ) 期日 令和6年5月26日(日)

(ウ) 対象及び参加者数 一般 3,451名

(エ) 内容

- ①冒険の森散策②野外炊飯③マウンテンバイク
- ④足けりバイク⑤海浜オリエンテーリング
- ⑥エアトランポリン⑦昔遊び⑧ニューススポーツ
- ⑨アスレチック⑩キーホルダー⑪缶バッジ
- ⑫海浜レストラン⑬キッチンカー⑭消防車両展示
- ⑮宿泊部屋見学⑯大浴場開放

オ ミニ企画事業「親子でじゃがいも収穫体験！」

(ア) 目的

環境支援ボランティアの協力のもと、じゃがいもの収穫体験や簡単な料理を楽しむことで、食への関心を高め、当所の魅力の発信と周知をはかる。

(イ) 期日 令和6年6月15日(土)

(ウ) 対象及び参加者数

未就学児・小学生と保護者 4家族14名

(エ) 内容

- ①じゃがいも収穫②料理体験

カ ふれあいサマーキャンプ

(ア) 目的

自然体験活動を通して自然や人とふれあう喜びを体得するとともに、協調性・社会性や自立心を養う。

(イ) 期日 令和6年7月27日(土)～7月28日(日)

(ウ) 対象及び参加者数 小学生(4～6年生) 36名

(エ) 内容

- ①交流ゲーム②海浜オリエンテーリング③野菜収穫
- ④野外炊飯⑤花火⑥いかだ乗り・ボディボード

キ スポーツフェスティバル(第4回未来キッズ生き生き事業)

(ア) 目的

子どもから大人まで、一緒に様々なスポーツ及びニュースポーツを楽しみ、健康への意識向上を図る。

(イ) 期日 令和6年10月6日(日)

(ウ) 対象及び参加者数 一般 1,103名

(エ) 内容

- ①サッカーナイン②アーチェリー③陸上④卓球
- ⑤マウンテンバイク⑥足けりバイク⑦ファミリーゴルフ⑧ポッチャ⑨フリースロー⑩アスレチック
- ⑪スタンプラリー⑫海浜レストラン⑬キッチンカー

ク 秋のオープンデー(第5回未来キッズ生き生き事業)

(ア) 目的

施設を県民へ広く開放し、様々な体験活動を通して、当所への理解を深めるとともに、子どもたちの豊かな人間性や生きる力の育成を図る。

(イ) 期日 令和6年10月27日(日)

(ウ) 対象及び参加者数 一般 670名

(エ) 内容

- ①スコアオリエンテーリング②野外炊飯③マウンテンバイク④足けりバイク⑤福島ファイヤーボンズによるバスケクリニック⑥段ボール迷路⑦ニューススポーツ⑧アスレチック⑨キーホルダー⑩海浜レストラン⑪キッチンカー⑫消防車両展示⑬警察車両展示

ケ ふれあいオータムキャンプ

(ア) 目的

自然体験活動を通して自然や人とふれ合う喜びを体得するとともに、協調性・社会性や自立心を養う。

(イ) 期日 令和6年11月9日(土)～10日(日)

(ウ) 対象及び参加者数

小学生(4～6年生) 21名

(エ) 内容

- ①交流ゲーム②テント設営③さつまいも収穫体験
- ④野外炊飯⑤星空観察会⑥テント泊⑦背戸峨廊ハイキング⑧記念品作り

コ ミニ企画事業「親子でさつまいも収穫体験！」

(ア) 目的

さつまいもの収穫体験や簡単な料理を楽しむことで、食への関心を高め、当所の魅力の発信と周知をはかる。

(イ) 期日 令和6年11月16日(土)

(ウ) 対象及び参加者数

未就学児・小学生と保護者10家族34名

(エ) 内容

- ①じゃがいも収穫②料理体験

サ 紅葉の里山さんぽ

(ア) 目的

中高年を対象に、紅葉の冒険の森3コースを楽しんでもらい、当所の魅力の発信と周知を図る。

(イ) 期日 令和6年11月20日(水)

(ウ) 対象及び参加者数 一般(大人) 15名

(エ) 内容

ネイチャーガイド付き冒険の森散策

シ 親子のつどい

(ア) 目的

自然の素材を用いて季節にふさわしい創作活動、共同作業を通して、家族の親睦を深める。

(イ) 期日 令和6年12月15日(日)

(ウ) 対象及び参加者数

未就学児・小学生とその家族 26家族 88名

(エ) 内容

- ①クリスマスウォールツリーまたはお正月熊手作り
- ②家族交流ゲーム

ス 冬を楽しもう！～スキー教室～

(ア) 目的

普段、雪で遊ぶことが少ない浜通り地方の子どもたちを対象として会津地区でスキー教室を実施し、福島県の風土の豊かさを感じるとともに、自然体験活動の楽しさを知る。

(イ) 期日 令和7年1月12日(日)

(ウ) 対象及び参加者数 小学生とその家族 34名

(エ) 内容

スキー教室

セ 海浜ワークショップ

(ア) 目的

閑散期の平日に、大人を対象として開催し、新たな利用者層を掘り起こすとともに、他者との交流の場を提供し、当所への理解を深めてもらう。

(イ) 期日 令和7年1月30日(木)

(ウ) 対象及び参加者数 一般(大人) 23名

(エ) 内容

草木染めのマクラメキーホルダー、または、ドライフラワーアレンジメント作り

ソ クラフトのつどい

(ア) 目的

子どもから大人まで楽しめる様々なクラフトをとおり、参加者が当所についての理解を深めることを目的とする。

(イ) 期日 令和7年2月8日(土)

(ウ) 対象及び参加者数 一般 475名

(エ) 内容

①3Dプリンター海洋生物造形実演(福島高等工業専門学校「磐陽テックガレージ」)・造形物彩色

②海辺のモザイクコースター③海浜組紐

④ステンドグラスしおり⑤バスボム

⑥森のブックカバー⑦プラ板キーホルダー

⑧アスレチック⑨海浜レストラン

タ 森の音楽会

(ア) 目的

地元ゆかりの演奏家によるコンサートを聴き、音楽に親しむ心や、当所の魅力の発信と周知を図る。

(イ) 期日 令和7年3月9日(日)

(ウ) 対象及び参加者数 一般 125名

(エ) 内容

①伊達LOW Strings(仙台フィルハーモニー管弦楽団)の演奏②食堂ランチバイキング

チ 早春の里山さんぽ

(ア) 目的

利用の少ない年齢層を対象として、早春の自然(冒険の森3コース)を楽しんでもらい、当所の魅力の発信と周知を図る。

(イ) 期日 令和7年3月26日(水)

(ウ) 対象及び参加者数 一般(大人) 21名

(エ) 内容

ネイチャーガイド付き冒険の森散策

(3) その他の企画事業

ア 未来キッズ生き活き事業

(ア) 目的

子どもたちに海活動やレクリエーション・スポーツなどを通して、身体を動かす機会を提供し、体力・運動能

力の向上、心身のリフレッシュ及び健康増進を促す。

(イ) 期日及び参加者数

a 第1回 令和6年5月26日(日) 3,451名
(4(2)エ 春のオープンデーに記載)

b 第2回

(a) 期日 令和6年8月18日(日)午後
(悪天候により、令和6年8月10日(日)午後より延期)

(b) 参加者 46名

(c) 内容 ①ボディボード②砂遊び

c 第3回

(a) 期日 令和6年8月18日(日)午前
(悪天候により、令和6年8月17日(日)午前より延期)

(b) 参加者 51名

(c) 内容 ①ボディボード②砂遊び

d 第4回 令和6年10月6日(日) 1,103名

(4(2)キ スポーツフェスティバル)

e 第5回 令和6年10月27日(日) 670名

(4(2)ク 秋のオープンデー)

f 第6回

(a) 期日 令和6年12月8日(日)

(b) 参加者 804名

(c) 内容

①プロ野球選手野球教室②ティーボール

③プレゼント抽選会

④いわきスポーツアスレチックアカデミー体づくり運動

⑤屋外スポーツ(グラウンドゴルフ、マウンテンバイク)

⑥屋内スポーツ(ストラックアウト、輪投げ、縄跳び、足けりバイク)

⑦キーホルダー作り⑧段ボール迷路

⑨海浜オリエンテーリング⑩アスレチック

⑪海浜レストラン⑫キッチンカー

イ 心のケアが必要な子ども(不登校等)を対象とした自然体験事業「わくわく自然体験」

(ア) 目的

県内の不登校傾向にある児童生徒を対象に、自然体験活動や交流体験の機会を提供する事業。第1回・第3回・第5回については、いわき市総合教育センターと連携しながら事業を進めた。

(イ) 対象 小学生とその家族

(ウ) 期日及び参加者数

a 第1回

(a) 期日 令和6年5月24日(金)

(b) 参加者 16名

(c) 内容 ①磯遊び・魚釣り②草木染め

b 第2回

(a) 期日 令和6年9月15日(日)

- (b) 参加者 2名
- (c) 内容
 - ①貝殻・シーグラス集め②貝の壁飾り
 - ③ドッジボール・ドッジビー・鬼ごっこ
 - ④ストラックアウト

c 第3回

- (a) 期日 令和6年10月30日(水)
- (b) 参加者 13名
- (c) 内容 ①野外炊飯②貝の絵ろうそく

d 第4回

- (a) 期日 令和6年11月16日(土)
- (b) 参加者 3名
- (c) 内容
 - ①冒険の森散策②交流ゲーム
 - ③アスレチック

e 第5回 令和7年2月5日(水) 22名

- (a) 期日 令和6年5月24日(金)
- (b) 参加者 16名
- (c) 内容
 - ①七宝焼き②キンボール・ペンギンホバーゲーム・卓球・バドミントン

- (イ) 目的
 - 自然の家の利用促進のため、施設及び事業紹介を兼ねて、体験活動のプログラムを提供する。

- (ウ) 期日 令和6年6月2日(日)

- (エ) 対象及び参加者数 一般 200名

- (オ) 内容 貝殻ストラップづくり

オ 出前講座(全2件)

- (ア) 場所 いわき市立中央公民館

- (イ) 目的
 - いわき市内の公民館や児童クラブ等が主催する児童向けの事業において、自然体験活動やクラフト等のプログラムを提供し、当所の活動について理解を深めてもらう。

- (ウ) 期日及び参加者数

a 令和6年6月2日(日) 参加者数22名

b 令和6年6月30日(日) 参加者数25名

- (エ) 内容
 - クラフト(貝飾り、万華鏡など)

(4) 連携事業

ア キッズミュージアムin伝承郷

主催 いわき市暮らしの伝承郷

- (ア) 目的

自然の家の利用促進のため、施設及び事業紹介を兼ねて、体験活動のプログラムを提供する。

- (イ) 期日 令和6年11月3日(日)

- (ウ) 対象及び参加者数 小学生とその保護者 142名

- (エ) 内容 輪ゴム鉄砲射的・輪投げなど昔あそび体験

イ 親子ものづくり講座③

主催：いわき市生涯学習プラザ

- (ア) 目的

施設及び事業紹介を兼ねて、体験活動のプログラムを提供する。

- (イ) 期日 令和6年12月21日(土)

- (ウ) 対象及び参加者数 小学生とその保護者 14名

- (エ) 内容

クリスマスリースづくり

ウ 第20回生涯学習フェスティバル

- (ア) 主催 いわき市生涯学習プラザ

- (イ) 目的

当所の利用促進のため、施設及び事業紹介を兼ねて、体験活動のプログラムを提供する。

- (ウ) 期日 令和7年2月15日(土)

- (エ) 対象及び参加者数 一般 106名

- (オ) 内容

貝の組紐づくり

エ 企画事業「みどりのオープンデー」

- (ア) 主催 郡山自然の家